

レノ

レイトン

あるものなり。又『彼得前書註解』は敬虔の氣に充ち、共に清教徒の精神を涵へたるものなり。...

レナン

二年大監督とせらる。此地位より彼は長老派と監督派との『調和策』を立て、當時のグラスゴウ大學...

レナン

人名 エンネスト Renan, Ernest 一八二二—一九〇二 佛國の思想家、著作者。...

レナン

なる事、モーセ五經の文法及び歴史はモーセ以後のものなる事、但以耳書は默示的文學なる事等を發見...

レノ

レニー

節依を得たる基督とは頗る異なる者となれり。彼は『使徒』(六六)『聖保羅』(六七)等を著したりし...

レニー

人名 ロバート Rainy, Robert 一八二六 蘇格蘭の神學者。グラスゴウに生る。...

レバノン

此合同は一九〇〇年に成就したり。彼は又蘇蘭教會の凡ての論争に與れり。即ち一八七二年には蘇蘭教會に關する『アイン』...

レバノン

地名 バレスチナ Lebanon 山の名。希伯來語『レバニ』(白くなる)の義。...

レベ

レバノンの楡樹松樹及び白樺を伐り海路ヨツマに運りたりき(王上五の六、代下二の八)。而してソロモンはレバノンに建物を建てたりし如し(王上九の十九、代下八の六)...

レベ

人名 レヴィ Levi 又レヴィ 人名 ャコブとレアとの間に生れたる子。此名の意を以ては...

の説と、レアなる母の名を民族的に示せる也といへる...

て、此處に初めてレビ人の祭司なることを記す。此...

利未記 Leviticus. 經名 舊約聖書モ...

1510

1510

1510

利未記

一廿二) 祭司の聖別及び献儀の事(八)...

(二) 神聖律(十七)廿六章) 此十章は大體の形...

利未記 恩祭として食ふべしとの事(一)七(ロ)...

1511

1511

1511

利未記

レの部

レフォルムド教會

レフォルムド教會

レフォルムド教會

べし。九一廿、廿二、廿九、四十一、四十三は神聖律に關し、其他は祭司典に關す。

廿六章は偶像を作り又は之を禮拜することを勿れとの事と、安息日を守るべしとの命令(一、二)とを記し、結ぶに前に示したる法令と誡命とを守りて之を行ふべしとの勸戒の言を以てす(三十一、四十五)。

レフォルムド教會 又は改革教會 The Reformed Church. 宗派名 カルヴィンの教義を奉じ、政治に於ては概して長老主義を採用する教派の名。

(一) 歐羅巴に於けるレフォルムド派 レフォルムド派なる名稱は、獨逸に在りてはルーテル派に對してカルヴィンの神學を奉ずる者ない。此派は主の晚餐に於ける化體説と共に基督共在説をも排斥し、晚餐を受くる時多くは跪くことなく坐して之を受

く。又此派は儀式的簡略を貴び、祈禱書に依るよりも其場合に應じたる臨機の新辭をなすをよしとせり。獨逸に於てはルーテル派と合同の運動起り、普

魯士其他二三の聯邦にては合同したれ共、多くの聯邦に在りては向ルーテル派と對立せり。(獨逸に於ける此派の歴史、其ルーテル派との關係等に就ては『宗教改革論』獨逸ルーテル教會等の條を見よ。蘇格蘭の長老教會、佛蘭西のユウゲノー派及び和蘭、瑞西、波蘭諸國のプロテスタント教會は多く此派に屬す。(此等諸國の條、『長老教會』ユウゲノー派、『宗教改革』の條等參照)

(二) 米國に於けるレフォルムド派 (イ) 米國、グアチ、レフォルムド教會 (The Reformed Church in America) ニカヤムスデラムの最初の殖民者は、學校長と病人訪問者となつて來りし、一六二八年に至りては五十人以上を集めて、ワロン人及び和蘭人の信徒五十人以上を集めて教會を組織せり。是れマンハッタン島の貿易港、永住的農業殖民地となりてより五年後の事にして、其より五十年間和蘭人の移住が續き、紐育州のホドソン河モホーク河流域及びニウセルシーのワッサイイ河ハッテンサック河ワッリウワ河流域に定住せし、母國の教會は能く此等殖民地に牧師を供給し、多年調和を保ちて確實に發達し、一六六〇年英國の該地征服も教會には何等の障害とならざりき。然るに一七一九年教師フリーリッングスホーセンなる者ニウセルシーにて傳道を始め、其熱誠と精神的なることに出で大に成功せしが、彼も其同志も殖民地教會が和蘭に子弟を送りて教育を受けしむるより、自ら教師を養成し按手禮を施すべき必要を感じ、アムステルダムに長老會の許可を請ひ、數年を経てニウセル

(Conseil)なる會議を母教會長老會の管下に關して開くべき許可を得、かくて暫く此計劃を實行したりしが、教師及び教會會議の中には却て舊制を喜ぶ者あり。此等の人々はクーラスより分離して Confœderis と稱する一體を造り、兩派は激烈なる争論を構へ、教會の進歩は之がために阻礙せられたり。一七七〇年に至り博士エチ、イグザンクストンの専ら力に由り合同成り、諸教會をば自治體として結合したり。一七九三年及び一八一二年に此組織を更に完全にし、爾後續て發展せり。教會は初は紐育、ニウセルシー、ペンシルヴァニア諸州の一部に存在せしが、和蘭人連りに米國に移住すると共に、次第に西方に擴がり行けり。一八七七年北米レフォルムド、プロテスタント、カチ教會 (Reformed Protestant Dutch Church in North America) の稱を改めて米國レフォルムド教會 (Reformed Church in America) となせり。

教會の組織の根本は歐洲のレフォルムド教會と同じ。各教會の小會(教會會議)は長老と執事より成る。長老は牧師と共に會員の出入を議し、戒規を行ひ、執事は慈善の事を司る。共に教會の管理者にして、財産を保持し、牧師を招聘す。『教會大會會議』なるものを組織し、退任長老と退任執事は大事件ある時に召集せられて諮詢を受く。或區域の諸教會より各々牧師一人長老一人を出して中會(Synod)を組織す。更に廣き區域の諸中會より各中會が四牧師四長老を出して、特殊大會を組織す。更に各中會より其大小に比例して教師及び平人の代表者を出し、總大會を組織し、斯くて各々其範圍内の精神上の事を司れり。教會には五個の信條あり。即ち使徒信條、ニカヤ信

レの部

レフォルムド教會

レフォルムド教會

レフォルムド教會

條、キケンタ、ワルト (Catechismus Viuis) 白(一五六一年)及びドレドレト教典(一六一八一一年)是也。又ハイデルベルヒ信仰問答(一五六三年)をば家庭及び學校にて教へ、講壇にて説き、四年にて教へ了ることを命ぜり。主の晚餐に列する者は此問答の綱領書を標準として信するを要し、教典は告白及び問答に調印するを要し、幼兒の受洗を求むる父母は信仰の調印を奉じ、又之に従て其子を教育することを承諾するを要す。此教會の一特色は教義と秩序とに熱心を有することなり。

戒規は全く精神的にして、凡て洗禮を受けたる者を律す。其運用は牧師及び長老の手に在り。彼等は主の晚餐式執行毎に預め信徒が信仰不健全となり居らずや、生活亂れ居らずやを調査し、適當の處置を取るなり。之をケンヌラ、モルムムと云ふ。又毎年の長老會にては各牧師及び長老は果して聖書の純粹教義教會にて説かれたりありや、信仰問答諸項より説明され學校にて教へられたりありや、ケンヌラ、モルムムを履行せられ居れりや等を問はれ、細かに之に答へざるを得ざることなれり。此教會には和蘭より傳へられたる式文あり、カルヴィン、プーツェル、ウヤン、ラスキ等の筆を集め、更に増補したるもの也。

此派の外國宣教は一八三二年米國聖書會社外國宣教に附して始めたりしが、一八五七年獨立して活動し、日本、支那、印度のマテラ地方に宣教せり。婦人補助傳道局の事業又盛なり。内國傳道局は一八三三年に立てられ多くの教會を補助す。(ii) 合衆國レフォルムド教會 (獨逸) (The Reformed German Church in the United States) 此教會の起源は半ば獨逸に於てツラインクワイヤー初

めて改革を唱へし時に起り、半ば獨逸に於ける改革の時に起れり。獨逸のプロテスタント教會の一部は全くルーテルの説に従ふ能はず、又全くツラインクワイヤーの説をも信せず、此を以て獨逸にてはメランクトンの下に一の傾向を生じたり。是れ後に至りてはカルヴィンが其大神學者たるを以て言ひ表はしたる傾向なり。フリードリッヒ三世が選ばるなりし時、特權選侯領の教會は此メランクトン派の流のなりき。侯は領民に眞教義を示さんとしてハイデルベルグ大學の兩教授ツァカリアス、ワルツノスとカスパー、オレグイアヌスとに命じ信仰問答を記させしめ、一五六三年自己の監督の下に之を公せり。此問答が獨逸のレフォルムド教會の信仰標準となり、和蘭、匈牙利、ボヘミア其他の改革教會に依て採用せられしなり。合衆國日耳曼レフォルムド教會は之を唯一の信仰告白とせり。而して教會内には佛蘭西ユウゲノー派の子孫あり。其先祖少數の團體にて米國に殖民し此教會を加はりたるなり。

獨逸人の米國移住は既に一六八四年に始まりしが、其多くは特權選侯領の迫害を避けて逃れ來りし者なり。殖民は第十八世紀に入りて續き、紐育州テラワニア河ハイ河サスケーナ河地方、メリーランド州ワッレニア州南北カロライナ州に殖民地を造りしが、ペンシルヴァニアは最も大なるものなりき。一七三〇年頃米國最初の獨逸レフォルムド派牧師の一人ゲオルグ、ミカエル、ゲアイスの和蘭國大會に報じし所に依れば、米國には特權選侯領及びナッサウ、ワッテラ、ワイトゲンズマイン地方より行きしレフォルムド教會の徒頗る多かりしとせり。最初の牧師はフイリッパ、メーメにして、彼は一七二〇年米國に行き、暫く學校教師に招かれ、後にホイットヘーン教會の牧

師に選ばれたり。一七四六年此教會の米國に於ける始祖ともいふべきミカエル、シムラツァレル(Shlater)來り、四七年九月最初のツライッス(大會)アムステルダムに長老會附屬として組織せられたり。九三年大會は諸長老會に分轄せられ、次でハイオイ及び附近諸州大會を分設したり。兩大會は關係親しかりしも有機的の關係なりしなり。一八六三年憲法を改正して總會を組織したり。合衆國レフォルムド教會はレフォルムド教會の一派にして、ルーテル教會とは主の晚餐の教義に關して相異り、英國教會とは教義の同等主義、政治上の長老主義及び禮拜の異なる形式に於て相異り、嚴密なるカルヴィン派レフォルムド諸教會とは種相なる預定説を取る點に於て相異れり。此派の外國傳道會社は日本、印度及び北米印度人に傳道し、内國傳道會社は重に獨逸よりの移住者に傳道せり。

(ii) レフォルムド長老教會 (The Reformed Presbyterian Church) 一八七三年レフォルムド教會より分離したる教派にして、米國監督教會の監督カミンズ (Cammie) 監督教會より離れて來り投じ、密に働くべき監督を有するに在り。此派今は凡そ一百人の教師を有す。英國にも此主義を賛成する少數の人々あり。蘇蘭の監督教會は之と關係を有せざれ共、其性質此運動と相同じ。(iii) 『長老教會』の條を見よ。以上米國に於けるレフォルムド教會 (レフォルムド監督教會を除く) は一九〇七年の調査に依れば、教會二千五百九十六箇、教師一千九百九十九人、會員四十三萬四千五百八十八人を有す。

ロの部

煉獄説

煉獄説 The Doctrine of Purgatory. 羅馬教の教義にして、此教義は不完全なる信徒は楽園に入るために、中間の状態に在りて...

ロの部

ロー ウィリアム Law, William

人名 一六八六一一七七一 英國の信仰的文學の著者。ノルサンプトンシャーのキングスクリフに生れ、...

ロアジー アルフレッド Loisy, Alfred

人名 一八五七 佛蘭天主教會の神學者。アラブリエールに生る。一八八一年巴黎加特力學院の教授となり、...

ロイス エドワード Loisy, Edward

人名 一八〇四 獨逸の歴史神學者。ストラスブルヒに生れ、同地大學の教授たり(一八三六—一八七二)...

ロイヒン エルンスト Reichlin, Johann

人名 一四五五—一五三三 獨逸の神學者。ホルハイムに生れ、一四七〇年フライブルヒ大學に入り、...

ロギア Logia

書名 希臘語「神託」の義にして、聖書學者が曾て存在したりし假定せる耶穌の「説教」集に適用せる名。...

ロギス Logos (ὁ λόγος) 術語

希臘語。古典にては「言語」又は「理性」の義を有し、聖書にては數箇所を除くの外「言語」の義に使用せらる。...

ロの部

ロイヒリン

版に直れる拉丁字典を公にし、拉丁、希臘學講義を開き、土地の神學者等は希臘學講義は不敬の事にして人民を羅馬教會より引き去るの恐ありとせしむ...

ロイヒリン

り。皇帝はマインツの選侯を介して猶太人の書物焚燬事件に關しロイヒリンに覺書を出すべきを命じければ、ロイヒリンは之を提出せしに、帝は之をヘッフェルコロンに示せしに、彼は一五二〇年の自著「手鏡」に載せ、猛烈なる攻撃の註を加へたり。...

ロギア・ロギス

て彼は常に之を己が詩とせしが、ルイナル現はるゝや此も彼を離れて改革者に黨したり。...

ロの部

ロイス

ロイス

ロイス

る。然れ共新約に於ける此語の意義は、使徒約翰が之を用ひて化身前後に於ける神の子を指したるに在り。約翰は舊約に於て六回之を引用せり(約一の一、一四、一七、一八、一三、一三、一三)。而して福音書には單に「道」と稱し書翰には「生命の道」と云ひ、黙示録には「神の道」と云へり。是等の場所に在りては此語は何れも福音に適用せられたるものなれ共、新約聖書中此語が福音に適用せられし處其他にば之れあるなし。

第四福音書に依れば、耶穌基督は永遠より存在せる神格の化身にして、神は彼に依りて有限の宇宙に對する活動を現はし、彼は神の性質と意志とを完全に顯現するが故に「道」と稱せられたり。斯く約翰は約一の一、二に於て「道」の神に對する關係を示して「太初に道あり、道は神と偕に在り、道は神也、此道は太初に神と偕に在りき」と言へり。「太初に道あり」といふは、ロイスの存在は永遠にして、無限の範圍に關するを示し、「道は神と偕に在り」といふは、ロイスと神との關係は永遠にして、ロイスは神に非ず、然れ共神と最も密接の交通あるものなることを示し、又「道は即ち神也」といふは、ロイスは其性質に於て神と均しきを示す也。三一五節はロイスと宇宙との關係を示せるものにして、之に依れば萬物はロイスに依りて造られ、世界に生命あり人類に知識あるは、ロイスが其已に満てる生命と光明とを之に與ふるがためにして、神の顯現はロイスが肉體となりて人類の間に宿れるに至りて其頂點に達したる也。

根本的傾向には非ず。今先づフィロソフのロイス思想を概観せん。以爲らく、神の思想が顯はれて吾人の眼に見ゆる宇宙となれるは、宛も人の思想が言語となりて顯はるゝが如し。人の真に在る知識が言語となりて外に顯はるゝが如く、神の心にのみ存在せる世界は顯はれて吾人の眼に見ゆる宇宙となれり。故に宇宙は神の理想の顯現也。而して理想世界に在りて其秩序と調和とをなす處のものはロイスにして、吾人の眼に見ゆる此宇宙に發見する秩序と調和とは又此ロイスより出て來れる所のもの也。故にロイスは其内面に在りて神の思想にして、其外面に於ては神の道(言語)也。道とは吾人の眼に見ゆる宇宙に顯はれたる合理的秩序の謂にして、今日の語を以ていへば法則也。故に此法則を理解するは即ち神の理想の顯現を理解する也。フィロソフは又神は絕對の一致也とのことを主張せるを以て、神を以て天地の終極的原因となし、天地を創造せるものはロイス也とせり。斯く彼はロイスを以て神が天地を創造するに力を用ひたる器械となしたりしを以て、彼に依ればロイスは神と人の中間に位置する者にして、神の如く生れざる者にも非ず、又人の如く生れたる者にも非ず、永遠に生れたる者、換言すれば時間内に存在せざる者にも非ずして、永遠に存在する者、而かも自ら創造せる者に非ずして神の創造力に依りて存在せる者、約言すれば、造られたるに非ずして永遠に生れたるもの也。而して又ロイスは神の道として「神の長子」又「神の初生子」と呼ばれ、單に見ゆる宇宙の秩序及び調和を保ち、個人及び國家の運命を支配する法則也と思惟せられたり。故に又ロイスはアダム又は「地の人」に對して「神の人」又「天の人」と稱せられ、而して神に

非ずして神の像也との點より「第二の神」と呼ばれ、又ロイスは神と人の中間に在り、而して人は合理的なる存在としてロイスの像也との觀念より、ロイスは又神人間の仲人、仲役者又は祭司長と呼ばれたり。斯くの如くフィロソフのロイスなる者は顯る第四福音書の思想と類似する所あるを以て、後者が前者の影響を蒙りたるが如く思惟するは一應尤なるが如くなれ共、其影響を蒙りたるは思想の表出法にして、其宗教的觀念には非ず。是れハルナックも亦承認する處にして、彼は「新約聖書記者は希臘的教化に依りて生じたる精神的空氣を呼吸せしめ、彼等の宗教的觀念は舊約聖書に詩篇及び預言者より來れる者也」と言へり。今フィロソフと第四福音書との相違を述べんに、フィロソフが神を以て絕對的に人智の領解し難き者となせるに反し、第四福音書は神は愛也としてロイスに依りて顯現せられたりと言ひ、フィロソフがロイスを以て神と同一也となさず、其活動の産物也となせるに反し、第四福音書はロイスは神と偕に在り、ロイスは即ち神也と言ひ、又フィロソフが神の思想たるロイスと違つたロイスを區別せるに反し、第四福音書記者は斯る區別を設けず、ロイスを以て神自らの顯現となせり。蓋しロイスなる語と思想とは當時廣く行はれたりしものにして、當時希臘は東方諸國を征服しし勢力隆々たりしを以て、何物も之の影響を免るゝ能はず。第四福音書記者も亦フィロソフと共に當時廣く行はれたりし言語を採用したりしと雖も、彼が宗教的觀念は全然猶太人的にして、彼は彼に最も深き印象を與へたる耶穌の人格に於て神の最も完全なる自現を見出し、ロイスなる名稱を以て最も能く神の自現の思想を表白し得べしとなして此語を採用したりし也。

ロの部

ロイス

露西亞

露西亞

約翰ロイス思想の根源は之を舊約及び舊約以後の文書に發見するを得べし。即ち創世記に於て天地創造は神の言に歸せられたりしが、之れより天地創造及び神の攝理の詩的叙述に於ける神の言を擬人化する(こ起れり(詩三三の六、百七の廿、百四十八の十五、百四十八の八)。更に高調せられたるは啓示の「神の言」と呼ばれたることにして、是より「エホバの言葉」又「イザヤの見たる言」(賽二の一、米一の一、摩一の一)といへるが如き言語起り、神の言を語られたる、又は書かれたる言を區別するの傾向を生じたり。之と共に起れるは「エホバの使」又は「契約」が或る時は神と同一視せられ、或る時は區別せられたる事(創十六の七、一三、廿一の十七、十八の十三、出三の二六、十四の十九、廿二の廿、廿三、廿四の廿四、書五の十四、十五、十二の一、五の廿三、六の十一、廿二、亞一の十二、三の一、馬三の一)及び神の「名」(出三三の廿一、王上八の廿九、賽卅の廿七、詩五十四の一、耶十の六等)「神」の現存(出卅三の十四、申四の廿七、賽六十三の九)及び「榮光」(出卅三の十八、四十の卅四、王上八の十一)が擬人化せられたる事也。此等の或る句がエホバを以て特殊の人格的機關に依りて自己を顯現せりとなせるは明也。希伯來思想が啓示の媒介者として人格的となすの傾向ありしことは、又晩代の文書に於て「智慧」を人格化せることに於て顯はる(伯廿八の十二、廿八、箴八の廿二、卅一)。此傾向は正典以後の文書に於て一層明に顯はれ「ソラフの子イェスの智慧」(一の廿四)に至りては、智慧は一層大膽に擬人化せられ、創造せられたるものにして、此世界に以色列人に顯はれたりとなされたり。又此世界以前に存在せる者として記されたり。尤も此書の他の

部分(廿四の十四、廿三)に在りては、其叙述尙半ば詩的なるを示せり。ソロンノの智慧は更に進んで智慧に實質的存在を歸し、之を以て「神の力の呼吸、全能者の榮光より發する純淨なる流出」也とせし。故に智慧は任何等の汚濁なしと言ひ(七の廿五、廿七)又「永遠の光の射出、神の流出の汚れなき燈、神の善の價」等と言ひ(八の三、五、九の四、九、十)又神の言(ロイス)萬物を創造せるもの、審判をなすもの(九の一、十八の十五)として記せり。此書は蓋し亞歷山哲學の影響を受けたりしなるべし。然れ共此傾向は又マルカムにも顯はれ、此に在りては更に第四福音書に似たり。此の如くロイス思想は猶太に於て漸次發達し來れるものにして、約翰は其表出の法に於てはフィロソフに負ふ所ありと雖も、其宗教的思想は全く猶太的なる也。「ヨハネ」の條約翰の神學の項参照。ロイスの教義に關して詳なるを知らんことを、マイエル、ゴーター、ウエストコット、ルメートル等の約翰福音書註釋、ワットキンの「近世神學と約翰福音書」(一八九〇年)、バントンの講演「タローアの『約翰福音書』」スチーヴンスの「約翰神學」ワイズ、ハインツの「新約聖書神學」、オエレル、シヨレルの「舊約聖書神學」、ワッセルの「猶太人民史」ツェレル、ユートル、ウエグ、リッテルの「希臘哲學史」ハインツの「希臘哲學に於けるロイスの教義」、オールの「希臘哲學に於けるロイス教義の歴史」等を見よ。

露西亞 **Russia**. 露西亞は世界の最も廣大なる國にして、其廣袤大英國全領と相及ぎ、八百六十六萬方哩あり。近時國會を開き立憲制度を採用したれ共、皇帝の權力は尙極めて強大也。帝國一般の宗教は東方正教會即ち希臘教會にして、人民の四分の三は之に屬す。法律に之を規範的信仰となし、他の基督教派は勿論、猶太人、モハメット教徒、異教徒にも信仰の自由を與ふることなし。然れ共、基督教徒は露西亞教會に改宗することの外に他派の基督教に歸することを得ず、非基督教徒は露西亞教會に入る外、他派の基督教に入るを得ずとせられ、國教會に背きし者は懲罰を加へられ、追放等の刑に處せらる。

基督教徒に次で多數なるはモハメット教徒にして、其數は中央亞細亞に於ける露國境界の擴張と共に増加し來れり。一八九七年に於けるモハメット教徒の總數は一千二百十五萬人、猶太人は四百萬人、異教徒は二百七十萬人、希臘正教會は分離せられて九千六百人、羅馬教徒は一千二百廿萬人あり。波蘭分割前は露西亞に於ける羅馬教會は定まれる組織を有せざりしが、一八一八年以後組織立ち、國王の命令にて確定せられたり。

露西亞は波蘭の分割に由り羅馬教徒を國內に入れしが、又バルト海地方と芬蘭を合せたるに由りてローマ教會の徒凡そ三百萬人を加へたり。此徒は全教會政治に自由を得、其内地の大區の管理の下に禮拜をなしつゝあり。然れ共國教會には毫も干渉することを得ず。此外レフカドス教徒凡そ廿萬人あり。其半はリトニアに住す。又凡そ六萬人のウクライアン教徒をも有す。一八七六年頃にはメノノイ徒も凡そ一萬五千人ありしが、其後米國へ移住せし者多し。獨逸浸禮派宣教師も多少存す。プロテスタント教徒の總數は一八九七年には凡そ六百七十五萬人に上りたり。アレゴリウス派アルメニア教徒も一八二八年以後は露西亞の臣下となりしが、此派は凡そ六七十萬人あり。

ロの部

露西亞

さて國教會は第十世紀に起りたるものなるが、古傳説に従へば、福音を先づ斯塔テア人に傳へたるは使徒アンデレなりと云ふ。然れ共歴史上何等の證據なし。九八八年ウラヂミール大侯は、其廷臣全體と多くの臣民と共にドニエール河にて洗禮を受け、新に國教會を立て、久しくコンスタンチノール教長の下に屬せり。されど土耳其人がコンスタンチノールを征服後(一四五三年)大侯テオドルはモスコに一教長をを立てんことをコンスタンチノール教長に請願せしに、承認ありしが、同教長職は一五八八年に立ちたり。歴代の同教長中最も有名なりしはニコン(一六五二—一五七)にして、此人は禮拜書の多くの點を改訂せしが、大反對を受け、宗派分裂してスタロウキイ即ち舊信徒と稱する者出て、今日尙存せり(末項露西亞分派教徒の項を見よ)。

一七二一年ハテラ大帝復た改革を行ひ、モスコの教長職を廢し、之に代ふるに神聖教務院(Holy Synod)なるものを立て、教會の首長露西亞皇帝の最高機關となし、合議體となし、十二人の議員より成る。露西亞國教會の教義、教規の純正を維持し、教會の事務を監督し、僧職の任命、賞罰、出版物の檢閲、婚姻及び離婚の裁判等の事を司る。モスコに分院を置き、又地方には地方教務院を置き、地方の教務を掌らしむ。露西亞教會は六十四教區に分たれ、各區監督の支配の下に在り。監督は三級あり。第一級は大部監督にしてキエウ、モスクワ、ハテラブルグの三所にあり。次は大監督にして、第三は監督なり。此等の外に代等即ち選舉監督あり、此は副監督なり。以下の僧侶は白司祭即ち在家僧と、黒司祭即ち庵僧とに分たる。

信條は紀元三二五年のニカヤ會議信條に、三八一年

露西亞

のコンスタンチノール會議信條を加へたるものなり。他の基督教會議と異しく、露西亞教會は「フイリクエ」てふ語を排し、聖靈は父よりのみ出で、父と子より出づるに非ずと論ず。彼等は又三二五年より七八七年迄の七世界會議の決議を真心に結ばれたるものとして受く。これプロテスタント教會との間に合ふべからざる點となれるものなり。

彼等は七禮典を典義と稱へて守れり。洗禮、灌膏、晩餐、告白、任職、結婚、病者灌膏これなり。小兒生るれば僧は遣はされて母の身の上のために祈りなまし、小兒の名を命ず。名は大抵其生日の洗禮日を命じ、小兒は三回洗禮内の水に浸して洗禮を行はる。されど露西亞教會は水を注ぎかける洗禮の有効を承認す。此點希臘の教會と異れり。誕生してより四十日間は母子共に教會に至り、母の涙と小兒の受入を蒙る。灌膏は羅馬教會の聖信禮と同じく、監督の聖別したる香油を以て僧侶の執行するものなり。通例洗禮後直ちにに行はる。其後以上は香油を以て指定の首を唱へつゝ、小兒若くは大人改宗者の頭に注ぐなり。聖餐は水と葡萄酒を以ては神聖と稱せられ、種を以てし葡萄酒を混じたる葡萄酒を用ひ、二元素を以てし葡萄酒を混じたる葡萄酒を用ひ、其他の陪餐者は金の匙を以て酒に浸したる聖別の蠟燭を受く。大人陪餐者は立つて之を受け、小兒幼兒は之に與る。露西亞にては聖餐は一年一回大齋の時復活節に最も近き且に行はるゝを常とす。蠟燭取及び全食も行はるゝ。羅馬教會と同じ。されど蠟燭は時として教會にて公にせらるゝことあり。他人に贈えざれ共見ゆるなり。蠟燭者は十誠に就て問はるゝ場合多し。露西亞教會は教區の三

露西亞

級、即ち監督と長老と執事とを神定なりと認む。されど其外の大監督、大監督、長老、僧長、僧長、執事、副執事、副執事、副執事、副執事等をも認む。教職任職式は監督のみ行ふ。結婚は最も莊重に行はれ珍奇なる式も多し。殊に新大婦に戴冠するを最も重き事とす。冠は時として金又は銀にて造られ、其ために指定せられたる友人を冠らす。冠は勝利と喜悅の記號なるを以て、此は基督教徒の勝利と新生活に入る喜悅を表はすなり。監督や庵僧は結婚を禁ぜらる。在家僧と執事とは任職前ならば結婚を許さる。然れ共再婚は許されず。平人は夫婦の一方死にしたらば三回まで結婚を許さる。されど四回以上は許されず。離婚は露西亞にては珍らしからず。病者灌膏は羅馬教會の臨終油と異り、病氣回復の祈りと共にに行はれ、儀式甚だ長く、正式に行へば七人の僧を要すれ共一人にても行ひ得ることとせらる。

ハテラ大帝は始めて諸教區の首都に學校を立て、小兒等(特に僧侶の子等)にこゝにて教育を受けしめたり。其等の學校は此の百餘年間神聖教務院の支配に屬し來り、國中學校區域あり。ハテラブルグ、キエウ、モスクワ、カザン、ウラヂミール、各處の上に教會アカデミー校あり。各アカデミーは一人の司長、(庵僧二人のヒエロモナク(庵僧二人の司長、諸教授より成る。大部監督の監督、神聖教務院の決議に従ひて處理す。ハテラブルグのアカデミーは凡ての中心にして、神聖教務院の決議は之を經由して他校に達す。以上の諸アカデミーの下に監督區神學校あり、其下に多くの巡回區學校及び教會區學校あり。學生は初め教會區學校に入り、二年修學し、巡回區學校に進み、監督區學校に進み、アカデミー

ロの部

露西亞

に進む。各三年又は四年を年限とす。露西亞教會は其神學を聖書、東西教會分派前の師父文書、其後の東方教會師父文書より取る。平人も聖書を讀むことを許さる。露西亞教會の最も有名な神學者は、ハテラ、モスコ(Peter Mogila、一六四三年正教告白を全にせり)アダム、ツェルニコウ(Adam Zerkhau、一六八二年「聖靈の父よりのみ出づる」を著す)テオファナス、プロコパウナ(Prokopius Troopovich、一七〇九「バステフ作す)ロスツフのデメトリウス(一七〇九「バステフ作す)、ヤワオレスキー(Stephan Javorsky、同じ頃の人にして、希臘馬教に傾く)ツァドンスターのニコラ(Nicholas Zadonsky、プロテスタントに好意ありし人)等なり。アラウイ、フ(Alouyev)プラトナ(Platon)フィラノ(Philare)アウ、ゲラチー(Alexis Guelaty)大同聖バサロフ(The arch-priest Barlaam)等の歴史及び教義書また讀むの價あり。露西亞分派教徒、總稱して「ラスコルニク(Raskolnik)」と云はる。此名は露西亞語「ラスコル」(裂けたる)より來り、分派派離教者といふ如き意味なり。露西亞國教會より分離せる者なば皆此名を以て呼べり。聖書が希臘語より翻譯せられたるは第九世紀中スラヴ人の使徒キリロス(八六九年死)とメトディウス(八五五年死)の手に依り、儀式書は稍や後れて成りしが、翻譯者も轉寫者も知識缺乏したりしかば、スラヴ人教會文書は誤謬多く、訂正を要したり。且第十七世紀までは教會の僧侶は教會區民の選舉にかゝり、人民は教會行政の上に勢力を有し居たるに、教長ニコン(一六五二—一五八)知識すぐれて專制的傾向の人なりしかば、儀式書を訂正し、僧侶の任命及び教會行政の權を専ら監督の手に收めんとす

露西亞

し、此企は皇帝に助けられて成功せり。されど多くの僧侶及び教會區は此改正儀式書を承認し、監督及び教長の上層に服従するを肯せず、此に於て大分離起りたり。

もと「ラスコルニク」は主義より儀式に於て國教會と異り、自らスタロウキイ(Starovki)即ち舊信徒と稱し、新信徒即ちニコン派に對し、改正に依て修正せられし或點を神聖なりとして舊のよみに維持せり。即ち舊禮拜書のみを用ひ、十字架を畫くに三本の指を以てせずして二本を以てし、ハレルヤを唱ふることを用ひず、八尖端ある十字架のみを用ひ、禮拜の間左より右に向き反りて右より左に向き、自己等の教會のみを參詣し、教會外の者をば不淨者とし、耶蘇をば「イスス」と呼ばずして「イスス」呼び、神の像を汚すの恐れありて決して觸るを制らす、煙草を用ひず、種痘を行はざるなり。此分派は時の進むに従ひて諸派に分れ、其意見は大に融和を受け、今日にては或派は主義上露西亞教會と異ならず、或派はアルメニヤ教徒又は歐洲プロテスタントの最も進歩せる派と相似たり。

「ラスコルニク」は二種あり。一はボボウツナ(Bobovits)即ちボボ(師父又は僧)あるもの、他はベツボウツナ(Bezbovits)即ち一定のボボなきものなり。前者は舊信仰の特色を維持するものなれ共、其の多數は新信仰と自己等との間には教義上の差はなきものと信じ、國教會に對して友情あり。エティノウセルナ(Etinoverty)即ち同信仰の者と呼びたり。アレキサンドル二世は彼等に禮拜の自由を許したり。其舊き教會は開放せられ、新しき教會建築せられ、其派の大監督はモスクワに住めり。彼等は

露西亞

僧統政治を承認し、自派の僧と監督とを有す。されど其一部は皇帝と教會とを狂妄的に否認し、之がために危險者視せらる。ドシナイ(Doshnai)の徒の如きは其なり。ベツボウツナの方は凡ての基督教徒皆祭司(僧)なることを主張し、特別の僧統の必要を唱へ、黙示録の一の六の基督は我等を神の前に王とし祭司とせりといふを引きて之を證す。されど教會には何人か最も能く聖書を學びたる者一人を擧げて精神教師となす。素より之には特別の權威もなく、按手禮を受くることを要せず。彼等は以爲へらく、我等は「基督の體」の世に住めり。『聖』とは現代社會、「生るゝ」とは基督教義より遠ひ去ることを意味すと言ひ、今日權威となれる者は皆「基督の體」の臣僕なり。故に其等のために新らるは罪なり。教會は基督の信徒には不必要なり。保羅曰く「汝等は神の殿にして神の靈汝等に住むを知らずや」と(哥前三の十六)「基督の體のものなれば儀式も皆廢すべし」と唱ふ。ベツボウツナの中には急進主義の派あり。或者は監督の權威を認めず、自己等は唯上りの靈感に導かれのみなるを信じ、聖なる像を崇めず、宗教會を守らず。或者は蓋にて印刷せられたる聖書を信せず、唯己等の心と良心に置かれたる聖書を信するのみと唱ふ。ベツボウツナの各派中著名なるものは次の如し。

(一) フィヨルナ徒(Philippines) フィアプ、ブストライアト(Philipp Pastorski)の改宗者、此徒は洗禮儀の二禮のみを守り、皇帝へ忠誠を誓ふを拒み、皇帝のために斬らず、軍務に服するを肯せず。

(二) テモリアキ(Temoliki) 斬らぬ徒といふ意味にて、ベツボウツナの極端者なり。信條を三點

ロの部

露西亞

露西亞

露西亞

に約し、之を新約聖書の研究、精神的刷新、清潔な生活となす。開祖はコサツクのツイエン (Zhuin) なり。彼等は言ふ、世界には四時代あり、創造よりモーセの時までは春即ち先祖の時代、モーセより基督の誕生までは夏即ち父等の時代、基督の誕生より一六六六年露西亞教會監督等がスコルニクを宣明せし時までは秋即ち子等の時代、其より今までは冬即ち聖靈の時代なり。又曰く我等の時代には外形の儀式は少しも要なし。

(四) ワキツアイカナンチ (Vachkhan) 歎息者といふ意。此徒は唱ふ、舊約時代に於て父なる神の治世あり、新約時代に於て子なる神の治世あり。世界の創造より七千年目終りて聖靈の治世始まる。今日には眞の信するもの精神的の祈と歎息とに依り聖靈に事へざるべからず。此徒と前のチモリアキとは聖書を譬喩として解釋し、自己等の見に當つ。其成者は神は祈らずとも必要なるものを知れば精神的刷新さへ要せずと唱ふるに至れり。

(五) ゴゴギチチ は聖靈の存在、否置物及び靈的生命の存在を否定する者にて、唱へて曰く、人格的の神は存在せず。神は敬虔なる人々の社會より以外の別物に非ず。神は善人なりといふが彼等の積習なり。彼等は死後の生命を信せず、故に天國の地獄もなしと言ふ。聖書の權威を否定し、生ける書物に依りて導かるるを信す。生ける書物とは自己等の傳説の事なり。されど其等の傳説は自己等の説に都合よき聖書の句に外ならず。彼等は又以て爲らく、基督は今日の善人と同等なり。神は靈なれば拜する者も靈を以ててべし(約四の廿四)は彼等の常に引く句にして、彼等は曰く、吾等の中に靈あり、故に我等は神なり、故に生ける善人を崇むべきなり。彼等は男と女と小兒とを問はず互に相禮す。希臘教會の儀式をば無視し、且自己等は神の民にて此世のものにあらず、故に此世の權威の下に在らずとて、皇帝の權威を否定す。戰爭にも反對して軍役を避け、皇帝のために祈らず。

(六) モロカチ (真乳者) は自ら眞の精神的基督教徒と稱し、新約全書のみを信じて之を自己流に解釋す。曰く、水の洗滌は無効なり、眞生活と善行に依りてより清めらるるが眞のバプテスマなり。彼等は凡ての儀式、十字架を高くこぞ、祈、神殿等に反對し、自ら凡ての國法より超越自由なりとし、其理由として『主の靈の在る所には自由あり』(哥後三の十七)の句を取れり。

(七) オプスキエ (共產徒) はモロカチの一支派なるが、共產の點に於て異れり。凡ての社には選舉せられたる十二使徒ありて労働を指揮し、財産の分配を司れり。

(八) スタンクイスト徒 は一八六〇年より世に知られし徒にして、國家と教會の束縛より脱せんを求め、凡ての人聖書を自由解釋するを得と唱へ、僧侶の階級政體は無効なり、十字架及び聖書を崇むるは無意味なり、七聖典の中にて洗滌と晚餐のみ保存すべきものなりと唱ふ。

(九) カリスチ (自述者) 此徒は次のスコプチニは分離教徒中に組織せらるる者なり。カリスチは教會の儀式を認めざりしも、自己流の多くの儀式を有す。彼等は過世者にして結婚生活をば最大罪と視、人性を絶えず歎ひ、之がため宗教的公會にても私の所にては絶えず自ら鞭撻す。彼等は其徒の中に時として萬軍の主エホバが同行者の一人の身を取りて現はるる事、基督及びマリヤの體々其間に現はれし事を信じ、其徒の預言者及び女預言者に盲目的に服従す。晝夜自ら鞭撻し水を呑むる體を周りに其體當せる精神に依りて基督又は聖靈を見たりと信す。

(十) スコプチ (肢體自斷者) カリスチ派の極端なる分派にて『若し汝の右の手汝を誤らば切り取して棄てよ云々』太五の三十』を文字通りに行ふ徒なり。

此等分離教徒は政府と教會が其傳播を仰へんとするに拘はらず、年々其數を加へ、露西亞人口の百分六に上り、内ベツゴロウナ九百萬、セボラチ三百萬、精神的基督教徒二百萬、カリスチ及びスコプチ六萬五千人と數へらる。分離教徒は總じて國家及び教會より危險分子と認められ、鞭撻に取り扱はれ、死刑、身體切斷、拷問、鎖鎖、西伯利亞追放、其他の刑罰は自由に彼等に課せられ、第十八世紀には彼等の多數は西伯利亞森林中に墜れ、其遺體せらるるや彼等は基督の撒たる皇帝の手にて種々の罪を受けんより、寧ろ笑ひ談するること能はるとしたり。近年

ロの部

ロージャース

ロージャース

ロック

の法律にてはゴゴワチは寛容せられ、マツゴボウチは多くの公權を奪はれ、カリスチとスコプチとは犯罪者として取り扱はれ、西伯利亞又は高加索に移さる。分離主義の傳播者は一年乃至六年の投獄を以て罰せらる。ゴゴワチ、モロカチ、カリスチ、スコプチ、其他皇帝に納税せざる徒は最も危險なりとせられ、西伯利亞高加索にても止教會人民の間に住することを禁ぜらる。一八八三年六月皇帝の勅命に由り、カリスチ(分離徒)は或る公權を或る禮拜上の自由を許され、内務大臣は神學教務院の議長の同意を得て、カリスチに新會堂又は新禮所を開始、再興、改築することは勿論、新建することを許したり。かくて分離教徒は會堂又は私宅にて各自の式に従ひ禮拜をなすを得ることとなりしが、會堂を開く事、及び公の行列をなす事は禁ぜられ、會堂は正教會の形を取らざるべからず、鐘を外面につくべからずとせられ、正教會の徒に向つて分離主義を傳ふることを嚴禁し、其等の教師には正教會僧侶等に與へたる特權を與へざるべしとせり。

ロージャース ジェームス キンチス Rogers, James Guinness 人名 一八二二 愛爾蘭會衆派の神學者、エンニスキレンに生る。一八四六年よりニウカッセル、オン、タイン(四六・五一)アストン、アムダー、ライン(五一・一六五)クラフム(六五)等の牧師に歴任し、一九〇〇年退職す。彼は禁酒及び労働者家内生活の如き社會改良事業に深き同情を有し、之がために努力せり。其著書には『基督教と其證據』(五〇)『基督教眞理と義務の方面』(六二)『第十九世紀の教會組織』(八一)『現今の宗教及び神學』(八七)『世界のための基督教』(九五)『基督教の理想』(九八)等あり。

ロージャース ヘンリー Rogers, Henry 人名 一八〇六・一七・一八三九 英國の論議家。暫く獨立の牧師たりしが、一八三九年倫敦ユニバーシティ、カレッジの英語及び文學の教授となり、次でスプリングハル、カレッジの哲學教授となり、五八年博士ゴットマンの後を繼ぎてマンチェスターのランカシャー獨立學院校長となり、死する少し前に至る。彼は一八三九年より五〇年迄『エッセイ』と稱する所を反對して殊に有名なり。『信仰の日誌』一名宗教的懷疑者を訪ふ論議(『ニーマン』に反對せる書)は其名を高からしめし著なり。其他多くの著書あり。

ローズ ヒュー ジェームス Rose, Hugh James 人名 一七九二・一八三八 英國の教會の神學者。ハノー、ジョン、ロージの兄。アックフィールドに生れ、一八一七年劍橋トリニチ、カレッジを卒業し、二二年より三〇年迄ホルスハムの司牧たり、三〇年サフォルクのハドレーの司長となり、三四年エセックスのフエアスタッドの教給を得、又聖トマス(の)の教給を受け、三六年倫敦キングス、カレッジの校長となる。博學にして高教會主義を奉じ、所謂小冊子運動の創始者は此人なりと言はる。『エンサイクロペディア』を編輯し、『新傳記字書』を計劃したり。

ローズ ケンター ジョーン Rose, Henry John 人名 一八〇一・一七三 英國の教會の教職、著述者。アックフィールドに生れ、一八二一年劍橋トリニチ、カレッジを卒業し、二四年フエローとなり、三三年ハルシアン講師となり、『偉大人の歴史と性格』より見たるモーセ法』を講義し、

ロック ジョージ Lockes, John 人名 一六三二・一七〇四 英國の哲學者。ウーリムトの司長となり、六六年ヘッドフォールドの大執事となれり。『エンサイクロペディア』、『メトロポリタナ』を編輯し、又其中より取りたるものに更に多くの點を附加して『一七〇〇年より一八五八年に至る基督教會歴史』を出し、又『新傳記字書』の第一巻を編輯し、『スエーカリス註解』中の但耳書を書けり。蓋約聖書改譯會の會員なり。

三七年ヘッドフォールドの司長となり、コングレストの司長となり、六六年ヘッドフォールドの大執事となれり。『エンサイクロペディア』、『メトロポリタナ』を編輯し、又其中より取りたるものに更に多くの點を附加して『一七〇〇年より一八五八年に至る基督教會歴史』を出し、又『新傳記字書』の第一巻を編輯し、『スエーカリス註解』中の但耳書を書けり。蓋約聖書改譯會の會員なり。

一六三二・一七〇四 英國の哲學者。ウーリムトの司長となり、六六年ヘッドフォールドの大執事となれり。『エンサイクロペディア』、『メトロポリタナ』を編輯し、又其中より取りたるものに更に多くの點を附加して『一七〇〇年より一八五八年に至る基督教會歴史』を出し、又『新傳記字書』の第一巻を編輯し、『スエーカリス註解』中の但耳書を書けり。蓋約聖書改譯會の會員なり。

ロの部

ロッカ

ロッカ

ロッカの部

入れ、之がため同大に於ては十九世紀の前半まで其の盛んなるを見たり。ロッカは又ウオレスターの監督スチルンゲフリートと激しく論争す。監督はロッカの實體の説を以て三位一體の教義を無視するものとなせし也。ロッカは又宗教寛容論を著し、當時に稀なる程自由を唱へしが、無神論者及び天主教徒は寛容するを要せずと説きぬ。聖書と基督教には深き所に信仰を有し、九五年には『聖書に引き出されたる基督教の合理的なる論議』を出し、又加拉太書、哥林多書、羅馬書、以弗所書の平易譯註を出し、又『聖保羅自身に依て保羅書翰を解す』を出す。所説明白なれ共議論は偏理的なり。ロッカは健康の優れざる人なりしが、九一年よりは『サー』フランシス及びメジヤム夫人(ラルフ、カッドウォルスの女)と共にオーストリアに住みぬ。死する前日メジヤム夫人に向ひ、己れの復た起つべからざることを語り、其幸福なる生涯を過せしことを神に謝したりしが、而も此世の事凡て空なりしを思ひ、夫人に向ひて、此世は未來の善き生活のための準備なりと考ふべきを勧めぬ。臨終の時夫人は聖書を讀みしに、彼は之を止め、數分にして息絶えたり。齡七十三。『理會論』にてロッカは觀念(Concept)を定義して、人が思考する時其理會の對象たるものは皆それなりと言ひしが、然も外形的物事は除外せり。彼は又觀念は感情(Generation)及び反省(Creation)の二の窓口を通して經驗より來ると言へり。同書は四篇より成り、第一篇にては先天的觀念でふものも無きことを論じ、第二篇にては人の觀念は悉く感情及び反省に依て供給せらるる材料より出で來るものなることを論じ、其中に心意の有する諸作用を説き、觀念に單純觀念と複雜觀念とありとし、時間空間の

觀念の如きは直ちに觀念せらるべき單純觀念なり、格式、實體、關係の觀念の如きは複雑觀念なりと言ひ、實體は不可知の物として存在すと云へり。無限(Country)の觀念も前の二種より來るものにて、唯だ消極的のもの。善の觀念は神の應報の法律と伴ふ快樂苦痛の感情より來るとなせり。第三篇にては觀念と言語の關係を論じ、言語が眞意を誤るを説き、第四篇にては認識を論じ、認識は物と我等の觀念との一致(Correspondence)に於て成立すと云ひ、論理上唯心論に走れり。同篇にては又直覺、信仰、理性等をも論じたり。此書は平易の文體言語を用ひしが、中世の煩瑣哲學の分類と第十七世紀思辯の議論との間に挟まれたる社會は非常に之を歡迎し、英國、愛蘭、佛蘭西、米國の哲學界は其後多少蘇國哲學者に依て改易せられたる所ありとは言へ、此説に服して第十九世紀の二三十年頃までに至りたる有様なりき。然れ共彼の後直ちに佛蘭西にてゲルテア此説を唱へ、更にコンテイラー之を唱へて、觀念は唯だ感情の一源より來る、反省は一の感情なりと言ひ、佛蘭西及び獨逸にてロッカを感情派なりとせしことば、ロッカの思ひも寄らざる所にして又其だ厭ひし所なるべし。更に又英國にてバロウも彼の説を他の方向に推し詰め、觀念の外には何物も存在せんと論じしが、ロッカ哲學の論議の極く所難し難き點論じたりと言へ、又ロッカの意に非ず。彼は唯だに實在論者たりしなり。キッド及び蘇國派は寧ろ彼の説を正しく教習せざるを謂ふべし。彼の哲學はカント及び其派よりヒュームの懷疑説と同じ出發點より立論せり、觀念の外に物なしと言ふ時は、之を推し詰めてヒュームの印象及び映象にまで約し得べしとて攻撃せらる。道徳善を以て神の應報の法律に伴ふ快

樂苦痛の感情より來るとせる説は又有害なる學說として非難せられ、殊に其友人たりしシヤフンペーリ翁の孫なる第三代シヤフンペーリ翁は直覺説を唱へてロッカの説を非難し、カントも形式説を唱へて之を攻撃せり。彼の傳及び哲學に就ては、彼の著書の外シエーレンの『ヴォン、ロッカ』、クレーゲンの『ロッカの哲學』、フョッタス、ホルレンの『ロッカ傳』、アラレルの『ロッカ』、フレゼルの『ロッカ』及び『近代思想の要素としてのヴォン、ロッカ』、ヘルトマンの『ヴォン、ロッカ及び創始哲學派』、マルチナツクの『ヴォン、ロッカの論理學』等を見よ。
ロッツ オリヴェル ジョセフ Lod. Se. Sir Oliver Joseph 一八五一—英國の理學者。スタツフェルトシヤのハンクワルに生る。倫敦大學にて學び、一八七七年理學博士號を得。倫敦大學にて學び、一八七七年理學博士號を得。一八〇〇年パーミンガム大學理學に擧げらる。九年王立學會にてラムフォード賞牌を與へられ、〇二年叙爵せらる。其専門は電氣學にして此方面に關する論文及び著書少からず。彼は又精神現象の研究にも深き興味を有し、時々宗教に關する論文及び著書を公にす。物質と生命の關連性も信仰は其最も名高きもの也。
ロッツェ ヘルマン ルドルフ Lohse, Hermann Rudolf 一八七—獨逸の哲學者、唯物論の大反對者。パツツェンに生る。ライプツヒ大學にて醫學、博物學、形而上學を修め、一八四三年同大學の心理學教授に擧げられ、四四年ゲツツンゲンに轉じ、死ぬる年の春又柏林に轉ず。ロッツェが公生涯に入りし時は、恰も獨逸の教育ある社會の思想を遍く支配せしヘーゲル

ロの部

ロッツェ

ローテ

ロト

の汎理的唯心論が其頂點を過ぎて、フケクト、コルシヨット、ビヒヒル等科學者の唯物論が漸く勢を得つゝある時なりき。有神論者にはカルル、フイリッ、フイッセル、フイヒツヤ、ウアイセイ、セウワル、チ等ありて、ヘーゲル説を批評し、殊に新シエリンの説をヘーゲルの堅固なる實在論と並び起りては、此等の批評幾分の勢力を有したりき。ロッツェは一方にヘーゲルの汎神論を攻撃し、他方に唯物論を攻撃して立ち、ウアイセイの如きは之に同情を寄せたりき。ロッツェは自然科學の全面を研究し、判斷的を得、批評的利にして如何なる科學も企及せぬ力を有せしが、此力を以て唯物論の道徳的缺陷せるを痛論し、如何なる哲學者も企及せぬ明白なる觀念を以て心力及び知識の限界を言明せり。神の存在の直接證明は擧がらぬものから、彼は證憑に己が信仰を告白し、神は宇宙の生ける中心にして、其生ける作用に依て絶えず有形無形、物と心の諸現象を生ずると言ひ、此宇宙を計劃なく、大目的即ち絕對に善にして合理的なるものを行はんとする道徳的目的なき宇宙を見るは不理の甚だしきものなり、然れ共我等は神自身の性質を知らず、又此物と心の兩界が如何にして同一根源より出でしか、此兩界の真相異點は那點に在るか、生命と離すべからざるものゝ如く道徳と苦痛との此世界に存するは何故なるか、を知らざるなりと言へり。彼の宇宙論は全體として道徳的なり。彼の考にては道徳主義は凡ての形而上學にも出發點とすべきものにて、基督教の優點點は實に之を充分に知識せる所にありとせり。著書は『形而上學』(一八四一年)、『尋常的自然科學としての一般物理學及び治法學』(四二)、『論理學』(四三)、『藝術に於ける美の觀念』(四六)、『藝術美の條件』(四七)、『生命

の一般哲學』(五二)、『醫的心理學』(五三)、『ミタコロスモス』(五五)、『六四』、『獨逸學史』(六八)等なり。上記ロッツェ著作の外、ウァーレンスの『自然科學講演及論文』(九八)、ウァーレンスの『ロッツェの哲學』(九五)、ハルトマンの『ロッツェの哲學』(八八)ウァーレンスの『ロッツェの倫理及宗教哲學の原理』等を見よ。
ローテ リカルド Rother, Richard 一七九—獨逸の神學者。ローテンに生れ、プレスラウにて教育を受けしが、同市はナポレオン反對の牙醫なりしかば、普魯士氣貫を厭へる彼は一八一七年ハイデルベルグにて神學研究を始め、一九年柏林に行く。されどシヨウライエルマツヘルもテアンタルも彼に充分の印象を與へざりき。彼はコトウツキ男爵を介して敬虔派の交際に入り、深く之に感化せられ、一八二〇年より二二年ウイッテンベルグに在りて樂を奉へし時まで其心は此感化に依て支配せられたりき。彼は又トールツクにも親交を結び、二三年羅馬駐劄普魯士大使附教師に任ぜられ、同地にシゲウア、ド、ピヤンセンと親み、其精爽かりし敬虔派の思想は擡げられ、自己の思辨の才の發揮を見るに至れり。二八年神學校主事としてウイッテンベルグに歸り、重に教會史を講義せしが、三十八歳の時始めて獨創的傑作羅馬書五章十二節より二十一節迄の註解を公にす。三九年ハイデルベルグの神學教授に擧げられ、四九年より五四年迄同大學にて講義せし外は、終生此所に於て教授せり。彼はハイデルベルグにてはパーテンの教會の稍混雜せる事情に關して活動的態度を取り、時として斷乎たる行動もし、教授として又著者として勢力著しくありしが、而も概して平

靜退隱の生活を送り、個人的には清潔單純節制を以て顯はれ、凡ての方面に調和せる性格を發揮したり。著作に於ても凡ての事均衡し、如何なる基督教思想も生活も其立つる説の中に取られて洩るものなく、一として黨派問題とせしものなし。基督教會の起源及び其組織(三七)及び『神學的倫理』(四五—四八)三冊は其大著にして互ひに相補ふものなり。前者は教會は其教育目標に達すれば、宗教を以て人間行為の每權に徹底せしむるために、全然國家に併呑せらるべき性質のものなりといふ事を説き、後者は宗教と道徳とは全く同一のものなり、故に基督教義は人間行為となりて出づるに非ざれば實現せられず、人間の行為は基督教義の光に依りて内部より照らさるるに非ざれば、眞實に道徳的行為に非ずと論じたり。所論時として大膽なる所あり、幼稚なる所あれ共、一體に基督教的證據と愛とに充てり。彼は基督を單純に信じ、基督を以て人道の至聖なるもの、歴史の日の出となし、自己の思辨は此信仰を唯一の基礎として立つるなりと言へり。『倫理學』は獨逸思辨的神學に於てシヨウライエルマツヘルの『基督教信仰』に次ぐ最大作なり。之に次で『ソール、ドグマチク』(六三)あり。尚シエンタルが彼の遺稿より編纂したる『ドグマチク』あり、説教集も存す。
ロト Lot. 人名 アブラハムの兄弟ハランの子にして、アブラハムの甥(創十一)の廿七、廿一)其歴史は創十一—十四章及び十九に記さる。其明細なる物語はエホバ典に屬し(十四章を除き)祭司典は單に要略を示せるのみ。ロトの父ハランはアラブがカナンに移住せざる前にカルアヤのウラにて死し、アブラハムはハランを去りし時ロトを伴へり。ロトはアラブがシケムに住み、後ベテル

ロの部

ロト

ロート

ロート

とアイとの間の山に住み、又テゲア河を渡りて旅せし時アラハムと共に在りしこと殆ど疑なく、アラハムが埃及に往きし時は之に伴ひしや否明ならざれ共、再びベテラミアイとの間の山に往きし時は又アラハムと共に在り。此處にてアラハムとロトとの牛羊繁殖し、亦草乏しくなりしが彼等の牧者の間に争起り。於此アラハム、ロトに向ひて「我等は兄弟の人なれば、請ふ我と汝の間及び我牧者汝の牧者の間に争あらしむる勿れ、地は皆汝の前に在るに非ずや、請ふ我を離れ、汝もし左に往かば我右に往かん、又汝右に往かば我左に往かん」と言へり。ロトはヨルダンの低地の豊饒なるを見て、之を悉く獲り取りて東に移り、斯くして彼等互に別れたり(十三の一十三)。ロト既にソドムの地に住みしに、此時エラムの王ケタラオメルを首として東の王等ソドムの王、ゴモラの王等と戦ひて之に勝ち、ソドム、ゴモラの凡ての物を掠奪し、ロトをも擄りにて去れり。アラハムは時にヘブロンに在りし時、之を聞て來り援け、夜に乘じ敵を追ふてホバに至り、ロト及び其物を取り返し、之をソドムに歸らしめたり(十四章)。ロトに關し次に記されたるは創十九章に掲げられたる有名物語にして、二人の天使彼に來り、ソドム、ゴモラの罪甚だしきに由り彼等之を滅ぼさんとて來りたれば、婦子女及び凡て色に居りて彼に關する者を此處より擄へ出つべしと告ぐ。ロト出でて其女を娶る婿等と之を告げたる共、彼等之を戯れとして信ぜず。曉に及ば天使ロトを促して「起ちて此なる汝の妻と二人の女を携へ、恐らくは汝色の惡と共に滅ぼされん」と言ふ。然るに彼等固執せしがば、天使彼等の手を取りて之を擄き出し、邑の外に置き「逃れて汝の生命を救へ、後を

顧る勿れ、低地に止まる勿れ、山に連れよ」と言へり。ロト乃ち連れてソアルに至りし時天より硫黄と火とをソドムとゴモラの地に雨らし、低地に在る居民と生物と悉く滅ぼしたり。ロトの妻は後を顧みなければ強の柱となりぬ。ロトはソアルも亦均しき運命に達せんことを恐れ、其二女の女と共にソアルを出でて山に上り巖穴に住み。斯くてロトは其二女の女に依りて二人の子を生みしが、是れモアブ人及びアンモン人の先祖也。以色列人とモアブ人及びアンモン人は其間離しからざりしが、斯る物語生じたりしなるべく、史實に非ずと思惟せらる。ロトの性格はアラハムと好対照をなす。彼は私心強く世俗的にして、伯父のこゝよりも自己の事を考へ、先づ豊饒の地を獲みしがば、遂に異端に達せり。然れ共彼は當時に在りては比較的貴むべき處少かりしかば、英雄より救はるべきを得たり。

ロート

ウイリアム Land, William

人名

一五七三—一六四四 カンタベリーの大監督、チャールズ一世の首相。マルタスのヴィーディングに生る。父は機業主にして相當の資産を有し、母又同業者の女。母の兄弟には倫敦市長勳爵士ウィリアムあり。清教徒にして彼に殺されたるウィリアム、アンを始めて彼の敵は、其素性を異しどもに言ひ傳ふれ共、實は誤妄にして、彼が痛く之を傷みて誹謗したる事其隨從者ヘイリン著の傳記に見ゆ。幼にして郷里の語學校にて嚴格なる教育を受け、其時代より望を確せられ、十六歳にして牛津のセントス、カレッジに入り、九〇年卒業九四年マコーロウなる。學校時代より能力を其自信を以て著はれ、教會の困難なる事情を處理するに長ずるの才を現はしぬ。其頃は牛津は清教徒の首領にして、マゲダレン

ン校長ローレンス、ハムフレイ其中樞たり。然れどもロートの性質は剛直にして漫に人後を追ふて走るが如き者に非ざりしが、自ら師父及び初代教會監督等の解釋に従て聖書を見、早くも高教會主義を取り法王政治に傾きたり。一六〇二年ローチエスタルの監督ジョンより授手禮を受け、教會を時代の弊廢不分明なる主義より救ひて古精神を復活せしむべき人物なりと望まれしが、前に任職せられて後には他の理由にて事毎に大學の有権者と衝突し、殊に〇六年聖マリア教會に於ける説教に依て其甚だしきを示せり。此時に於てはロートには友もなく勢力もなかりき。後王家教師とせられしが、尙王と己れとの間には憎悪あり、カンタベリー大監督ありて未だ何等の力を現はすこと能はざりき。然るに四十三歳に及びて宮廷の注意は彼の身に向ひ、其より後は地位と名譽は諸方面より其身に群り落ちて、宗教家の歴史に未曾有の昇進をなせり。大學の方にては一六〇一年聖ジョンスの總理、二八年大學長官となり、三六年には其資格を以て王及び妃を相導す。教會の方にては數多の有給職を與へられ、一六〇六年グロセスター大監督、二一年聖アビド教會監督、二六年バース及びウエズ大監督、二六年チャール、ローヤルの大監督、二八年倫敦監督、三三年ウエストミンスター大監督、カンタベリー大監督、英國教會認認論に任ぜり。政治家として亦勢力ありて、二七年の風潮議會より始まりて種々の官職を得、二八年首相バッキンガム侯が刺殺フェルトンに手に入るより其後任ぜられ、ウールヒー没落後宗教家に例なき昇進をなせり。斯くて彼は權勢大臣の極に達しぬ。素より野心に充ちたる人なりしが、彼は決して一個の私福を謀り

ロの部

ロート

ロバートソン

ロバートソン

家の榮華を求むるの心なく、其所得は教會及び大學のために投じ、重に宗教及び學問の發達の爲めに費し、死しきには比較的に貧しかりき。其企てたる事には聖ジョンス、カレッジの新築、倫敦聖保羅教會の修繕、海陸監督の加増、貧教師の收入増加、倫敦及び牛津に希臘語印刷所の設立、牛津に亞利比亞語講義の設立等ありて之を實行せしが、殊に其大目的とせし所は、英國教會を全體上より純粋なる原初風の教義及び儀式に作り變へんとしたるに在り。其原初風とは如何なる者か。ロートは後に密問せられし際決して羅馬教會の迷信主義を引き入れんとするに非ずと誓言せしが、彼の心は誠實に然りならんも、而も彼の主義は注王權を否定し羅馬教會の名を厭ふに拘はらず、若し實行せられれば羅馬主義たりしや明なり。其聖禮典儀式に關する意見等之を證す。彼は凡ての羅馬主義者の如く教義及び戒規の一致統一を謀り、之のために清教徒はじめ凡ての分離教徒を壓迫せり。レイトン、ブリン、ボストウイク、ホルトン等の有名なる事件を始め、其他分離派を苦めし事件百を以て數ふ。或は海外に去て真心の自由を求め、或は自暴自棄して肉の快樂を求むるに至れるものも夥しかりき。彼のために辯護するものもあれど、分離派の處分を議決せし星の回會議、高等委員會議にてはロート常に主腦たりしことは確かなりとす。若しロートの理想を全く實現したらんには、議會は恐ら英國民の自由さへも頌る危ふき者たりしなり。是れ畢竟ロートが志願ありて實際の處理の才に長ざりしより起る。彼の夢は到底實現すべからざる者なりしなり。殊に蘇格蘭をまで統一主義の中に整理せんとしたるは失體の最大なるものなり。蘇蘭に一六三六年の教會法と三七年の式

文とを強いんとせしは、眼を挑みしに外ならず。蘇蘭人は其長老主義を打破せられ、又其國民裁判廷を無視せられて、之に黙せんと苦なし。終に全土の當起となり、三八年國民契約は結ばれ、彼等は長老主義擁護のために同心戮力するに至れり。斯る内に四〇年長期議會は開かれ、王及び高僧に反對の氣風は益々熱し、長老派は議會内に數を増し、四三年には却て蘇蘭人の立てたる契約を英國に於て採用するに至り、蘇蘭人はロートの處刑を求めて四五年一月十日遂に之を果せり。最後の有様はロートの自叙の『離俗と密問』及び其出版者ホルトンの添えたる附録に詳なり。最後の言に曰く「我は英國教會に生れ、其法律にて育てられ、今死なん」とす。斯く國教會への忠信を言ひ表はし、首を斬頭機に入れて後には「主よ我罪を受け給へ」と言ひ、一打の下に斬られたりぬ。遺骸は塔獄の傍に葬られしが、生前の願ありしこととて王領回復後牛津聖ジョンス、カレッジ内へ改葬せり。ロートは臨終小にして容貌冷峻、性質強急の人なりき。其秘密私用のために作りありし『日誌』及び『私の禮拜』によりて見れば、其精神は敬虔の人なりしなり。其著作は上に記せるものより外『イニシテトイタル』の會談式文に關するセーデル及びシルの演説に答ふ爲の組合になしたる七説教等あり。

ロバートソン

ジェームス クレーギー Robertson, James Cangeie

人名

一八一八—一八四四 英國教會の神學者。アムステルダムに生れ、一八三四年銀橋トニチー、カレッジを卒業し、四六年ベックスホルンの司牧たり、五九年カンタベリーの大監督に任ぜらる。六四年より七四年迄倫敦キングス、カレッジの教會史學教授たり。

リ。其歴史的著書は頗多し。如何にして英國教會式文に合ふべきか『宗教改革史の教會歴史』四冊『教會史學』トマス、ベケット傳『注王權發達論』宗教改革史』二冊、其他多量の著書あり。

ロバートソン

フレデリック ウイリアム Robertson, Frederick William

人名

一八一六—一八五三 英國の説教者。倫敦に生る。近衛砲兵大尉フレデリック、ロバートソンの長子にして、初め四年間は父の教育を受けしが、一八二九年一家佛蘭ツアに移るに及び、彼ら之に伴ひて同所に往き、家庭教師より古典學を學び、且一佛蘭西神學校に出席したり。三〇年の革命に由り父は英國に歸り、彼はエザンバラウ中學校に入れられ、ウィリアムスの下に學ぶ。後間もなく大學に進み、多くの級に出席し、十八歳の時多くの知識に充ちて家に歸り、一時辯護士事務所に入りしも、健康を害し、軍隊に入らんことを、偶々一友人より教職に入るべきを切に勧められ、父も亦之を賛成せしかば、遂に志を決して教職に入る。ことなし、三七年五月四日試験を受けて牛津大學に入る。五日を経て第二龍隊入隊の命令來りしも、既に教職に入らんことを決心し事とて之を辭せり。されど軍隊に對する趣味は終身滅せず、其性格も亦軍人的氣風に充ちたり。此時彼れ廿一歳。牛津にては十字架の旗を持ちて恐を知らず、基督を説くものと言はれ、彼自らは同大學ニオンの討論會に非常に興味を有したり。當時牛津にはニウマンの『小冊子運動』あり、ロバートソンも熱心加入を勧められたれ共、遂に之に入らず。彼は熱心に聖書を研究し、又アラトリン、アリス、トレス、バットレル、シニエー、コルリッゲ等を研究せしが、最も深く彼を感化したりしがアラト

ロバートソン

ロバートソン

ロバートソン

ロバートソン

ロバートソン、アイルランド及びワイルドワイルドスナリキ。四〇年七月ワイルドワイルドスナリキ監督より授手職を受け、其司牧となり、初めより熱心と敬虔とを以て牧會に從ひ、嚴肅なる生活を遂げ、之に由り病を得、休養のため大陸に行き、暫らくウェネツアに留まりたりしが、此處にてコレラ、ワイリアム、アニー、スロウの女と相知るに至りて遂に結婚し、歸りてチエルトンハムに行き、四二年同地の司牧とせられ、五年間牧會し、再び大陸に行き、チエルトンハム邊にて精神上の危機に遭遇せしむるを通過し、其より國教會中にて福音主義の人とせられしが、此時廣教會主義に變りしを以てチエルトンハムの教會を辭し、四七年の初め牛津エヴァンゲル派の牧師となり、同年八月アライトン三一教會の牧師に就き其牧師となりしが、此に七年間牧會し、三十七歳の壯齡を以て死せり。アライトンにては才智ある人々其教會に群集し來りしが、彼は此等の人々に説教せしと共に、労働者のた



ロバートソン

めにも力を盡し、彼等のために一の會を起し、又彼等のために講演をなせり。彼は生時に於て説教者として既に人に知られたりしが、其實に世に解せられしは其死後に於てなりき。其教會の年月短かりしを以て、人々は紀念となるべきものを求め説教集を出せり。彼は元來草稿に依りて説教せしことなかりし、

書は忽ち多くの版を重ね、其より更に他の説教演説註釋等を集めて第二第三第四集出で、更に『哥林多前書講義』、『文學的社會的問題の講演及び演説』出で、一八八一年に至りても『人類及び其の宗教』出でたり。彼は古代の人物に關する説教に最も妙を得しが、經驗に關する説教又其だ好く、實際的のものも亦可なり。唯教義的議論は唯々偏りて充分ならざる所あり。然れ共思想の深遠にして、精神の権威せる近代の説教家中彼に及ぶもの少し。其書翰も亦教訓多し。總じてロバートソン紀念の書は凡ての人に益を與ふるに多く、殊に教職に在るものには倍多し。ロバートソンは生存中屢々自己が何を爲し居らざる如く感じて絶望に陥らんせし外、死して其力を増したり。説教集、講演集の外アライトンの『ロバートソンの傳及び書翰』を見よ。

ロバートソン

Robinson, Edward, D.D., LL.D.

人名 一七九四—

一八六三 英國の聖書學者。コロンチカカト州ワシントンに生る。一八一六年紐育州ワシントンのハメルトン、カレッジを卒業し、後同州ハドソンにて法律を修め、一七年ワシントンに歸りて教學及び福音派助教授となりしが一年にして辭し、二二年秋アンドーヴァルに行きて自己の編纂せるイリアドを公にし、同地にて教授モセス、スチエルトンの感化を受けて聖書學者として立つに至れり。二三年より二六年迄アンドーヴァル神學校にて希伯來語及び文學の教授たり、同時に文學的活動に忙がしく、スチエルトンの希伯來文典二版の出版を助け、又同教授の『ワイチル新約聖書希臘語文法』の翻譯をも助け、自己は『ローラの Christ's philology's Not Testament』を翻譯せり。二六年歐洲に行きケッチンゲン、

ロバートソン

ロバートソン

ロバートソン

羅馬

ハメル、伯林にて修學し、ゲチンクス、トールック、レディゲル、ファンデル、リッタル等に知られ、其才を稱せらる。二八年ハレルの哲學政治學教授エドワード、ファン、ヤコブの女とレセ、アルベルチ子、ルイセと結婚す。非常の英才女子にして既に『ケルウィ』の匿名にて名高かりき。ロバートソンは三〇年歸國し、同年よりアンドーヴァル神學校の聖書文學特別教授並圖書長たり。三一年『ヒブリアカル、レボトリー』を創刊す。此は五一年に至り『ヒブリアカル、サクラ』と合併せり。彼は之に多くの文章を寄せぬ。三二年アローラ譯の『カレル』、『聖書字彙』と小『聖書字彙』とアトマンの『希臘文法』とを出版す。多勞のため健康を害し、三三年教授を辭してオストンに移り、尙研究を止めず、翌年ニッカムの『福音書の新譯』、『一致』の改訂版を出し、三六年ゲチンクスの『希伯來語字彙』を出版し、又自己の『希臘及び英語新約聖書』を出す。三七年福音の長老派一致神學校に招かれ、先づ教年間聖地地理の自叙傳研究を許さるべきを條件として之に應ず。許を得て三七年七月出發し、亞利比亞の學者にして又スリアに於けるアメリカンゴッド宣教師たる博士エドワード、スミスと伴ひ、パレスチナとスリアの要所を歴々く探検し、三八年十月伯林に歸り、同市にて二年間『パレスチナ、シナイ及び亞利比亞』、『パトリア』に於ける聖書の探案』を著す。此書は倫敦及びボストンより同時に出で、其編譯も夫人の訂正を加へてハレルにて教授レディゲルより出版せられ、地理學者として聖書學者として大名を博し、四二年倫敦王立地理協會よりバートン金牌を與へられ、ハレル大學よりは神學博士號を與へられ、エール大學よりは四四年法學博士號を與へられり。五二年彼は再び

聖地を訪ひ、其結果を公にし、『其後の聖書的探検』を出せり。彼の心にては此は單に準備にして、續きて探検結果の完全なる書物を出さん計劃なりし、健康は之を許さず、不治の眼病のため六二年終に筆を擲つに至れり。死後其計劃の一部たりし『聖地の形狀地理』英語にて出で、夫人之を編譯せり。四五年彼は『福音書の新譯の一致』を著し、四六年同じく『英語の一致』を著し、又講義をなすなどの事なせり。六二年五月第五回の聖地旅行をなし、多くの舊友にも會ひしが、眼は回復する望なく、十一月歸國し、暫く講義せしが、クリスマス休日に至りて之を止めざるを得ざり。暫く病みし後翌年一月二十七日死去せり。ロバートソンは形貌頗る丈夫にして性質快活の人なりき。尙院的物語等に對しては非常に疑ひ深かりし、神の啓示には敬虔深く、外面は冷にして内部は温に同情に富みり。英國の前後の聖書學者中の第一の人なり。聖地を學問的に探検するの刺激は實に彼の先づ與へたるものなり。

ロバートソン

Robinson, John

人名 一五七五—一六二五

英國清教徒神學者。生地は明ならず。一五九二年十七歳にして劍橋のコレブスクリッチ、カレッジへ入學を許され、七年在學して學位を得、九八年より九九年迄フェローたり、一六〇〇年頃ノルウイッチあたりへ行き教會説教せしこと四年、清教主義の疑を受けて監督より停職せられ、其他種々の阻碍に遭ひ、〇四年ノルウイッチを去り、教會より分離せんと決心せしが、此分離は非常に心苦しかりし、彼は自ら言へる如く心熱せしため斷行し、ゲインズボローにジョン、スミスと名を分派派の一團存在せしを知るものから之に

羅馬

Rome

地名

羅馬は世界の都市中人類文明の歴史を最も密接の關係を有し、殊に基督教會歴史の中心なりき。第三世紀より第十六世紀に至る迄の間に於ては東方教會の分離あり、又四教會の中に多少の反對ありしに拘はらず、羅馬は實に基督教會の依りて同傳する樞軸なりき。宗教改革起るに及び羅馬の権力は多少減殺せられたれ共、尙基督教會大部分の本山として今日に至れり。斯く羅馬が基督教會に重要な地位を占むる所以のものは、法王の此處に住するがためにして、羅馬は法王の男

口の部

羅馬

羅馬の基礎の上に依りて、聖人の手より成られたりし結果として、單に法王の住居たりしのみならず、又其所有となりたり。而して法王の権力は漸次發達し、羅馬帝國が其神聖、王宮、劇場及び浴場等と共に滅亡するや、法王の羅馬は其教會及び寺院と共に建設せられたり。後法王は一時アヴィニオンに其居を移すに及び、羅馬は種草繁茂し遊戯横行する處となり、後法王の再び羅馬に歸るに及びても、尙舊時の状態に復すること能はざりしが、間もなく文藝復興の世となり、羅馬は又文化の中心となりたり。斯くて宗教改革起り、法王の権重を削ぐもの各所に起りたりしと雖も、羅馬は尙羅馬教の本山として其勢力を維持したり。然るに一八七〇年普佛戰爭起るに至り、久しく法王の後援をなしたりし佛軍以太利を去るに及び、グイットル、エマヌエルは機乘すべしとなして、兵を羅馬に運め、翌年七月以太利を統一し、羅馬を以て政治上の首都となしたり。然れ共エマヌエルは尙羅馬教を信する列國の怒を恐れ、一方に於て法王の實権を削ぐること共、他方に於ては形式上法王を尊崇し、其神聖不可侵の特権を承認するの必要を認め、所謂擔保法なる者を公布し、法王のグアチカンに住して君主と同様の待遇を享受するの特権を承認し、三百廿二萬五千のラの年金を國庫より支給することとなせり。法王は初め之に向て抗議したれ共其效なく、遂に之に服従することとなり、斯くて羅馬は以太利政治上の中心となり、大に面目を變化するに至れり。然れ共羅馬は尙依然として羅馬教の中心たり。三百六十有餘の教會は雲霧を摩して此處彼處に建へ、高きに登りての教會を望めば人をして懐舊の念に堪えず、自ら南朝四百八十寺、多少樓臺煙雨中の感を催さしむ。其中督

羅馬加特力教會

も著なるは聖彼得大會堂にして、是れ實に羅馬教の大本山也(其餘を見よ)。聖約翰ラテラン教會もまたラテラン宮殿の在りし處に立ち、五回の世界會議の開かれたる處として名高し(ラテラン會議の條參照)。聖マリア、ロンドン大會堂(Cathedral)は紀元前二七年マルカス、アグリッパの建設に係り、しとユピテルに獻げたる者なりしが、後諸神の像を納むる處となり、聖人の侵略に遭ひて一たび廢墟に歸せしが、六〇八年ボンファキウス四世之を回復して基督教會となし、マリア及び聖徒に獻げ、此名を得るに至れり。聖保羅會堂は市外オスタチアに在り。オスタチアは保羅殉教の地として傳へらるる處也。羅馬最古の教會にして最も壯大なるものなりしが、一八二三年火災に罹り、今の會堂は新築に係り、其壯大なること以前のものに譲らず。聖マリア、マッヂオ教會はエスキリン丘上に在り、法王リベリウス(三二一—三三六)の建立に係る、毎年八月十五日法王は此處に來りてマリア昇天祭を行ふ。コンスタンチウス教會はサベロチン門の内に在り、コンスタンチウス大帝の建立する所也。セント・マリア聖彼得教會はトラステヴェル河岸に在り、西班牙のフェルナンド及びイザベラの建立する所にして、傳説は之を以て彼得殉教の地となせり。其他一々教へ(「基督教時代」に於ける羅馬の状態に就ては「新約聖書の時代」の條、彼得、保羅と羅馬との關係に就ては「マテオカワロ」の條を見よ)。

羅馬加特力教會 Roman Catholic Church

宗派名 全名稱は神聖公同使徒的羅馬教會(Church, Catholic, Apostolic and Roman Church)なれ共、通常羅馬加特力教會と稱し、又略して羅馬教會又は加特力教會と稱し、又天主教、拉丁教會、

羅馬加特力教會

四教會等の名あり。拉丁教會は希臘教會に對する名、西教會は希臘教會を東教會と稱するより之に對する名、天主教會は「Fides」を音譯して天主教となせしより來りたる者にして、支那及び日本にて唱ふる名也。又我國にてはプロテスタント教を新教と稱するに對し、羅馬教を舊教といふ。此教會は希臘教會及びプロテスタント教會と並立する基督教三大教派の一にして、其最も大なるもの也。此教會自らの稱する所に依れば、世界に於ける唯一の教會也。ペラギニの定義する所に依れば、基督の教會は第一に眞信仰を告白する者、第二に眞禮典に與る者、第三に教會の首長たる羅馬法王の支配に關するもの也。斯くて此教會は第一の標準に照して猶太教徒異教徒及び回教徒を除外し、第二の標準に照して未道者之破門者を除外し、第三の標準に照して離教者(希臘教徒を除外し、プロテスタント教徒をも異端者、離教者として除外し去り、此教會のみを以て右の三點に適ふ者也)となし、其道徳實格の如何に關せず此教會に屬する者は皆戰國(地上の)教會に屬する者となせり。而して此教會は全世界基督教徒の殆ど半數を包摂し、世界各國に普及し、殊に歐羅巴南部に盛にして、以太利、西班牙、佛蘭西、現太利、愛蘭、南亞米利加に於ける拉丁人、ケルト人間に最も勢力あり。希臘教會は法王制度を除けば教義及び習慣の主要なる點に於て一致し居れ共、希臘教會よりは活氣と精力とに充てり。されどプロテスタント諸教會に比すれば一般教義知識自由にて重大なり。今尙一般人民には他の諸教會よりも勢力あり、其生命は古羅馬の全盛時代より絶えず續きて、多くの帝國王國の興亡を經所に見つゝ今日に及べり。

口の部

羅馬加特力教會

(一) 教義 羅馬教會の教義は、世界信條(使徒信條、ニカヤ信條、及びアタナシウス信條)三二五年より一八七〇年迄に開かれたる二十回の世界會議に於て定めたる教義及び法王の教書、殊にトレント及びびワチカヌス信仰標準に示さる。羅馬教會の教義はイレニウス、タチアヌス、アウグスチヌス、イェロニムス、レオ一世、グレゴリウス一世等の師父等先づ其形態を造り、アンセム、アキノのトマス、ダンス、スコラス等の中世學者之を論理的に解剖し、定義し、辨證し、ペラギニ、ガズエー、モーレル等がプロテスタント教に反對して表明したる者にして、法王無謬といへるワチカヌス教義に至りて、教義改革の前途を断ちたり、此處に羅馬教義の終結を告げ、一たび法王の權威に依りて定められたる疑問は永久に再議する能はざることとなり、唯新教義を加ふるだけの餘地存するに至れり。

基本主義としてを以て、常に羅馬の要求に抵抗し、即ち皇帝其他の君主も亦之に抵抗したり。皇帝と法王との争、國家政界と僧侶政界との衝突は中世史全體を一貫し、近代に至りては一八六四年の法王與令が中世時代の法王權を主張せしため、此争を再興し、隔遠及び佛蘭西に於ては張ワールカンプ(教育戰爭)となりしが、如何に大なりし法王の力も洩れし水も又もこに復へすこと能はずして止み。法王の政治を輔け、其内閣を造るものは「カルタイナル」團なり。其數は時に隨ひて異り、多くは以太利人の中より擧げらる。其中に「カルタイナル、ビショップ」(「カルタイナル、プリースト」)と「カルタイナル、テイト」の別あり。法王は初め羅馬の僧侶及び人民に依りて選ばれたりしが、グレゴリウス七世の時以來カルタイナル團より選ばれることとなり、彼等は空位となりし十一日に法王選舉室(Conclave)に集まり法王を選舉す。法王は「カルタイナル」と共に高僧會議を組織し、行政の諸局は各局に委さる。局は各々「カルタイナル」之を司り讀文書目録局、聖儀式局、教部局、宣教局等に分る。全羅馬聖教會には七百以上の監督、百六十九の拉丁大監督、廿七の東方大監督、七の拉丁大監督、五の東方大監督を有す。

羅馬加特力教會

(二) 教會政治及び戒規 羅馬教會は史上の最も壯大なる政體を築き上げたり。此は全く精神的王政にして、彼得の相續者、基督の家宰、從ひて教會の至上無謬なる首長たりと稱する法王を其上に戴けり。一般人民は此世の事に就ても他の權力に支配せらるべからず、全く同様に服従せざるべからずとせらる。司祭は監督に監督に法王に立誓服従するを要することとせらる。此政體は年月を経て漸次發達し來れる者にして、一八七〇年のワチカヌス會議に於て始めて其全態に達したるなり。羅馬の監督が全基督教會の支配と基督教諸王國の支配とを要求せしはレオ一世(四四〇—四六一)の時よりして、ニコラヌス一世、グレゴリウス七世、インノーセント三世、ボンファキウス八世等は此要求を再起したり。されど東方諸教長は何れも自己等の羅馬監督と同權な

羅馬加特力教會

聖を主張せしを以て、常に羅馬の要求に抵抗し、即ち皇帝其他の君主も亦之に抵抗したり。皇帝と法王との争、國家政界と僧侶政界との衝突は中世史全體を一貫し、近代に至りては一八六四年の法王與令が中世時代の法王權を主張せしため、此争を再興し、隔遠及び佛蘭西に於ては張ワールカンプ(教育戰爭)となりしが、如何に大なりし法王の力も洩れし水も又もこに復へすこと能はずして止み。法王の政治を輔け、其内閣を造るものは「カルタイナル」團なり。其數は時に隨ひて異り、多くは以太利人の中より擧げらる。其中に「カルタイナル、ビショップ」(「カルタイナル、プリースト」)と「カルタイナル、テイト」の別あり。法王は初め羅馬の僧侶及び人民に依りて選ばれたりしが、グレゴリウス七世の時以來カルタイナル團より選ばれることとなり、彼等は空位となりし十一日に法王選舉室(Conclave)に集まり法王を選舉す。法王は「カルタイナル」と共に高僧會議を組織し、行政の諸局は各局に委さる。局は各々「カルタイナル」之を司り讀文書目録局、聖儀式局、教部局、宣教局等に分る。全羅馬聖教會には七百以上の監督、百六十九の拉丁大監督、廿七の東方大監督、七の拉丁大監督、五の東方大監督を有す。

口 部

羅馬加特力教會

破されし事は何人も皆承認する處也。彼等が羅馬に居りしことありこの事は、新教神學者等の多く疑ひし所にして、聖書中にも亦明白に之を證するものなけれ共、初代の希臘師父及び拉丁師父共に之を承認するを見れば思ふに史實なるべし。但し彼が羅馬に往きしことが紀元六十三年後なりしことは、六十二年より六十三年迄の間に書かれたる保羅の禁獄書翰に絶えて之を記さざるに依り推測せらる。羅馬は首都たり、且長き間世界の覇王たりし上に、一般人民が基督を其相續者として彼等を指定し、教會の永續的至上者を立てし、其は羅馬の監督の事なりとなせし信仰之を助けて、此教會を迅速に且最大勢力ある地位に上らしめたり。而して羅馬教會は羅馬帝國の大企圖大權利を繼承し、其創に代ふるに十字架を以てし、以て十五世紀間歐洲の運命を支配し、今尙到る所に其老殘の精力を振ひ、殊に新教國に在りては反對を受けることに依り氣力益々旺盛に向へり。羅馬教會發展の歴史は之を三期に區別すべし。即ち左の如し。

羅馬加特力教會

次で宗教改革に動力を興へたりし即ち舊の福音主義的見解も、亦既に此の時代に於てアラケスチヌス派中に其傾向を有したりき。

羅馬加特力教會

而して他方に在りては改革者等が反對したる煩瑣派の說や教會の傳説をば法王の權を以て是認確定し、斯くて公然改革者等の說を否認し、自説の無謬なるを要求し、從ひて之を改革すべからざるものとなしたりたりき。

口 部

羅馬加特力教會

一八六四年「誤謬諸説駁論」を發し、近世の文明並に政治上宗教上の自由を非難せり。

羅馬加特力教會

府、地方政府及び市町村より教會に許可したりし補助金を停止し、教會の所有したりし國家の財産を再び國家に納めたり。

羅馬書

られ各宗派均しく猜忌せらるることとなり。羅馬教徒は歐洲終に愛蘭及び獨逸よりの入移民に由りて漸へず増加し、最近の調査に依れば一千一百五十萬の信徒を有し、福音に一人の「カレディナル」を置き、其下に大監督及び監督を置く。セント、レイクスに大學あり、八十の高等學院、三百の僧院を有す。加那太も亦新教國なれ共、東部に於ける羅馬教會の勢力は頗る盛大にして、モントリオール、ケベック等の諸市に在りては、羅馬教を凌駕せり。墨其は尙其た微々たり。現今世界に於ける羅馬教徒の總數は凡そ二億五千萬ありといふ。羅馬教の事を知らんとせば、アレナツツの「カセドラ、ハトリ」(一八七九)「ヴィイグテン」の「初代教會及び聖彼得の坐位」(一九〇三)「アアリス及びアルノド」の「加特力辭典」(一八九七)「キツヤン」の「善人父祖の信仰」(一九〇二)「ロフイー」の「彼得の椅子」(一八三三)「リヤル」の「加特力の主張」(八九九)「ウウガンの」の「羅馬の主張」(八九〇)「メー、アル、グアル」の「法王の主張の眞理」(一九〇二)等を見よ。日本に於ける羅馬教の傳道に就ては「日本」の條を見よ。

ロの部

羅馬書

羅馬書

羅馬書

かんと念甚だ切なるものあり、自ら其希望を述べて曰く「我れここに往きて後必ず羅馬を見よべし」と(徒十九の廿一)。然れ共彼が羅馬に往かんことを志したるもの之を以て初めとなすに非ず、彼は實に一再ならず屢々斯る志望を有したりき(羅一の十三)。然れ共東方諸國に於ける彼の事業は、未だ彼の去るを許さざりき。今や彼はエルサレムより備くイリヤコに至る迄福音を傳へ、此地に於ては既に傳ふべき處なきを見たり。於是彼は年來の志望を達せんとして、羅馬を経て西班牙にまで往かんことを心したり(十五の十九、廿三、廿四)。然れ共彼の西歐に向ふ前、向一の篤すべきものあり。即ちマケドニア及びアカヤに在る教會が、エルサレムに在る貴しき聖徒を助けんとして集めたる義捐金を、自らエルサレムに携へ往かんその事是なりき。彼は之に依て基督教會内に於ける兩分子、即ち猶太人及び異邦人信徒の結合を密ならしめんと欲せしが、人を遣はして之を返らん事を好まず、自ら携へ往かん事を欲したり。故に彼は此事終りて後羅馬に往かんことを決心したり(十五の廿五、廿八)。初め彼のコリントに往かんとするや、其道を備へんが爲め、先づ書翰を作りて彼等に贈りたり。羅馬の信徒は彼が未見の兄弟也。彼が懇勵を以て、豫め其許にに至らんことを通ずるの必要を感じたりしは宜也。且彼は羅馬を経て更に西歐西班牙の極まで傳道せんとしたり。こゝに於て、懇め其意を羅馬の信徒に告げて、彼等の同情と助とを得るの必要を感じたりしこと亦疑ふべからず。此の如くして彼は此書翰を作りて羅馬の教會に贈りたりし也。

【著作の時代及び場所】 此書翰の書かれたりし時日及び場所は、此書中に記せる事實より推知するを得べし。即ち此書翰は保羅がエルサレムに在る聖徒を助けん爲めに立出せる時に書かれたるもの也(十五の廿五)。而して此旅行は保羅がエペソに於て永く滞在せし後、コリントに於て(五八年ならん)を過したる後になされたるものなることは、吾人の使徒行傳より學ぶ所也(廿の一二三)。而して使徒行傳に依れば、此時保羅は希臘よりスミヤに航せんことたりしが、猶太人を害せんことを謀りしが、其道を轉じてマケドニアを過ぎて歸りたりしと云ふ。若し此書翰にして此猶太人の謀の露見したりし後に書かれたりしものならんには、保羅は之に言及せるの餘地を有したりし也。然るに彼が一言之に及ばざるは、彼がコリントを去らざる前、即ち猶太人の謀の洩れざりし先きに、此書翰の書かれたりしを知るべき也。而して保羅は除酵節の後にヒヨセを去りたりしと云ふ。彼がコリント及びヒヨセの教會を巡察するために數週を費したりしと假定せば、彼がコリントを去りたりしは凡そ五九年初春のことなりしなるべし。

人は不幸にして羅馬教會の性質に關しては、此書翰より學び得るものも外、何事をも知ることは非ず。シモロが曾て述べたりしと云へる談話により吾人は當時既に猶太人は羅馬に於て富み且勢力を有したりし人民なりし事を知る也。其後ポンペイは猶太の捕虜を羅馬に携へ來りしが、彼等の數は益々増加するに至り。且彼等は一般に政府の保護を受けたりしが故に、其勢力は益々強大なるに至り。テベリア帝に至り、彼等の勢力のあまりに強大ならんことを恐れ、之を抑壓するの政策を取り、續てクロディウス帝は、命令を發して猶太人を國外に放逐せんとしたりしが、彼等の根柢既に堅くして容易に動かすべからず、其勢力は尙盛にして、益々多くの改宗者を生ずるに至り。史家シラスのいふ所に依れば、當時羅馬市民の中には、他の嘲笑、侮慢を顧みずして猶太教に歸依したりしもの甚だ多かりしと云ふ。斯く羅馬には多數の猶太人住居したりしかば、エルサレムとの交通常に絶えず、ヘンテオスタの日彼得が有名なる説教をなしたりし時には、羅馬より來り會したるものありしと云ふ(徒二の十)。彼等がエルサレムより羅馬に歸りし後、其本國に於て起りたりし事を其同國人に傳へたりしは疑ふべからず。唯にエルサレムのみならず、當時耶路撒冷の宗教は使徒等に依りて東方の諸國に宣傳せられたりしことなれば、基督教に關する知識は、斷へず各所より羅馬に達したりしこと言ふを得たり。史家スエトニウスの言ふ所に依れば、クロディウス帝が猶太人を羅馬より放逐したりしは、彼等が基督教徒の煽動に依り斷へず離脱したりしが爲め也と云へり。又以て基督教の名が猶太人に依りて唱へられたりしことを知るべし。去れば當時既に羅馬に在る猶太人は多少

ロの部

羅馬書

羅馬書

羅馬書

基督教に就きて知る所ありし事明也。然れ共此書翰の書かれたる後三年を経て、保羅は意外の道に依りて羅馬に達したりしが、當時羅馬に在る猶太人は、基督の道に就て知る所甚だ少かりしが如し、即ち保羅は猶太人を集めて耶路撒冷の事を語り、彼等を勧めたりしに、彼等の中には其言に感じて之を然りとする者あり、又信ぜざりしものありしが、保羅は預言者イザヤの言を引き、神の救の道を異邦人に移すべきことを語りたり(徒廿八の廿三、廿九)。古來羅馬教徒の信する所に依れば、初めて羅馬に傳道し其教會を建設したりしものは、使徒彼得也と云ふ。然れ共是れ單に傳説に過ぎずして、之を證すべき史的事實なるものあるなし。而して保羅は此書翰に於て明かに「我れ憶みて他人の置し基礎に建てて、イエスの名の未だ稱へられざる處に福音を宣傳へたり(十五の廿)といへるを見れば、彼が彼得が羅馬教會を建設したりしこの事實を認めざりし事明也。尤も彼得と羅馬との關係ありし事は、諸處の傳説の傳ふる所にして、保羅が第一葉獄書翰を書きし後に至りて羅馬に往きたりしは事實なるが如くなれ共、前既に述べたるが如く、保羅が羅馬に至りしとき、猶太人が基督教に就て知りし所のもの甚だ少かりし事實に依りて之を考ふるも、保羅の至らざりし前、彼得が羅馬に來りて教會を建設したりしことは思考する事能はず。是等の事實に依りて之を見れば、當時羅馬に在りし猶太人中には多少の基督教徒ありしと雖も、甚だ僅少ななるに過ぎざりし事明也。之に反して吾人は羅馬教會を構成する主なる分子は、異邦人の信徒なりし事實を發見すべし。即ち保羅は此書翰を異邦人の中に在りて基督教の召を蒙れる者に贈りたり(一の五、六)。彼は羅馬人を以

て他の異邦人に比したり(一の十三)。又彼は明に羅馬人に向て「我爾曹異邦人に言はん、我は異邦人の使徒なるが故に我爾を敬重せり」と言ひ(一の十三)。又異邦人の爲めに、耶路撒冷の例となりたるが故に、此書翰を贈るの旨を述べたり(十五の十五、十六)。而して保羅が書中に於て安否を問ひたりし人の過半は、異邦人なりしを見れば、羅馬教會が主として異邦的分子によりて組成せられたりしこと甚だ明也。

【此書の讀者】 然れ共羅馬教會を組成したりし主なる分子は、異邦人なりしとすも、若しくは猶太人なりしとすも、左まで大切の事には非ず。是より大切な問題は羅馬に在る基督教徒の信奉したりし基督教は、保羅的なりしや、猶太的なりしやとの事也。リプレンスは書中の事實を以て、此書翰の讀者の猶太教的基督教徒たりしを示すものなりとして曰く「此書翰の記者は、何れの部分に在ても、猶太的教會を受けたる讀者に語りつゝあるを自知せり。例之舊約聖書の言語、例證を取りて議論するが如き、讀者を以て舊約の律法を熟知せるものとして、其知識に訴ふるが如き、何れも記者が猶太的基督教徒を教化せんと企てつゝあるを示すものに非ざるはなし。當時保羅の基督教を信じたりしもの羅馬に在りたりとすも、是れ唯僅少ななるに非ざるはなし。より基督教を信じたりしものも、猶太的基督教の感化を受けたりしこと疑なし」と。フワイデルは謂えらく、此書翰の暗示する所に依れば、羅馬教會に於ける猶太的及び異邦的兩分子の關係甚だ切迫せるものありしが如し。教會内の健全なる分子は、異邦的基督教徒の増加するに従ひ漸次發達し、遂に教會の主なる部分を組成したりし猶太的分子は、少數

にして且無力なるものなりたるが如し。然れ共吾人の前既に述べたるが如く、異邦人は初めより羅馬教會を組成したりし主なる分子にして、從て教會に勢力を占めたりしものは、保羅的基督教徒なりし也。保羅が日を守り又は偶儀に獻げたるものを食ふこと能はざる猶太信徒を離すべからずと戒めたるは、即ち猶太的分子の勢力甚だ弱かりしことを證するもの也(十四の一七)。之に反して若し羅馬教會にして猶太的風味を帯ぶること甚しかりしならんには、彼等彼等に向て「我兄弟よ、我爾曹が仁慈に満ち、凡ての智に先ちて互に勧め得ることを信ず」と云へるが如き言を用ゆることを得んや(十五の十四)。去らば吾人は以上の理由に由り、羅馬教會を組成したる主なる分子は異邦人にして、教會に勢力を占めたりし基督教徒は保羅的なりしと推斷するを以て適當也と信ずる也。然れ共教會内に猶太的分子の存在したりしは亦論を要せず。故に保羅は猶太人も異邦人も共に耶の下に拘束られたるものにして、唯神の恩寵に依り、信仰に依りてのみ救はるべしとの教理を明にしたり。其加拉太書に於けるが如くは、即ち保羅反對派の勢力加拉太教會に於けるが如く強大ならざりしが爲め也。此の如くして保羅は此書翰に於てサパチエの云へりしが如く、論争的に非ず、獨斷的に信仰に依り義せらるることの大教義を明にしたり也。

【此書の目的】 然らば即ち此書翰の書かれたる目的如何。是に關しては左の如き種々の説あり。(一) 此書翰を以て辯解的也とすもの。是れパウルの説にして、彼は書中九、十、十一の三章を以て本書の中心也とす、保羅はエペソを離れつつありとなせり。然れ共吾人の既に論じたるが如

ロの部

羅馬書

く、羅馬教會を組成したる分子は、異邦人にして、此書全篇の調子は辯駁的に非ず。右の三章に於て保羅は猶太人の世界に對する使命を論じたりしと雖も、之を以て此書の中心となすべからず。

(二) 次は保羅は預防の爲めに此書翰を書きたりとなすものにして、即ち當時羅馬教會には猶太的殊にエビオン派の跋扈せるものありければ、保羅は此等の攻撃に對し、健全なる教會の分子を防護せんとして豫防的に此書翰を附たりし也と云ふに在り。是れパーワツ博士の説にして、即ちパーワツを祖述せるもの也。吾人は前已に論ぜざるが如く此の如き危險の分子を教會に發見すること能はず。假令保羅が同々猶太教を攻撃するの跡ありとするも是れ偶然の事にして、本來の目的には非ず。

(三) 次は調和の目的を以て書かれたりとなすもの。是れ即ちフライデレルの説にして、彼は羅馬教會内に存在せる猶太的、及び異邦的基督教徒を調和せん爲めに書かれたるもの也となせり。彼の説に従へば、此書翰の中心は第十四章也。吾人は第十四章に於て調和的の語調を發見せざるに非ずと雖も、是れ此書の最大目的に非ず。

(四) 保羅の目的は之に依て基督教の教義を述べんとしたる也とせば、カウゲン、メランクトン、マイエル及びゴーター等の學者が主張せる處にして、ゴーターは此書翰を呼びて『教義及び倫理の問答書』也と云へり。此書翰には素より教義を説きたるに非ずと雖も、是れ素より書翰にして論文に非ず。之を教義を説く目的に依りて書きたるものもせば是れ不完全のもの也。何となれば此書翰中には保羅が他の書翰に於て説きたる基督論若しくは終末論を缺けば也。而して九、十、十一章の間隔は教義の問題に非

羅馬書

ずして寧ろ歴史的の問題也。

(五) 保羅が此書翰を書きたるは、彼が自ら稱して『我が福音』と稱したりしものを説んが爲めなりし也。如何にして人は救はるべきや、曰く、信仰に依りて救はるべし。是れ即ち本書の主義、骨髄にして、保羅は異邦人の使徒として此福音を説きたりし也。故に彼は先づ基督に依りて救罪の福音の源はされたる事と、人は信仰に依りて救はるべき事を説き、次は此の如き客觀的に罪の赦を得たるものは聖靈に依りて主觀的に聖潔の生活に入るべしとの事を明にし、次に歴史的に猶太人と異邦人との關係を論じ、而して最後に基督教徒の實際道徳を説きたり。是れ即ち此書翰の主旨にして、此書著作の目的は此福音を明にせんとするに外ならざりし也。

【此書の結構】 本書を區別して四部となすべし。

(一) 緒言(一の一七)。

(二) 挨拶(一の一七)。

(三) 感謝及び著者の希望(一の一八―一五)。

(四) 主義(一の一六、一七)。

(五) 教義の發展(一の一八―一五の二六)。

(六) 信仰に依るの稱義(二の一八―一五の二六)。

(七) 其必要(二の一八―一五の二六)。

(八) 救罪―神の恩恵に依り、基督を信するに依りて救はるべし(三の二一―二五の二六)。

(九) 贖罪―信仰に依る稱義を得るの手段としての(三の二一―二五の二六)。

(十) 救罪と律法及び約束との關係(三の二七―四の二五)。

羅馬書

(一) 信徒の安全(五の一―二)。

(二) アダムと基督(五の二―二二)。

(三) 主觀的救罪―基督に於ける新生命(六の一―一八の二九)。

(四) 稱義と新生の關係(六の一―一七の二六)。

(五) 律法の無力(七の七―二五)。

(六) 聖の救済(八章)。

(七) 保羅の歴史哲學―神の恩恵と、以色列人の棄てられ異邦人の招かれたる事との關係(九、十、十一章)。

(八) 神の大權(九の一―二九)。

(九) 以色列人の棄てられたる理由―不信仰(九の二―十の二)。

(十) 將來に於ける希望―神の攝理に依りて善より惡を來らす事(十一)。

(十一) 實際倫理(十二の一―一五の二三)。

(十二) 基督教徒の動機(十二の一、二)。

(十三) 教會の會員としての信徒(十二の三―十)。

(十四) 社會の一人としての信徒(十三の一―十四の二)。

(十五) 基督教徒相互の關係(十四の一―一五の二三)。

(十六) 著者自身に關する説明(十五の十四―十七)。

(十七) 推薦及び挨拶(十六の一―二三)。

(十八) 祝詞(十六の二五―二七)。

【参考書】 ウァイズ、エウリッ、ヘル其他の聖約聖書總論、マゼエル、ゴーター、サンター、インスター、シュナル、タリナカ、コムメンタリー(中)ピート。

ロの部

ロマチスクのロムバルドス

パーワツ等の註釋書及び『パワロ』の條下に掲げたる参考書。

ロマチスク型の建築 Romanesque Architecture. 『建築』の條を見よ。

ロムバルドス Lombardus, Patrus 人名 一〇〇一―一〇一〇 第十二世紀の佛蘭西神學者。ロムバルドのノヴァラに生る。初めロニーヤ、後レーンにて研究し、實をケルアホーのペルナルより給せらる。次でペルナルの書籍を携へて巴理聖ゲイタル院に行き、著名なる教師となる。同院の『カノン』もなりたるが如し。一一五九年巴理の監督となりしが、一年在職したるのみにて、其餘の事は傳はらず。唯だ其監督聖別式の時、彼の母は或る貴人等に強いられて、好まぬ事ながら平素ノヴァラに於て著けしよりは美服して式に臨みしに、彼の護衛なる、母を我母なりと言ふを省せず、之をして其粗服に換へしめたりといふ一事傳へらる。ペトルスの名を著しからしめたる者は、其『宣言の書四篇』なり。當時僧侶の傾向は教會の教訓と師父の教訓とを共に取り、思想家等の傾向は教會の教義を理論を以てやらんとしたる様なりしに、ペトルスは此兩傾向を共に代表し、師父等の教訓を明かにし、其真義を示さんと努めしければ、大に一般の同情を得たるを得たり。アペリアルが師父の矛盾を摘出するのみを能事とせしに反し、ペトルスは矛盾を調和し其權威を主張し、組織的に説を立てたり。其第一篇は神の事を論じ、第二篇は受造物を論じ、第三篇は神子の化身、贖罪、人間の品格等を論じ、第四篇は來世及び教會の儀式を論ず。三位一體論に就ては異端と攻撃せられ、フィオールのロフキムは之を四位一體論なりと評へしが、ラチラン會

ロヨラのロラルド徒

議はペトルスは唯だ神の實質と三位とを區別せしのみにて、四位を説きしに非ざるを認め、此告誡を棄却せり。ペトルスは又人の永生は追加的の賜なるが故に、背教は之を失ふのみならず又創造の時受けたるものを害するなりと言へり。基督の事業に關する説はアペリアルと略同く同じ、人は基督の死に依りて救はれたる神の愛に對激せられ、神を愛するに依りて罪より救はるべきなり。此書は理論明白なる者と言ひ難く、又劇想もなく、疑問は未解決の儘となり居れ共、之より劇想は後に出でし同種類の書に比して思想の適當なる所成功の基となり、初めは異端の誤をも受け、一三〇〇年には巴理の神學教授等十六條の異端説を其中より指摘したる程なりしも、此書は能く噴布せられ、長き間標準書として用ひられ、註釋續出し、宗教改革後には殊に西班牙にて最も多く註解の出づるを見たり、ドミニクス、ソートーの註解、和蘭神學者エスナワスの註解は最も有名也。

ロヨラ イグナチウス 『イグナチウス、ロヨラ』の條を見よ。

ロラルド徒 The Jollards. 結社名 第十三世乃至第十四世紀の頃羅馬教會の教義及び慣例に反對したる宗教團體の名にして、初め獨逸に於て用ゐられたりしが、第十四世紀の後半英國に於ては之をウィックリフの徒に適用したりき。然れ共ロラルド徒は後幾ならずウィックリフの本意に違ひ、政治的運動の色彩を帯び、宗教的意義を失ふに至り、ウィックリフの最も熱心なる辯護者ガワントの如きもの如きも、彼等の希望に對して何等の同情を有せざるに至りたり。一三九九年ランカスターの人民がロラルドを廢したりし時は、教會全體一致してヘンリーを擧げて王位に即かしめ、爾後ランカスター

ロングフェロー

人等は教會を助けてロラルド徒を壓抑したりき。期くしてヘンリー四世は異端實現の令を發し、ウィックリフ、ソワレルは一四〇一年其最初の犠牲となりたり。然れ共ヘンリーは遂にロラルド徒を壓服するに能はず、彼の治世の晩年及びヘンリー五世治世の初めに方り、此運動の最も著名なる指導者の一人ウモン、オーレド、カッセル、ルード、コブナムとなれり。ヘンリー六世は正統派の政策を採用し、ロラルド徒を壓抑したりしが、彼等は容易に屈服せず、依然法王政治に對して不満を唱へ、其説は遂に漸次に勝利を得、一五四七年即ちエドワード六世治世の元年に至り、從來ロラルド徒壓抑の目的を以て發布せられたる法令は凡て撤回せられたり。然れ共彼等は一定の組織を有せざりしが故に、英國に於ては宗教改革に際し採用したりし教義はルーテル及びカウゲインの教義にして、聖書の翻譯も一新になれたりき。(アラウカンの『ロラルド徒の指導者』、ボウエル及びトレンゲエリアンの『百姓一揆』ロラルド徒)アールの『ウィックリフ及び改革運動』等を見よ。

ロングフェロー Longfellow, Henry Wadsworth 人名 一八〇七―一八八二 米國の詩人。メイン州ポーツランドに生る。一八二五年ポードイン、カレッジを卒業し、父の法律事務所にて法律を研究せしが、幾何もなく之を中止し、二六年外遊して佛、西、以、獨の諸國を巡り、歸りてポードイン、カレッジの近代語教授となりしが、三五年ハーヴァード大學より招かれ、ウォル、テイックノルを繼いで近代語教授となる。後又暫く外遊し、歸りてマサチューセツ州カムブリッジにて詩作に従事し、名聲日に揚る。『夜の聲』は一八三九年に出で、後に『生命の讃詩』の

ワ。井の部 論争學

名は忍らして英語の通する所に暗傳せり。同年「ハ
イロオン」出で、其より「舞歌其他の詩」註譯
の詩「西班牙學生」エヴァンゼン「海邊」
「金澤」ハイアツザ「マイリス」スタンディシの求
「路傍旅舎の話」ダンテ神曲の翻譯「新英州悲
劇」『神聖悲劇』其他を出す。其因邊には種々の人
々集まり、五四年教授を辭し、六八年六九年又歐
洲に遊び、到る所歓迎を受け、牛津大學よりは民法
博士號を與へらる。彼は其才と共に其品格に依て人
に愛せられたりき。

論争學 又は破邪顯正論 Polemics

基督教は初めより其周囲の事情に餘儀なくせられ、
單に自己を防禦するのみならず、又敵を攻撃するの
必要を感じ、論争は早くより基督教神學の缺くべから
ざる一部となれり。此實行は法式を生じ來り、イン
ニウス、テルチウリアヌス、アテナシウス、アラガ
スチヌス等の文書を見れば、彼等は論争を有力なる
武器と知り、之を最も有効に用ひしことを示せり。
而して法式に意識するときは學問とならざるを得
ず。然れ共論争は大なる熱誠を以て實行せられしこ
際も、一個の學問とまでは發達せざりき。中世と雖も
此に至らざりしなり。之が一の學說として必要ある
ことを深く感ぜられたるは、宗教改革の時なりき。マ
ルチン、ケムニウ、ベラルミン、フニウス等の文書
中には既に此心の暗示せられ居るあり。されど論
争の法式を組織的に立てたるはイエズイト徒なり。
此を以て彼等は『法式』と呼ばれたり。プロテス
タント教徒も之に倣ひ、其文學は著しく發達せり。
シューライエマルツヘルに至り論争學を哲學的科學
の一部として科學體系の中に収めたり。近年各派

分封君。唯一神教

の比較神學研究せられ、又各宗教の間にも比較宗教
學の研究に行はれたる結果、何れの宗教何れの宗
派にも眞理の包蔵せらるること明となり、神學攻撃
は漸くに止むに至り、今日にては最早破邪顯正の語
論を聞くこと少し。

ワの部

分封君 Feudal 職名 國又は州の四

分の支配者の義にして、新約聖書に二箇所に於て
此意義にて使用せらる。即ち、ヘロデ、アンタパス(太
十四の一、路三の一、十九、九の七、徒十三の二)
及びヘロデ、ヒロコ(路三の二)は各々父ヘロデ大
王所領の四分一を嗣ぎ、分封君とせらる。

井の部

唯一神教 Monothemism

原語にては同語なれ共、邦語にては宗
教上の意義を表する時、唯一神教又は一神教と云ひ、
哲學上の意義を表する時、唯一神論又は一神論の語
を用ゆ。此語宗教上にては通常多神教と反對の意に
用ゐらる。猶太國民が開邦諸民族の多神を拜せしに
反し、一神を崇拜せし故を以て、其宗教が唯一神教と
稱せられたるが如し。基督教も唯一神教にして、回教

唯心論

も亦同一の稱呼を通用せらる。唯一神教は又單に多
神教に對するのみならず、萬有神教に對して超越神
教を意味することあり。然れ共哲學上の一神論は萬
有神論、超越神論を含み凡て唯一神を以て宇宙の原
因とすを見解を指す。唯一神教又は唯一神論は拜
一神教(Monolatry)及び交代神教(Ichtheism)
と混同すべからず。拜一神教は多神の存在を認め乍
ら、其中の一のみを拜して他を拜せざる者にして、
最古の猶太人が他の種族の有する神を認め乍ら、自
身はエホバのみ神として事へたるが如き、嚴格なる
意義に於て唯一神教に非ずして、寧ろ拜一神教也。
交代神教とは諸神の權位組織中に於て唯一最高神を
認め、若くは諸神中の或者が交代して最高位を
占むる者にして、古昔の印度人が或時はガアルナを
拜し、或時はインドラを拜したりしが如し。

唯心論 Idealism 學說名 唯心論とは哲學

に於ては、通常唯物論に正反對の學說を云ひ、美術
文學に於ては、通常現實派に正反對の見解を稱する
の名稱也。
哲學上の唯心論にも、二つの別あり。其の一は哲學的
唯心論也。此種の哲學は宇宙の本性は靈智なるも
の、則ち心靈なるもの也と主張するものにして、
唯物論に正反對なるもの也。其二は心理學的唯心論
なり。こは外界の萬象は個人の意識中に存在するも
のにして、個人の意識を離れて別に萬物あるに非ず
となすもの也。佛者の所謂緣起萬象唯識所變と説く
もの、亦此心理學的唯心論の類なり。
今全體として唯心論の發達を稽ふるに、哲學的唯心
論は心理學的唯心論より生じ來るるが如し。換言すれ
ば、心理學的唯心論は、吾人の見聞する事物は畢竟
心内の事物に過ぎずと斷言するものにして、哲學的

井の部 唯心論

唯心論は、此斷定を論據として哲學を構成するもの
也。アカルトは心理學的唯心論の鼻祖なるが、彼は
『我は思想す、故に我在るなり』と意識の事實を
基礎として、我は靈魂なり、而して總ての靈魂が知
覺する所のものは、唯其觀念のみと斷定するに至れ
り(心理學的唯心論)。但し彼は此論を首尾一貫
徹底論出することなせず、延長を有する物質と、
思想を本質とする本體との二者の存在を知ることを
得て非理矛盾に陥りたり。去ればアカルトは一方
に於ては、心理學的唯心論者にして、他方に於ては
哲學的實有論者(外物は眞に存在すべしと説く也。此
非理矛盾を避けんが爲めに、スピノザは凡神論を唱
へ、一の『本體』を假定して、思想と延長を其表裏
の二性質と見做したり。ライブニウツはスピノザに
次で起り、モナド論を主張し、ロツタは經驗論を
唱道して、觀念の起源を經驗に歸したりと雖も、ア
カルトと同じく心理學的唯心論と哲學的實有論とを
結合するの非理矛盾に陥れり。バクレーは此非理
矛盾を洞察して斷言して謂へらく、吾人が見、吾人
が知る所の事物は、皆心意精神靈魂自我の中に存す
る觀念に外ならず、一例を擧げれば、太陽てふ物體は
是れ我が觀念に外ならず、汝の觀念に外ならず、衆
人の觀念に外ならず、而して常に神の觀念に外なら
ず、換言すれば、吾人が太陽てふ感覺を起すは、實
に太陽てふ物體が外界に存在して然るに非ず、唯神
の意力が太陽てふ感覺を吾人の觀念中に起さしむる
のみ也。バクレーは斯くして心理學的唯心論を哲
學的唯心論の基礎となしたり。ヒュームはバクレー
の説に同意する事能はず。懷疑的唯心論を主張し出
したり。其説に謂えらく、吾人が知る所のものは、印
象即ち感覺、觀念及び觀念の聯合のみ、而して是等

は吾人をして輕率にも外物の存在を信ぜしめ、又吾
人の知覺の原因として不可解なる或物の存在を
信ぜしむるもの也。但し其事實なるや否やは是れ實
に疑の存する所なりと。英國特有の唯心論は其起源
を茲に取るものにして、モル、スヘンセルの著作
に於て往々見受くる所の所説也。
偏逸論に於ては、カントが一面ライブニウツの感化
を受け、一面ヒュームの感化を蒙りて、超絶的
若くは批評的唯心論と稱する者を主張するあり
り。而して彼の哲學は多數の哲學的唯心論者の基礎
をなせり、其説の大意左の如し。
(一) 知識の起源 感覺は其内部の感覺たる也、
外部の感覺たるを問はず、皆『本體』若くは『實
在』が起す所のものにして、感覺は唯本體よりの
刺激を受けて、之を時間空間てふ先天的範疇に納
入るなり。且人には『本我』てふ先天的觀念あり
り、是れ感覺より得るに非ず、感覺を統一するも
のなり。而して『本我』には元來本體、性質、原
因、結果てふ先天的觀念の備はり居りて、有らば
る感覺を此範疇内に歸還するなり。
(二) 所知的世界 吾人の知る世界は、實在の世
界に非ずして、現象の世界のみ。則ち悟性、
諸感覺を統一して自ら造りたる現象界のみ。
(三) 實在 總ての事物は現象に過ぎずと雖も、
吾人に印象を興へて感覺を起さしむる『實體』が
外に存するは疑ふ可からず。(是れカントの自家撞
着の點なり)。
(四) 知識以外の理性的作用 カントの立論に従
へば、人の理性は現象以外に出る能はざるものな
るにも拘らず、彼は理性は其先天的作用によりて
現象界を超越し得るをなせり。則ち理性は必然に

唯心論

唯心論

先天的理想を包有す。而して實際的理性は道徳
上の責任を聲明せんが爲めに、自由意志、靈魂不
滅、神の存在を假定し、又之れが實在を必然なら
しむるをなせり。
カントは自家撞着に陥りしが故に、フイフテは此自
家撞着を避けんが爲めに、カントの超越的唯心論を
哲學的唯心論に變形したり。フイフテは從へば『本
體』其物とは心的存在物の謂に外ならず。人は物よ
り生じ來りしに非ず。思想は受動的に外界より受け
たる印象によりて生ずるに非ず。却て人は其決意に
よりて自己の世界を構成するものなり。然り、本我
は全然自ら事物を構成するものなり、則ち萬事萬物
我が意識中にあるなり。
シェリンゲは唯心的凡神論を唱道したり。曰く、實
在は唯一のみ、則ち主観客觀の兩端を一相する唯一
の絕對的理性はなりと。ヘーゲルの汎理論(宇
宙はロゴスの顯現に外ならずとの説)は此立論を根
據としたる者なり。
ヘーゲルの唯心論は、實在を唯一の絕對的理性なり
と斷定すれども、此絕對的理性たるや夫れ自らの中
に差別を包有するものなり。宇宙萬象人間萬事は皆
絕對者の發展に外ならず。則ち絕對者は自ら發展し
て宇宙萬象人間萬事となりしと云ふにあり。但し人
間は絕對者其物なれども、絕對者の全體には非ず。
自然界も亦其本體は靈なるものにて、絕對者に相違
なきも、絕對者の全體には非ず。絕對者は唯一の
理性なれども、其中に自ら差別の存するありとなし。
以てかの有名なる唯心論を結ぶに至れり。
要するに、心理學的唯心論は外界の萬象は人の意識
中に存在すとなし、哲學的唯心論は宇宙の本體は靈
的なるものにして、人類と自然界とは皆其發現に外

井の部

唯名論

ならざるものなり。尙唯心説に就て詳なること
を知らんと欲せば、パークレー、スピノザ、カント、
ヘーゲル、トマス、グリーン、ケイアド等の著書及
び大英百科全書第三十卷哲學の部門を見よ。

唯名論

Nominalism, Realism.

學說名 唯名論(又は名目論) 實在論(又は實
念論)は中世「スコラ」學派中に於て久しく相對時
して論争せし學說にして、其論點は通性(個物との
關係如何に在り。實在論者は曰く、通性(Quantitas
etc.)は實在する者(Gealia)也。唯名論者は曰
く、通性は唯名目(Nomina)に過ぎず、實として發
する氣息に過ぎず。實在論に二あり。一はプラト
ンの實在論を稱する者にして、「通性は個物に先
て在り」と説き、二はアリストテレス的實在論を
稱する者にして、「通性は個物の内に在り」と説け
り。アンセルムの時此論争は既に其端を盡したりし
が、唯名論が明確なる形を取りて現はれ出し、ロ
スラン(Rosenlin or Roselinus)第十一世紀に生れ、
一二二一年には尙生存せり)を以て初めとなす。彼
れ以爲らく、實に存在する者は分つ可らざる個物あ
るのみ、通性は唯個物を指稱する名目に外ならず。
此説は一見別に危險の要素なきが如しと雖も、此説
を推し擴むる時は其結果容易ならざる者あり。何と
なれば、個物のみ實在也とせば、教會は單に名目
又は氣息にして、之を組成せる個人のみ實在となる
べく、從て羅馬教會は信徒に對して教理信條等を規
定して、其信仰の標準となすこと能はざるべけれど
也。又此説は三位一體論に影響すること少からず。
ロスランは實に唯名論に基ける個物的觀念より推論
して以爲らく、若し三神に非ずんば父は子と共に基
督に於て人間とならざるを得ず、換言すれば子のみ

唯名論

唯物論

が化身して父は化身せずといふこと能はず、故にも
し父と子とを一體也とせば、父自ら人間と自らと
の媒介を爲すことならざる可らず、故に三位一體
論は正當には三神論と稱すべき者也。如此彼の説
は正統教會の信仰を危險ならしむるものなりしか
ば、教會は遂に一〇九二年ソマツンの宗教會議に
於て異端として之を排斥せり。其結果唯名論は以後
哈二世紀間現はるること能はざりしが、一三二〇
年頃に至りオッカムのウィリアム又之を再興せり。
彼れ論じて曰く、若し通性が個物に先て存在す
れば、其存在する状態に於ては必ず個物ならざるを
得ず。もし又通性を以て個物の内に存在する者也
せば、是れ通性を多なる者となす也、何となればそ
は多なる物の一々に存在せざるべからざれば也。又
如此見る時は一個物は多くの實物の結合したる者
ならざるべからず、何となれば種々の通性が一個物
に存在すれば也。斯く通性の中に在りとも考ふ可らず
と考ふ可らず、又個物の内に在りとも考ふ可らず
と考ふ人の概念として存在すと見るべき者也。
斯く唯名論が一方に在りて明確なる形を取りて現は
るること共に、他方に在りて實在論も亦明確なる形を
取りて現はるるに至れり。アンセルムは未だ明に唯
名論に對して實在論を主張せざりしが、其哲學思想
は實在論の根據に立ち、當時教會の教ふる所に適ふ
者也とせられて唯名論を壓倒せり。ロスランの唯名
論に對し極端なる實在論を主張したるニシャムガ
のギヨーム(Guillemus 一〇七〇—一一二二)も
之を以爲らく、實體を有する者は唯通性のも
のみ、個物の差別は偶存のもの也、通性は個物をして
存在せしむる眞實の存在者にして、それは實體として
全く同一時に存在する者也、個物に於る差別は唯偶

然のもの、實存せざる外相に過ぎずして實體は通性
の外になし。ロスランの唯名論とギヨームの極端
なる實在論の中間に立ち「通性は個物の内に存在す
る實在也」と説きたるアベラー(Casparus
Abelardus 一〇七九—一一四二)も、彼れ以爲
らく、通性は實在也、去れどそれは個物を離れて存す
るものに非ずして個物の内に在り、個物の外に在て
は唯概念として存するのみ也。

唯物論

Materialism. 學說名 唯物論と
は、宇宙萬事人間の究原因を物質なりと論斷
する學說をいふ。換言すれば、宇宙間の萬物萬事
は、其自然界の出來事たる人間界の出來事たるを
問はず、皆物質及び物質中に含める勢力の然らし
むる所に於て、物質以外別に究竟實在なるものある
なしと論定する學說也。今其源流を稽ふるに、唯
物論はランゲが其「唯物論の歴史」の序頭に特筆
したるが如く、哲學其もの之を問ふ所の也。
然れ共其が唯物論の哲學として世に現はるるに至り
しは、印度に於ては佛敎以前の事に於て、梵語に之
れをロクヤタ(感覺世界に傾向するの意)と云ひ、
唯物論者をロクヤチカと稱し、波羅門經典の深く思
む所也。希臘に於てはデモクリタス(前四六〇頃—
三五七頃)を以て其嚆矢となす。デモクリタスは
最も明白に唯物論を論出したる人にして、靈魂も心
的活動も、ともに其原子(アトム)に依りて解き去ら
ざりたる學者也。彼に從へば、靈魂は諸原子の精
微なる種類に依て成るものにして、心的活動、例之知
覺の如きも、彼れを外界より五官に入り來る原子
の活動に過ぎざるなり。デモクリタスの系統を承
けて唯物論を主張せしは、エピキウロス一派也。而し
てエピキウロスは最も能く古代の唯物論を代表した

井の部

唯物論

る人なるが故に、後世唯物論をエピキウリアニズム、
唯物論者をエピキウリアンと稱するに至れり。
近世哲學界に於ては、古代の粗獷なる唯物論はデカ
ルト哲學の出現と共に殆ど全く影を奪はるに至れ
り。思ふにデカルト(デカルト)同時代の人々の如
き極端なる唯物論者ありて、エピキウロス及びホッ
ブスの説を引用し、強りに其學說の復活に努めざり
しに非ずと雖も、近世の唯物論は古代のそれに比
すれば、極めて緩和なるものなり來れり。換言す
れば、古代の唯物論が心的生活を以て物質の形狀其
物となすに反して、近世の唯物論は之を肉體の官
能若しくは作用となすに至れり。一言を以て之れを
云へば、近世の唯物論は心を肉體の屬性若しくは作用
なりとなすもの也。而して此近世唯物論は、モレスコ
ットの末頭より第十九世紀の中間に至りて、ヘーゲ
ル、フエゲ、プヒヒル等々に依りて遂に唱道せら
れ、一時世界を風靡するの觀をなしたり。今其原因
の二三を摘記すれば(一) 自然科学の進歩にして、
ライオンネルの化學、殊に燃焼の性質に關する發見
は、引きて呼吸の性質に及び、物質不滅の理を確立
し、兼て化學の原理を生物學に應用し得べき新な
る證據を供給したること、フマルク動物學が種不
變(種は一定不變なりとの説)の舊説を破棄して、
順應適應の進化説を主張したること、ラブレヌの天
文學が太陽系の發熱たる運動を物質學の根據により
て解き始めたこと、ライオネルの地質學が地球上の進
化を説明して、物質界の變遷が悠久無限の時間に向
りて成り來りし事を明にしたること(二) 他方には唯
産工業の進歩著しきものありて、物質的利害の觀
念が人心の殆ど全部を占領したること、佛蘭西革命に
依りて喚發されたる唯物的精神が至る所に普及した

る(三) 唯物論に對する哲學の勢力微弱なるを致
せしに由れり。今夫れ當時の哲學界を回顧すべ
ば、唯物論は實に思想界に横行闊歩して、他の哲學
を足下に蹂躪し去りしの觀あり。當時唯心論は氣焰
更に靡らず、ヘーゲルの哲學は遂に高遠幽玄に
馳せたるがため却て思想界に遠ざかるものとなり、
デビッド、ストラウスはヘーゲルの系統を帯びて現は
れ、レドウィッヒ、フオイエルバツム(一八〇四—
七四)もヘーゲル派の左翼として出て來りしが、フオ
イエルバツムは實際は唯物論者に非ずして、コント
の如く人類の哲學者を以て呼ぶべき學者なれ共、
近世唯物論の先驅者として目せらるる人にして、其
言説中には唯物論に對する可らざるものも含有
せり。例之肉體は我が存在の一部分なり、否肉體は
其全體なり、我が木我なりと言ひ、人間とは其食ふ
物の體なりと言ひ、又「人夫れ自ら唯人なれども、
人々との結合、即ち我と汝との結合は即ち神なり」と
言へるが如し。亦以て唯物論の趨勢を知るべき也。
以上に掲げたる科學的、産業的、哲學的の三原因
は、相連して第十九世紀の中間に於りて唯物論の
映盛を極めたりし原因也。此唯物論の映盛は寧ろ之
を唯物論の復興と稱するの便れるに如かざるが如
し。何となれば、此其重要な要點たる「物質と其運
動とは宇宙間の萬事にして永久不滅なるものなり」と
てふ根本義に於て、第十八世紀に佛蘭西に行はれたる
唯物論と同一なれば也。カールフエゲ(一八一七—九
五)は此好適例にして、彼は佛蘭西のカバニスが「腦
は思想に對して、胃腸が消化に、肝臓が胆汁の分
泌に、對して有する同一なる關係を有す」と言へる
を、少しく變形して「思想と腦髓とは胆汁が肝臓
に、尿が腎臓に、於ける其關係相同じ」と主張した

り。モレスコット(一八二二—九三)は當時に於け
る諸科學を基礎として、唯物論を熱心に論辯したる
學者也。彼は無機物と有機物とは、辯然たる區別
あるに非ず、無機物より有機物となり、有機物
に變質循環して極まりなきを主張したり。プヒヒ
ル(一八二四—九九)も同時代の人にして、進化説
を採り來りて唯物論の援助となせし學者也。彼に從
へば、デレウイン説は唯物論の強勁なる證據にして
て、其所謂生存競争、自然淘汰は、有神説の結局原因
を廢除して餘蘊なしとす。彼は明白に自己の唯物論
を告白して曰く「心的活動とは外部の刺激によりて
腦髓中の灰白質細胞内に起れる運動の發射に外なら
ず」と。ヘックルは自ら一元論者なりと稱すれども、
唯物的凡神論者と稱すべきの人也。(ヘックルの説に
就ては「ヘックル」及び「一元論」條を見よ)。
要するに唯物論は物質を以て唯一なる究竟實在とな
すものにして、其説く所の學說に精粗の別ありと雖
も、要は唯物質及び其勢力若しくは運動を以て宇宙萬
衆人間萬事を解釋せんことを企つるものに外ならず。唯
物論に就て詳細に知らんと欲せば、ランゲの「唯物
論の歴史」カールの「哲學緒論」を見よ。此唯物論
の弱點を示すは難事に非ざれ共、概編限りありて今
彼に之を詳論すること能はず。唯僅に其要を述べん
に、唯物論の世界觀として不十分な點は之を二に
約するを得べし。即ち(一) 唯物論者は心意を排斥
之を假定し、默認すること、及び(二) 彼等が世界
の凡ての現象を説明する鍵として用ゆる原理、即ち
勢力、又は運動は無機物に適用するを得べしと雖
も、有機的又は活動的現象に適用すべからず、到底
意識又は知識を説明すること能はざることは也。今

唯物論

唯物論

ヲの部

唯物論

先づ第一の點に就いては、吾人は心意を以て物質の終極の産物と見做すこと能はず。何となれば、斯くなくして於て吾人は既に心意を假定すれば也。凡そ斯る研究の最初の歩程には、思想の範疇を含む。吾人は思想を離れたる客觀的事實を以て吾人の研究を始めること能はず。外界に於る最微最下の事實も獨立せる實體に非ず。是れ即ち思想の媒介に依りて、觀察する所の心意に顯はる、事實又は事物にして、離る可らざる要素として心意又は思想を有するもの也。吾人もし心意又は思想を以て最後の結果となして之に達せんとせば、先づ其出立せる問題の資料として之を除去せざるべからざるべし。吾人の之を爲し難きは、自己の肩の上に立ち、又は自己の影を覆むの難きより難し。思慮なき通常の人々も自己を以て實在世界に圍繞せらるゝ受動的觀察の如く思惟するものにして、斯る人々に取りては、其外界の實在物に就て知る所のもの、即ち其容積、廣さ、形状、數、重量、尺度、其永久的同一、類似及び相違、色彩、音響、趣味等は、唯其意識の鏡面に寫れる如き性質を以て存在する客觀的事實に過ぎず。尙や思慮ある觀察者は斯る盲目的感覺を超越し、通常の人々が自然及び外界の事物に歸する所の者は、唯關係的に觀察者の感覺にのみ存在するものなることを承認す。然れ共彼等も亦同一の誤謬に陥り、思想の創始力に歸すべきものを以て外界の經驗に歸し、觀察又は經驗に依りて與へられたるもの、外は何物をも承認せず。唯物論者の陥る所の誤謬は即ち是にして、彼等は物質的事實及び經驗の外何物もなしと想像し、勢力、法則、物質といふが如き抽象を以て、感覺的事物と同一視し、思想より離れて存在する實在物の如く思惟すれ共、此等のものは經

唯物論

驗的事實に非ずして、思想の所産に外ならず。彼等は感覺以上の事物を認識すれ共、統一、多様、異同、原因、結果、性質等の如き範疇を用ひ、之を用ひることなくしては一步も進むこと能はず。されば唯物論者は心意を排斥し乍ら、之を排斥せんために心意を默認し、心意を使用することなれば、事實に於ては無意識的唯心論者にして、亦以て唯物論の立ち難きを知るべき也。次に唯物論は機械的原因を以て主要の原理となし、無機物より有機的の智力に至る迄、一切の現象を悉く之に依りて説明せんとするに在れ共、此原理は果して之を一般に適用し、有機物のみならず、生命及び思想に對する明晰なる解説を之より引き出し得べきや。生物學者の説に依れば、純然たる化學的要素より生命を生じたる例未だ曾て之れあらざるは、故に先在的生命の力を離れて生命の進化あるべしとのことは、尙根據なき假説に過ぎず。又生命の形質的基礎也と假定せられたる原形質は之を單に化學的化合物也となし難しとのことなれ共、假りに一步を譲りて、或る意義に於ては物質は其中に生命の能力を有すといふを得べしとするも、又無機物物質の或る状態、若くは無機物勢力の活動の或る形状の下に、生命は其存在を顯はし得べしとするも、無機物自然と同一範疇の中に有機的の自性を包容し、若くは機械的原因の原理を生命の現象に適用し得べからざるは依然として同じ。何となれば吾人が生命に達する時は、其進化の前行物理的狀態の何たるに拘はらず、吾人の前に在る現象は之を把住するために、新にして且高き觀念を要求すれば也。換言すれば、吾人は無機物を去りて有機物に達する時、吾人の心意をして勢力若くは動力の觀念より、更に複雑せる自由又は自發

唯理説。婦人

達の觀念に移らしむる者に遭遇す。而して機械的現象は假りに無機的現象の結果と見做すも、之を領解するは唯新にして是より高き範疇の助にのみ依れり。此新にして且より高き範疇に於て、吾人はより豊富なる運動に於てそれ自らを顯現し、且之を領解するために、より高き活動を要する知識を有す。而して思想のより豊富なる運動は少くも組織若くは組織的一致の觀念、内在的若くは自ら保持する組織的一致の觀念及び自意識あるものに於てのみ完全に顯現せる一致の觀念を含蓄す。而して斯る觀念が機械的原因の原理に依りて解釋し難きは明なることにして、唯物論は此處に至りて既に倒れざるを得ず。(アレルスの『神學』「バウの『有神論』」を参照) 『宗教哲學』等を見よ。

唯理説 Rationalism. 學說名 主理説、合理説、純理説又は合理説とも譯す。『唯理説』の條を見よ。

ヲの部

婦人 Woman. 雜語

此條舊新約聖書に於る婦人の地位、教訓を專説す。(一) 舊約及び猶太教に於る婦人、舊約時代に於る猶太の宗教は、後世の猶太教及び回教に於るが如く、婦人を以て全く男子に屈從すべき者也とす。セムナツ人種は凡て婦人に相當の特権を與へたりしが如し。此事は古代亞利比亞の宗教に於て女神が重要な地位を占めたりしに依りて明也。又巴

ヲの部

婦人

比倫、アッスリヤ、フェニキヤの宗教に於ては、婦人が高き地位を占めたりしこと、其女神に與へたりし地位に依りて知るべし。舊約には婦人が偶儀禮拜の主導者たりし例證を記す。例之アサの母マカブアシラ像の禮拜を輸入せしが如き(王上十五の十三)イセメルがアシラ像の預言者を保護して、エホバの預言者を迫害せしが如き(十八の四、十九)エホバのレム(婦女等)が天后を拜したりしが如き(耶七の十八)又彼等が巴比倫の日神を拜したりしが如き(結八の十四)是也。されば當時の婦人が以色列の宗教に於ても亦之と同様の地位を取りたりしことを察し難からず。今之を證せん、(イ) 以色列の婦人は男子と同じく殆ど凡ての宗教上の特権を有したり。即ちヘンナがシロに於て祈りしが如く、彼等は祈禱の特権を有せり(母前一の九)。彼等は凡て宗教上の集會に列することを得たり(士廿一の十六、十九、母前一の二、二の十九、母後六の十九、申十二の十二)。彼等は遺物を獻げ、又之を食することを得たり(士十三の廿、利十の十四)彼等は又ナザレ人の誓願を立て(民六の二)エホバに問ふことを得(創廿五の廿二)エホバ又彼等に顯はれ給へり(十六の七、廿一の十七、十八の九等)(ロ) 婦人は又宗教上重要な職掌を有したり。即ち彼等は口寄をなし(母前廿八の七) 葬式の時痛哭し(耶十六の七、米五の廿八) 幕屋、神殿に奉仕し(出卅八の八) 戦時其他の吉時に歌ひ又は踊り(出十五の廿、士十一の廿四、母前十八の六、詩六十八の廿五) 神聖の禮拜に男子と共に歌を伴はせり(喇二の六十五) 又以色列の歴史には女預言者の常に起れるを見る。モリアム(出十五の廿) デボラ(士四の四、五) ハルダ(王下廿二の十三) の如き是也。基督の當時に在りては、婦

人は神聖に在りて神を拜し、婦人の地位に於ては、之を爲すを得たりしが如し。又會堂に於ても男子と共に禮拜をなしたれ共、彼等より離れて坐したりしが如し。猶太人は小兒の教育を重じたりしが、男子に對しては女子よりも更に進みて律法の厳密なる事まで教へたりしが如し。(二) 新約に於る婦人、福音書に於て吾人は婦人の表面に顯はれ来るを見る。路加傳に於て殊に熱りとなす『我心を崇め』の歌は果してマリヤの作なりや其疑はしけれ共、アソナの女預言者なりしことば明也(二の廿六) 耶蘇は男子の中に於けると同じく婦人の間に傳道し、又彼等の病を癒せり。耶蘇及び使徒等を支給したりし婦人なりき(八の一、三) 耶蘇の死後最先に墓に往きし婦人なりき。使徒時代に至り、彼得は獄を遁れて弟子等に逢はんとす、先づエレサレム或る婦人の家に往けり(徒十二の十二) ヨハに於て多くの善事と施濟とをなしたりしは、タピタなる婦人の弟子なりき(九の廿六) 歐羅巴に於る保羅の最初の信心者はルテヤと稱する婦人に於て、保羅は其一行に於て其家に宿れり(十六の十四、十五) アコロの教を聞きたるはプリスキラにて、其名は夫アキラの前に記されたり(十八の廿六) テモテの信仰は其母と祖母の信仰に基けるが如く記されたり(提後一の五) 約翰第二書は婦人に贈られたるものも如し(約翰第二書)の條を見よ。然れ共耶蘇の選みたる十二使徒の中には婦人なく、彼が傳道のため遣はしたる七十人の弟子の中にも、婦人なかりしが如し(路十の一、二) 又新約文籍の中には婦人の手に依りて成りたる者なし(ハルナツクは希伯來書を以てプリスキラの作也とす) 然れ共パウロの日に婦人も

列席し、共に聖餐の賜を受けたりしが如し(徒一の十四、二の一、四) 保羅はコリント教會の婦人が祈禱を爲し、預言を爲すことを承認し、唯之を爲す時には物を蒙るべしとのことを告げたり(哥前十一の五) 然るに保羅は後に至り『聖徒の諸教會の如く、聖賢の婦女等も教會の中に黙すべし、彼等の語るを許さず、彼等は律法に云へる如く順ふべき者也、もし學ばんとする所あらば室に在りて其夫に問ふべし、蓋し婦女教會に於て語るは恥づべきことなれば也』と云へり(哥前十四の廿四、廿五) 思ふに此は當時コリント教會の婦人が、稍もすれば婦徳を損するが如き行為をなす者ありしを以て、基督教婦人たる者は萬事内氣なるべく、貞節を主とすべく、寡言沈黙なるべきを教へたる者にして、祈禱をなし預言を爲すことを禁じたるに非ず。但し保羅が婦人の男子に従順なるべきを教へたるは明なることにして、彼は『婦なる者、主に従ふが如く己の夫に従ふべし』と云々云へり(弗五の廿二、廿三) 然れ共彼は又之と共に夫の妻を愛すべきことを云ひて婦人の義務を承認し、男女間の關係に關する最も高尚なる觀念を表示せり。且彼は基督に在りては奴隷或は自主、男或は女の區別なしとのことを云へり(加三の廿八) 是れ即ち神の前に在りては、男女の地位に尊卑の別なきことを云へる者にして、新約の教訓は奴隷の解放と均しく婦人の解放を教ふる者也。(三) 基督教と婦人 奴隷の解放が漸次に爲されたるが如く、婦人に關する新約聖書の精神が一般に領解せらるるに至りしも亦漸次の事なりき。中世の基督教は厭世的傾向を帯び、禁慾主義に重きを置きたりし結果、婦人を以て罪惡の素因となして之に反對し、童貞の生涯を稱賛し、彼等のために尼院を開き

婦人

婦人

女の部

女執事

女執事

女執事

たりき。近代婦人解放の運動は第十七世紀佛蘭西に於て開始せられたるを初として、第十九世紀に至り...

女執事

Deaconesses. 職名

新約聖書に於ては女執事に關し明確に記したる處なし。...

者を見舞ふ等の事を掌りし者なるべし。女執事に關し最も早く言及せる者は...

四四年、ベルンに於ては一八四五年、オットワッホム及び伯林に於ては一八四七年同様の養成所を設立...

附録

基督教會年表

（舊約時代の年代は本書『舊約聖書の年代』の條、新約時代の年代は同『新約聖書の年代』の條に出づ。）

- 紀元八一 ドミティアヌス羅馬帝となる（九六年迄在位）。
九八 トリヤヌス羅馬帝となる（一一七年迄在位）。
一〇七（一一五？） アンテオケのイグナチウス殉教。
一一七 アドリアヌス羅馬帝となる（一三八年迄在位）。
一一八 アドリアヌス帝基督教徒追放令を出す（後之を廢す）。
一二五（乃至一三〇） マシリアス死す。
一三〇 アドリアヌス帝エルサレムを再建す。
一三八 アントニウス、ピウス羅馬帝となる（一一六一年迄在位）。
一四〇（乃至一五〇） マルキオヌス羅馬帝に來る。此頃...

- 一六五 ユスチヌス殉教。
一六六（一五五？） ガリカルブ殉教。
一七七 基督教徒リオン及びウィンナに於て迫害せらる。
一七八 イレニウス、リオンの監督となる。
一八〇 コムモドス羅馬帝となる（一九二年迄在位）。
羅馬衰亡に傾く。
一九六 ヴィクトルとゴリグラタスとの間に晩餐論争起る。
二〇二 テルチウリアヌス、モンタヌス派に歸す。
二二〇 亞歴山のクレメンヌス死す。
二二二 羅馬帝セヴェラス被刺を征す。
二二三 マキシミヌス、トラヤヌス羅馬帝となる（二三三年迄在位）。
二四〇 ヒッポリトス死す。
二四三 アモニウス、サッカス死す。
二四八 羅馬建國一千年祭を行ふ。
二四九 テキウス羅馬帝となる（二五一年迄在位）。
二五〇 テキウス帝基督教徒を迫害す。
二五三 ダラレイアヌス羅馬帝となる（二六〇年迄在位）。

- 二五四 ナリゲヌス死す。
二五五 異端者の洗禮に關する論争起る。
二五八 クプロアヌス死す。
二六〇 ガリエヌス羅馬帝となる（二六八年迄在位）。
二六二 サベリウスと亞歴山のディオニシウスとの争論に對する羅馬會議開かる。
二六九 サモサタのワルに對するアンテオケ第三會議開かる。
二七六 マニ死す。
二八四 テイオクレチアヌス羅馬帝となる（三〇五年迄在位）。
北人羅馬を侵す。
二八六 テイオクレチアヌス帝羅馬を四分す。
二九二 テイオクレチアヌス帝大に基督教徒を迫害す。
三〇三 テイオクレチアヌス帝大に基督教徒を迫害す。
三〇六 基督教徒の迫害を禁ず。埃及のメラテイウス派起る。
三一二 ドナチス派亞非利加に起る。
三一八 アリウス異端の宣言を交く。

三三三 コンスタンチヌス大帝羅馬を統一す(三三七
年迄在位)。
三三五 第一回世界會議ニカヤに開かる(アリウス派
即ぜらる)。
三三〇 コンスタンチヌス大帝首府をビザンチウムに
移す。アンテオケのメレタイウス派起る(四
一五年に至る)。
三三五 シロの會議開かる。
三三六 アテナシウス放逐せらる。アリウス死す。
三三七 コンスタンチヌス大帝死す。其子三人帝國を
三分す。
三四一 アンテオケの會議開かる。
三四三 シャブル二世の下に基督教の迫害行はる。
三四四 サルディカの會議開かる。
三四六 フォチヌスに對するミラン會議開かる。
三四八 カルプイウス、ゴッの監督となる。
三五〇 コンスタンチヌス帝國を統一す(三六一年
迄在位)。
三五五 ミランの會議開かる(アリウス派、アリウ
ス派に依りて即ぜらる)。
三六一 ユリアン、セ、アゴステート羅馬帝となる(三
六三年迄在位)。
三六二 亞歷山の會議開かる(アテナシウスを追放
す)。
三六四 グアレンチニアヌス一世羅馬帝となり帝國を
二分し自ら西部を統治し、帝の弟アレンス
東部を統治す。
三六六 ママソス一世羅馬監督となる(三八四年迄在
位)。
三六八 ボアチエのヒラリイ死す。
三七三 アテナシウス死す。

三七四 アムプロジウス、ミランの監督となる。
三七九 カイザリヤの監督パシロロス死す。テオドロ
ス大帝羅馬帝となる(三九五年迄在位)。
三八一 第二回世界會議コンスタンチノーブルに開
る。ウルフイウス死す。
三八三 イエロニムス聖書の拉丁譯を初む(四〇五年
大成す)。
三八四 シリキウス羅馬監督となる(三九八年迄在
位)。
三九〇 ナゾアンスのグレゴリウス死す。
三九五 羅馬帝國分裂し、長く東西二部となる。東帝
國首府をビザンチウムに定む。アウグスチヌ
ス、ヒッパの監督となる。
三九九 アムプロジウス死す。
四〇〇 フレイムス羅馬帝にテリゲヌス徒也とて爵を
らる。
四〇〇 シールのマルチン死す。
四〇二 インノーセント一世羅馬監督となる(四一七
年迄在位)。
四〇三 エピファニウス死す。
四〇七 クリストモス死す。
四〇八 テオドロシウス二世羅馬帝となる(四五〇年
迄在位)。
四一五 ヘラギルス糾問のためエルサレム及びア
スボシスの會議開かる。
四一六 ヘラギルス糾問のためメレゲエ及びカルセ
イの會議開かる。
四一八 カルセーイの總會議開かる。ユウラリウスと
ゴニファキウスとの間に羅馬監督位の争起
る。
四二〇 イエロニムス死す。ペーラム五世基督教徒を

四二二 ヌレスチヌス一世羅馬監督となる(四三二年
迄在位)。
四二八 ゼストリウス、コンスタンチノーブルの教長
となる。
四二九 モプスエシアのテオドール死す。
四三〇 クリロス宣明せらる。アウグスチヌス死す。
四三一 第三回世界會議エパソに開かる。
四三二 聖パトリック愛蘭に傳道す。モハチ、カッシ
アヌス死す。
四四〇 レオ一世羅馬監督となる(四六一年迄在位)。
四四四 亞歷山の監督カリロン死す。ディオスコルス
カリロスに繼ぐ。
四四五 羅馬帝アレンチニアヌス三世羅馬監督は全
基督教會の首長として立法及び司法の最高權
を有するを承認する旨の勅令を發す。
四四八 ユラティウス、コンスタンチノーブルに於て
破門せらる。
四四九 エペソの「盜賊會議」開かる。アングロ人サ
キソン人等アリオンを襲ふ。
四五一 第四回世界會議カルケドンに於て開かる。
四五七 テオドレトス死す。
四七五 牛ヘラギルスに關する會議アールス及びリ
オンに開かる。
四七六 四羅馬帝國滅亡す。
四八二 セヴェリウス死す。
四八四 東西兩教會三十五年間の紛争初まる。
四九二 グラシウス一世羅馬監督となる(四九六年迄
在位)。
四九六 フランシ人基督教徒を信ず。クロウイス洗禮を

五二七 ヌスチニアヌス一世東羅馬の帝位に登る(五
六五年迄在位)。
五二九 ペテライクトス僧派起る。
五三三 グアデル帝國滅亡す。
五四四 スキー、チャプメリス (the Three Claple
s) 即ぜらる。
五五三 第五回世界會議コンスタンチノーブルに開
る。
五五四 オストロゴス帝國滅亡す。
五六三 プラガの會議開かる。聖コロムバ、ビクト人
及びスコット人の間に傳道す。
五七〇 モハメッド生る。
五八九 トレド一の會議開かる。コロムバヌス及びガ
ロス佛蘭西のヴォスワの曠野に僧院を設
く。
五九〇 グレゴリウス一世羅馬監督となる(六〇四年
迄在位)。
五九五 シールのグレゴリウス死す。
五九六 アウグスチン宣教師として英國に往く。
五九七 聖コロムバ死す。エテルヘルト洗禮を受く。
六〇六 フォカス帝國羅馬の至上權を承認す。
六〇九 アンテオケの猶太人基督教徒を成殺す。
六一一 ヘラクリウス東羅馬帝位に即く(六四一年迄
在位)。モハメッド宣教を開始す。
六一五 コロムバヌス死す。
六二二 モハメット、メッカに出奔す(之を回教の紀
元とす)。
六二五 オノリウス一世法王となる(六三八年迄在
位)。
六三六 セヴェルのイシドール死す。
六三七 回教の教主マムル、エルサレムを征服す。

六四〇 オーマル埃及を征服す。
六四二 コンスタンチヌス二世東羅馬の帝位に即く(六六
八年迄在位)。サラセン人大に波斯軍を敗る。
六四六 聖ガルス死す。
六四七 サラセン人亞非利加及びシプロ島の覇權を握
る。
六四九 マルチン一世法王となる(六五三年迄在位)。
第一回拉丁會議開かる。
六五九 サラセン人東羅馬帝コンスタンチヌスと議和し、
議費を納るゝを約す。
六六二 マキシムス(僞佛師)死す。
六六二 サラセン人、ゴス王のために西班牙より逐斥
せらる。
六七七 ウイルフリッド、フリウヤ人に傳道す。
六七八 アガト一世法王となる(六八二年迄在位)。
六八〇 第六回世界會議コンスタンチノーブルに開
る。
六八七 カロリウワ家のハビン、フランシ王國の全
權を握る。
六九六 ルーベルト、バグアリヤに傳道す。
七一〇 サラセン人西班牙を征服す。
七一一 シャール、マルテル佛國の全權を執る。
七二四 グレゴリウス二世法王となる(七三一年迄在
位)。(英國の僧ゴニフェーリス日耳曼に來り傳道
す)。
七二七 レオ三世東羅馬の帝位に即く(七四一年迄在
位)。
七二六 レオ帝偶像禮拜禁止令を出す。國內ために騒
然たり。
七三〇 レオ帝再び偶像禮拜禁止令を出す。
七三一 グレゴリウス三世法王となる。

七三二 シャール、マルテル、サラセン人を敗りフラ
ンク帝國を授ふ。ゴニフェーリス大監督及びア
ガストリック、ゲイカルとなる。イェルリア羅
馬監督區より分離す。
七四一 シャール、マルテル死す。グレゴリウス三世
死す。レオ帝死す。ガカリウス法王となる(七
五二年迄在位)。コンスタンチヌス、コプロニ
ウス東羅馬帝となる(七五五年迄在位)。
七五二 ゴニフェーリス、メンタの大監督となる。
ハビン、セ、ジョート、メロヴィンワ朝最
後の王ナルテリクを廢し、自らフランシ帝
となり、カロルガイアン朝を立つ。羅馬法王
の政權漸く發展す。
七五四 偶像敬禮に關する會議コンスタンチノーブル
に開かる。ヘビン法王領地を寄進す。
七五五 ゴニフェーリス死す。
七六八 シャールマンチ、ハビンに繼ぎフランシ帝位
に登る(八一四年迄在位)。
七七二 ハドリアヌス法王となる(七九五年迄在位)。
七七四 シャールマンチ、ロンバルド王國を滅し以太
利國王となる。羅馬法王に領地を寄進す。
七八七 第七回世界會議ニカヤに開かる。前庭及び帝
院附屬の學校諸處に立てらる。
七八九 ノルマン人初めて英國に侵入す。
七九四 フランシフョールの會議開かる。シャールマ
ンチ大に領地を敗る。
七九五 レオ三世法王となる(八一六年迄在位)。
八〇〇 レオ三世シャールマンチの戴冠を行ふ。
八〇四 サキソン戰爭終る。アルクイン死す。
八一三 レオ東羅馬帝となる(八一〇年迄在位)。
八一四 シャールマンチ死し、其子ルイ(軟皮王)繼

- 八二六 東羅馬皇帝に五リ國力疲弊す。
- 八二七 アニヤンのベネディクトス寺院制度を改革す。イギリスを三子に分つ。
- 八二〇 ヨカセル、パルマス東羅馬皇帝となる(八二九年迄在位)。
- 八二五 偶像禮拜反對の會議(バズ)に開かる。
- 八二六 アンスガルドに傳道す。
- 八二七 ウエセラクス王(英)を統一す。サラセン人(シ)を征服す(八七八年に至る)。
- 八二九 オットー一世東羅馬皇帝となる(八四二年迄在位)。
- 八三三 ハムブルグの大監督區設立せらる。
- 八三九 ツーリンのクラウディウス死す。
- 八四〇 シャーレル(亮王)フランス王位に登る(八七七一年迄在位)。
- 八四二 テオドラ、パトリシアン派根柢の議を議す。
- 八四四 パスカシウス、ワドベルトス晩年化體説を唱ふ。
- 八四五 レーヌスのヒンタマル、佛王(シャルル)に推され、レーヌスの大監督となる(八八二年迄在位)。
- 八四六 サラセシ人羅馬に侵入す。
- 八四八 マインツの會議開かる(ゴットシャルクを異端と宣告す)。
- 八五〇 基督教徒西班牙にて迫害せらる(八五九年に至る)。
- 八五五 グアレンスの會議開かる(ゴットシャルクを庇護す)。
- 八五六 ラボヌス、マリウス死す。
- 八五八 ニコラ一世法王となる(八六七年迄在位)。
- 八六三 クロロス及びメテイウス、セラヴィヤに注ぐ。
- 八六五 フォチウス死す。
- 八六六 フォチウス同文を發し、拉丁教會を異端と宣言す。
- 八六七 パウル東羅馬皇帝となる(八八六年迄在位)。
- 八六八 ハドリアヌス二世法王となる(八七二年迄在位)。
- 八六九 第八回(拉丁)世界會議(コンスタンチノープル)に開かる。
- 八七一 パウル皇帝(ワシアン派)を抑制す。アルフレッド(英)王となる(九〇一年迄在位)。
- 八七五 法王(ロバート)ハチ(亮王)の冠を行ふ。
- 八七九 第八回(希臘)世界會議(コンスタンチノープル)に開かる。
- 八八六 レオ(哲學者)東羅馬皇帝となる(九一一年迄在位)。
- 八八一 フォチウス死す。
- 九一〇 アベット、ベルン、タルニーを建つ。
- 九一一 コンラド一世日耳曼王となる(九一八年迄在位)。
- 九一四 ヨハネ十世法王となる(九二八年迄在位)。
- 九一五 英王エドワード(鋼)に大學を建つ。
- 九一九 ハイネリヒ一世日耳曼王となる(九三六年迄在位)。
- 九三四 ハイネリヒ一世(丁)に迫りて基督教を寛容せしむ。
- 九三六 オット一世日耳曼皇帝に登る(九七三年迄在位)。
- 九四二 タルニーのオド、タルニー修道會を建つ。
- 九五〇 匈牙利のギラス洗禮を受く。
- 九五五 オルガ、コンスタンチノープルに於て洗禮を受く。
- 九六一 オット一世(大)王(亮)に於て洗禮を受く。於是(大)王位(亮)より移りて日耳曼皇帝に稱す。
- 九六二 日耳曼王オット一世羅馬の帝位を復し、日耳曼の羅馬神聖國を建てる。
- 九六三 羅馬會議法王(ハチ)十二世を廢す。
- 九六六 波蘭王(ミ)シスラウ洗禮を受く。
- 九六八 マグアアルグの大監督區設立せらる。
- 九七〇 パトリシアン派スレスに移る。
- 九七三 オット二世日耳曼皇帝に登る(九八三年迄在位)。
- 九八三 オット三世日耳曼皇帝に登る(一〇〇二年迄在位)。
- 九八七 ヒワ、カハ(佛蘭西)の王となる(ヒワ、カハ朝は一三二八年に至る)。
- 九八八 基督教徒(西)に入らる、ウラギミル(露)國の教化に努む。
- 九九六 グレゴリウス五世法王となる(九九九年迄在位)。
- 九九七 普蘭士の使徒(ブ)ラウの(ア)ダ(ル)ト死す。ステフェン一世(ゲ)に嗣ぎて匈牙利を治め(一〇三八年迄在位)基督教を國教となす。
- 九九九 シルゲステル二世法王となる(一〇〇三年迄在位)。
- 一〇〇〇 オラフ、トリーア(ゲ)ン(ト)死す。基督教ア

附録

- 一〇四二 ハイネリヒ二世日耳曼皇帝に登る(一〇二四年迄在位)。
- 一〇〇八 瑞興のオラフ、スカウトコング洗禮を受く。
- 一〇〇九 グレノー(ア)死す。
- 一〇二二 ベネディクト八世法王となる(一〇二四年迄在位)。
- 一〇二四 カニウト全英國の王となる(一〇三六年迄在位)。
- 一〇二四 コンラド二世日耳曼皇帝となる(一〇三九年迄在位)。
- 一〇二五 カニウト大王基督教に改宗す。
- 一〇三〇 諸威のオラフ、セ、シツク死す。
- 一〇三一 西班牙に於けるオムマイド(カ)リフ(朝)を廢す。
- 一〇三九 ハイネリヒ二世日耳曼皇帝に即く(一〇五六年迄在位)。
- 一〇四二 エドワード(懺悔者)英國王となる。
- 一〇四六 ハイネリヒ三世(スト)に會議を開き、法王候補者を斥け、自ら(タ)レメント二世を應じて法王となす。
- 一〇四九 シオ九世法王となる(一〇五四年迄在位)。
- 一〇五〇 羅馬及び(ゲ)ル(マ)に會議を開き、晩年化體説の否定者(ト)ールの(ヘ)レン(ガ)リウスを加す。
- 一〇五四 希臘教會羅馬教會と全く分離す。
- 一〇五六 ハイネリヒ四世日耳曼皇帝となる(一一〇六年迄在位)。
- 一〇五九 法王ニコラス二世、法王の選舉はカルテイル會に於てすべきことを令す。
- 一〇六六 ノルマンディー公(ウィ)リアム英國に侵入し、ハロールド二世を破り英國王となる。
- 一〇七三 グレゴリウス七世(ロ)バ(ア)ラ(ン)ド、法王となる(一〇八五年迄在位)法王日耳曼皇帝ハイネリヒ四世と争ふ。
- 一〇七四 グレゴリウス七世(僧)官(買)及(び)僧(の)妻(帯)禁(止)に(就)き會議を開く。
- 一〇七五 グレゴリウス七世(叙)任(停)止に(就)き會議を開く。
- 一〇七六 ハイネリヒ四世(グ)レ(ゴ)リ(ウ)ス七世を廢せんとして(ウ)ル(ム)スに會議を開く、法王も亦帝を廢せんとして日耳曼諸侯と相結ぶ。
- 一〇七七 ハイネリヒ四世(自)ら(カ)ノ(ッ)サに至り謝罪す。
- 一〇八〇 ハイネリヒ四世(グ)レ(ゴ)リ(ウ)ス七世を廢し、(ギ)バルトを立てて法王となす。
- 一〇八四 ハイネリヒ四世(グ)レ(ゴ)リ(ウ)ス七世を(サ)ント(ア)ン(セ)ロ(城)に閉じ、(ロ)バ(ル)ト、(ギ)ス(カ)ルド法王を擁護す。
- 一〇八六 コロンの(ア)ル(ル)ー、(カ)ル(ツ)ウ(ア)ン(僧)派を建つ。
- 一〇八八 (リ)バ(ン)二世法王となる(一〇九九年迄在位)。
- 一〇九三 アンセルム、カンターベリーの大監督となる。
- 一〇九五 (ウ)ル(バ)ン二世(ヒ)ア(セ)ン(ザ)及び(タ)レ(ル)ロ(ン)トに會議を開き、聖地(回)復のため十字軍を起すことを宣告す。
- 一〇九六 第一回十字軍起り、(ゴ)ット(フ)レ(ー)、(バ)ル(ド)ウ(イ)ン、(ロ)バ(ル)等之に對して聖地に向ひて進軍す。
- 一〇九七 十字軍(ニ)カ(ヤ)を取り、(ト)リ(ウ)ムに於て(イ)コニ(ウ)ム王を破る。
- 一〇九八 十字軍(ア)ン(テ)マ(キ)を取る。シ(ト)ーの(ロ)バ(ル)ト、(シ)ス(テ)ル(シ)ア(ン)僧(派)を建つ。
- 一〇九九 十字軍(エ)ル(サ)レ(ム)を取る(第)一(十)字(軍)の終り。パ(ス)カ(リ)ス二世法王となる(一一二八年迄在位)。
- 一一〇六 ハイネリヒ五世日耳曼皇帝となる(一一二五年迄在位)。
- 一一〇九 カンターベリー大監督アンセルム死す。
- 一一一一 ハイネリヒ五世法王(パ)ス(カ)ル(二)世を捕へ(叙)任の全權を強制す。法王ハイネリヒのため(に)即位の式を行ふ。
- 一一一二 (パ)ス(カ)ル(二)世、ハイネリヒ五世に與へし許を廢し王を廢す。
- 一一一三 (タ)レ(ア)グ(ア)ーの(バ)ル(ナ)ル、(シ)ト(ー)僧(院)に入る。
- 一一一八 (ナ)イト、(テ)ム(ブ)ラ(ラ)僧(派)起る。
- 一一一九 (カ)リ(タ)ス(タ)ス二世法王となる(一一二四年迄在位)。
- 一一二二 (ウ)ル(ム)スの宗教條約成る。日耳曼皇帝ハイネリヒ五世法王(カ)リ(タ)ス(タ)ス二世と會し、僧官(叙)任の争を定め、僧の自由(選)舉を許す。
- 一一二三 第九回世界會議(第一回(ラ)テ(ラ)ン)開かる。
- 一一二四 (バ)ム(ベ)ル(グ)の(オ)ット(ー)第一(傳)道(旅)行に上る。
- 一一二八 (ハ)ム(ベ)ル(グ)の(オ)ット(ー)第二(傳)道(旅)行に上る。

附録

一三三〇 インノセント二世法王となる(一一四三年迄在位)。
 一三三八 コンラド三世日耳曼帝となる。
 一三三九 第十回世界會議(第二回ラテラン)開かる。
 一三四一 センズの會議アベラールの文書を罪す。グイクトルのユートゴリ死す。
 一三四二 アベラール死す。
 一三四四 ゴチアタ型建築盛に行はる。
 一三四五 ユウゲンヌ三世法王となる(一一五三年迄在位)。
 一三四六 エアツサ隔る。
 一三四七 第二十字軍起る、コンラド三世、佛王ルイ七世之に將たり。
 一三四八 十字軍ダマスコを圍みて克たす。
 一三四九 十字軍聖地より歸る。
 一三五一 フリードリヒ一世(バルバロッサ)日耳曼帝となる(一一九〇年迄在位)。
 一三五三 クレアヴェーのメルナル死す。
 一三五四 ハドリアヌス四世法王となる(一一五九年迄在位)。
 一三五五 アレシアのアルノール殺さる。
 一三五六 カルメル派起る。
 一三五七 基督教券關に入る。
 一三五九 アレキサンデル三世法王となる(一一八一一年迄在位)。
 一三六〇 アルビゲンヌ徒起る。法王アレキサンデル三世フリードリヒを破門す。
 一三六四 英國僧侶の權威に反抗して、ラランドン法出づ。
 一三七〇 カンターベリーの大監督トマス、ベケワット殺さる。ワアルニス派起る。

一三七七 フリードリヒ及び法王アレキサンデル三世ゲニニスに會して和を結ぶ。
 一三七九 第十一回世界會議(第三回ラテラン)開かる。
 一三八〇 サリスベリーのワロン死す。
 一三八七 サラティン、エルサレムを征服す。
 一三八九 第三十字軍起る、日耳曼帝フリードリヒ一世英王リチャード一世佛王フィリップ二世之に將たり。
 一三九〇 フリードリヒ一世カリカドヌス河に溺死す。其子ヘインリヒ六世日耳曼帝となる(一一九七年迄在位)。
 一三九二 英王リチャード、サラティンと休戦を約し、其歸途國のために擧げらる。
 一三九四 テサロニカのユウスマチウス死す。
 一三九八 インノセント三世法王となる(一一二六年迄在位)。
 一四〇一 第四十字軍起る。
 一四〇二 フロリスのヨアキム死す。
 一四〇四 拉丁帝國コンスタンチノープルに創建せらる。(一一二一年に至る)。
 一四〇六 巴理大學の組織成る。
 一四〇七 ステイブアン、ラングトン、カンターベリーの大監督となる。
 一四〇九 アルビゲンヌ派迫害を開始し、一一二九年に至り之を撲滅す。フランセスコ僧派創立せらる。
 一四一二 トロサの戦(アルモハド家の長ムハマドト基督教徒と戦て敗る、是より西進牙に於ける亞利比亞人の勢力衰ふ)。小兒十字軍起る。

一四一五 フリードリヒ二世日耳曼帝となる(一二五〇年迄在位)。英王エドワード一世追られてマゲナカルに調印す。第十二回世界會議(第四ラテラン)開かる。ドミニクス僧派創立せらる。
 一四一六 オノリス三世法王となる(一二二七年迄在位)。ドミニクス派法王の准允を受く。
 一四一七 匈牙利王安ドリーウ二世及び諸王子第五十字軍を起す。
 一四二二 フランセスコ派法王の准允を受く。
 一四二六 アシシのフランセスコ死す。ルイ九世佛王となる(一二七〇年迄在位)。
 一四二七 グレゴリウス九世法王となる(一二四一年迄在位)。
 一四二八 日耳曼帝フリードリヒ二世第六十字軍を起す。
 一四二九 フリードリヒ二世埃及王と平和を約し、十字軍を止む。聖地基督教徒の手に歸す。
 一四三〇 聖エリサベツ死す。
 一四三二 宗教裁判制度立てらる。
 一四三三 マールブルクのコンラド殺さる。
 一四三四 インノセント四世法王となる(一二五四年迄在位)。
 一四四五 第十三回世界會議(第一回オラン)開かる。ヘールのアレキサンデル死す。
 一四四八 コロソン大會堂の礎石置かる。佛王ルイ九世第七十字軍を起す。
 一四四九 十字軍ダミータを取る。牛津大學創立せらる。
 一四五〇 ルイ九世の軍埃及人に破らる。
 一四六〇 ミカエル、パレーオロガス、コンスタンチ

附 録

一四六一 ヌーブルを回復し、東羅馬帝の位に即く(一一二八年迄在位)。
 一四六二 ヴルバヌス四世法王となる(一二六四年迄在位)。
 一四七〇 佛王ルイ九世第八十字軍を起す。王ナムニスの戦に死す。フィリップ三世佛王となる。
 一四七一 グレゴリウス十世法王となる(一二七六年迄在位)。
 一四七二 マルコ、ゴロ浸遊を知む。プリンス、エドワード聖地を放棄す(十字軍終る)。
 一四七三 ハプスブルクのルドルフ日耳曼帝となる(一二九一年迄在位)。
 一四七四 第十四回世界會議(第二回オラン)開かる。トマス、アグイナス死す。ボナヴェンチュラ死す。
 一四八〇 アルベルト、セ、グレート死す。
 一四八三 ナウトン人五十年戦争の後普蘭士の征服を完了す。
 一四八五 フィリップ(魔王)佛王となる。
 一四九一 埃及及びシリアの支配者アシラフ、アタルを取る。之より聖地永く回教徒の有となる。
 一四九二 ローザカ、ペーコン死す。ボニアキウス八世法王となる(一一三〇三年迄在位)。
 一四九六 法王ボニアキウス八世宗教的租税に関する法令(Ordnance)を發す。
 一五〇〇 羅馬加特力教會第一回大祝賀を行ふ。ローラド徒アントウケルに起る。
 一五〇五 タレメント五世法王となる(一一三十四年迄在位)。
 一五〇八 ダンス、スコチス死す。
 一五〇九 法王居所をアビヨンに移す(一一三七年に

一三六一 ヌーブルを回復し、東羅馬帝の位に即く(一一二八年迄在位)。
 一三六二 ヴルバヌス四世法王となる(一二六四年迄在位)。
 一三七〇 佛王ルイ九世第八十字軍を起す。王ナムニスの戦に死す。フィリップ三世佛王となる。
 一三七一 グレゴリウス十世法王となる(一二七六年迄在位)。
 一三七二 マルコ、ゴロ浸遊を知む。プリンス、エドワード聖地を放棄す(十字軍終る)。
 一三七三 ハプスブルクのルドルフ日耳曼帝となる(一二九一年迄在位)。
 一三七四 第十四回世界會議(第二回オラン)開かる。トマス、アグイナス死す。ボナヴェンチュラ死す。
 一三八〇 アルベルト、セ、グレート死す。
 一三八三 ナウトン人五十年戦争の後普蘭士の征服を完了す。
 一三八五 フィリップ(魔王)佛王となる。
 一三九一 埃及及びシリアの支配者アシラフ、アタルを取る。之より聖地永く回教徒の有となる。
 一三九二 ローザカ、ペーコン死す。ボニアキウス八世法王となる(一一三〇三年迄在位)。
 一三九六 法王ボニアキウス八世宗教的租税に関する法令(Ordnance)を發す。
 一四〇〇 羅馬加特力教會第一回大祝賀を行ふ。ローラド徒アントウケルに起る。
 一四〇五 タレメント五世法王となる(一一三十四年迄在位)。
 一四〇八 ダンス、スコチス死す。
 一四〇九 法王居所をアビヨンに移す(一一三七年に

一三六一 ヌーブルを回復し、東羅馬帝の位に即く(一一二八年迄在位)。
 一三六二 ヴルバヌス四世法王となる(一二六四年迄在位)。
 一三六三 プラレ派壓抑せらる。
 一三六四 ルイ十世(バグリアン)フィリップ四世の後を繼ぐ。
 一三六六 ヌーブルに於て初まる(一一三五年に至る)。
 一三六八 カレル四世日耳曼帝となる(一一三七年迄在位)。
 一三四二 タレメント六世法王となる(一一三五年迄在位)。
 一三四六 カレル四世日耳曼帝となる(一一三七年迄在位)。
 一三四八 プラレ大舉建てらる。黒死病歐洲を襲す(一一三五〇年)。
 一三五二 インノセント六世法王となる(一一三六二年迄在位)。
 一三五六 日耳曼帝カレル四世ゴールアン、プールのウィックリアフ乞巧僧の無益なることを論ず。

一三六一 ヌーブルを回復し、東羅馬帝の位に即く(一一二八年迄在位)。
 一三六二 ヴルバヌス四世法王となる(一二六四年迄在位)。
 一三六三 ヌーブルに於て初まる(一一三五年に至る)。
 一三六六 ヌーブルに於て初まる(一一三五年に至る)。
 一三六八 カレル四世日耳曼帝となる(一一三七年迄在位)。
 一三四二 タレメント六世法王となる(一一三五年迄在位)。
 一三四六 カレル四世日耳曼帝となる(一一三七年迄在位)。
 一三四八 プラレ大舉建てらる。黒死病歐洲を襲す(一一三五〇年)。
 一三五二 インノセント六世法王となる(一一三六二年迄在位)。
 一三五六 日耳曼帝カレル四世ゴールアン、プールのウィックリアフ乞巧僧の無益なることを論ず。

一三六一 ヌーブルを回復し、東羅馬帝の位に即く(一一二八年迄在位)。
 一三六二 ヴルバヌス四世法王となる(一二六四年迄在位)。
 一三六三 ヌーブルに於て初まる(一一三五年に至る)。
 一三六六 ヌーブルに於て初まる(一一三五年に至る)。
 一三六八 カレル四世日耳曼帝となる(一一三七年迄在位)。
 一三四二 タレメント六世法王となる(一一三五年迄在位)。
 一三四六 カレル四世日耳曼帝となる(一一三七年迄在位)。
 一三四八 プラレ大舉建てらる。黒死病歐洲を襲す(一一三五〇年)。
 一三五二 インノセント六世法王となる(一一三六二年迄在位)。
 一三五六 日耳曼帝カレル四世ゴールアン、プールのウィックリアフ乞巧僧の無益なることを論ず。

一三六一 ヌーブルを回復し、東羅馬帝の位に即く(一一二八年迄在位)。
 一三六二 ヴルバヌス四世法王となる(一二六四年迄在位)。
 一三六三 ヌーブルに於て初まる(一一三五年に至る)。
 一三六六 ヌーブルに於て初まる(一一三五年に至る)。
 一三六八 カレル四世日耳曼帝となる(一一三七年迄在位)。
 一三四二 タレメント六世法王となる(一一三五年迄在位)。
 一三四六 カレル四世日耳曼帝となる(一一三七年迄在位)。
 一三四八 プラレ大舉建てらる。黒死病歐洲を襲す(一一三五〇年)。
 一三五二 インノセント六世法王となる(一一三六二年迄在位)。
 一三五六 日耳曼帝カレル四世ゴールアン、プールのウィックリアフ乞巧僧の無益なることを論ず。

附 録

附 録

- 一四三三 印刷術發明せらる。
- 一四三四 ペーミンゴフロドのフランスを襲撃せらる。
- 一四三八 フローレンスの反教會會議開る。
- 一四三九 フローレンスの會議開る。
- 一四四八 ウィンナの宗教條約成る。
- 一四五〇 聖書初めて活字にて印刷せらる。
- 一四五三 ヨハネ二世コンスタンチノールを陥る、東羅馬帝國滅亡す。カスチロンに於て佛軍英軍を破り、英佛百年戦争終る。
- 一四五七 ロウレンチウス、ゲアルド死す。
- 一四九八 ビュクス二世法王となる。(一四六四年迄在位)。
- 一四六四 パウル二世法王となる。(一四七一年迄在位)。
- 一四六七 ゴヘン兄弟徒ローマに會す。
- 一四七一 トマス、ア、ケムヒス死す。ソクスタヌ四世法王となる。(一四八四年迄在位)。葡萄牙人初めて赤道直下を通る。
- 一四八三 マルチン、ルーテル生る。西班牙に宗教裁判所起る。
- 一四八四 インノーセント八世法王となる。(一四九二年迄在位)。ツライングリー生る。
- 一四八五 ルドルフ、アラリコ死す。
- 一四八九 シモン、ウラセル死す。
- 一四九一 サゴナナロー聖マルコ庵長となる。
- 一四九二 アレキサンデル六世法王となる。(一五〇三年迄在位)。グラナダ陥る。コロムブス、キエバ島を發見す。
- 一四九三 マキシミリアン一世日耳曼帝となる。(一五
- 一九九七 九年迄在位)。コロムブス西班牙に歸り再び航海を始む。
- 一四九七 メランクトン生る。カボット北亞米利加大陸を發見す。ゲアスコ、ダマ喜望峯を廻り印度洋に航す。
- 一四九八 サゴナナローヲ焚殺せらる。
- 一五〇二 ウィンテンベルグ大學建てらる。コロムブス第四回の航海をなす。
- 一五〇三 ユリウス二世法王となる。(一五一三年迄在位)。
- 一五〇六 ユリウス二世羅馬聖彼得大會堂を建つ。葡萄牙人マダガスカル島を發見す。
- 一五〇八 ルーテル、ウィンテンベルグ大學の教授となる。ラファエル繪畫の面目を改む。
- 一五〇九 カルグイン生る。英王ヘンリー八世立つ。(一五四七年迄在位)。
- 一五一一 ルーテル羅馬に往く。ヒサ會議開る。
- 一五二二 ルーテル神學博士の學位を受け、且説教者となる。第五回ラテラン會議開る。(一五二七年に至る)。
- 一五二三 レオ十世法王となる。(一五二一年迄在位)。
- 一五四一 ロイロリン、ドミニコ派と争ふ。
- 一五五一 ウィルヘルム、英王ヘンリー八世に依り大法官とせらる。
- 一五一六 エラスムス新約全書を出版す。ツライングリー、マリア、アインショーアレンにて説教す。
- 一五一七 ルーテル九十五箇條をウィンテンベルグ教會の門扉に掲ぐ。葡萄牙人明國に通商す。ルーテル、アラグサス會議に出建す。メランクトン、ウィンテンベルグ大學の教授となる。
- 一五二二 ハドリアヌス六世法王となる。(一五二三年迄在位)。ツワイッカウの預言者起る。ロイヒリン死す。ルーテル新約全書を譯す。クレメント七世法王となる。(一五三四年迄在位)。トマス、モウラケル、アルステットの牧師となる。ウツキンゲン、トレフェスの大監督に降服す。
- 一五二四 スタウヒツツ死す。カールスマッド、オルフヨウレンテの牧師となる。エラスムス、ルーテルに反對す。ヨレムベルグの國會開る。レゲンズブルグの同盟成る。ハンズ、マリセン丁棟にて宗教改革を唱ふ。
- 一五二五 ヨハン(確立者)サキソニア選侯となる。晩業論争初まる。ルーテル結婚す。普蘭士公國建つ。チンデル聖書の英譯を始む。ハムブルグ會議開る。トルケウ同盟成る。スパイエル會議開る。バーアンの神學總會開る。
- 一五二八 マルンにて討論會開る。蘇國の改革者ハ

附 録

- 一五二九 トリツツ、ハミルトン火利に處せらる。
- 一五二九 ルーテル、サキソニアの教會を巡視す。スパイエル第二會議開る。マルテアブルグ會議開る(ルーテル派、ツライングリー派の人々相會す)。カッセルの平和條約成る。プロテスタント教義の國教となる。
- 一五三〇 アラグサス會議開る。アラグサスアルヒ信仰告白定めらる。コヘルニカ太陽系の説を唱ふ。
- 一五三一 シュマルカルド同盟成る。ツライングリー戦死す。カッセルの第二平和條約成る。
- 一五三二 ヨハン、フレアツツ、サキソニア選侯となる。スレンブルグの宗教平和條約成る。英王ヘンリー八世羅馬法王の教權を否認す。
- 一五三四 ルーテル聖書の翻譯を大成す。アナバプテリスト徒ミラノに起る。パウル三世法王となる。(一五四九年迄在位)。
- 一五三五 ヘンリー八世英國教會の首長となる。カルグインの『インスナクト』出づ。
- 一五三六 エラスムス死す。ウィンテンベルグ、コンコルド成る。カルグイン、ウエテグアに居を定む。メンノー、シモンズ洗禮を受く。シュマルカルド條約出づ。アンチノミアン論争初まる。
- 一五三八 シュマルカルド同盟成る。カルグイン、ウエテグアより追放せらる。
- 一五四〇 イェズイット社創立せらる。スパイエル、ハーグノリ及びワルムスに於て宗教會議開る。
- 一五四一 カールスマッド死す。カルグイン、ウエテグアに歸る。
- 一五四二 フランシス、ザグイエー東印度に傳道す。
- 一五四四 ケーニヒベルグ大學建てらる。
- 一五四五 第十九回世界會議トレントに開る。(一五四七年に至る)。蘇國の改革者ウオルフ、ワイシャルト殉教す。
- 一五四六 レゲンズブルグ會議開る。ルーテル死す。シュマルカルドの戦争始まる。
- 一五四七 エドワルド六世英王となる。(一五五三年迄在位)。
- 一五四八 シギスムンド、アラグサス波蘭王となる。(一五七二年迄在位)。アラグサスアルヒンテリム發布せらる。
- 一五四九 ゴグイエー初めて鹿兒島に到着す。イェズイット派アラウルに傳道す。
- 一五五〇 ユリウス三世法王となる。(一五五五年迄在位)。
- 一五五一 ゴグイエー日本を去る。
- 一五五二 クリプト、カルグイン派論争始まる。ザグイエー死す。英國教會四十二箇條の宗教條條を採用す。
- 一五五三 メーロー英國王位を襲ふ。(一五五八年迄在位)。セルゲエタス焚殺せらる。
- 一五五五 アラグサスアルグの宗教平和條約成る(ルーテル派、加特力派と和す)。最初のプロテスタント團體巴理に起る。ヒリア二世西班牙帝となる。(一五九八年迄在位)。
- 一五五六 フェルナナンド一世日耳曼帝となる。(一五六四年迄在位)。ロウラ死す。フランメル火刑に處せらる。
- 一五五八 エリサベツ英國王となる。(一六〇三年迄在位)。
- 一五五九 英國宗教對一條例發布せらる。
- 一五六〇 ビュクス四世法王となる。(一五六五年迄在位)。メランクトン死す。蘇國改革教法律に依て定まり、ノツクス、エザンバラ聖ウイリス教會の牧師となる。
- 一五六一 女王メアリー蘇格蘭に歸る。佛國ゴアシーに於て新教徒神學會議開る。
- 一五六二 ユラケノー徒北米南カロライナ海岸に殖民地を建てんと謀る。伯耳真信仰告白成る。英國教會三十九箇條の宗教條條定めらる。アレーメン、カルグイン派化せらる。ハイデルベルグ問答出づ。ラリウス、ソーチヌス死す。
- 一五六四 カルグイン死す。ミカエル、アンウエロ死す。トレント會議の議定せる『法典及び法令』出づ。マキシミアン二世日耳曼帝となる。(一五七六年迄在位)。
- 一五六六 羅馬教會問答書出づ。ヘルゲエツク信仰告白出づ。
- 一五六八 イェズイット派の宣教師ワルカン京都に來り信長に謁し、教會堂創立の許可を得。
- 一五六九 英國加特力教徒の一揆起る。
- 一五七〇 聖ウァーメンの和約成る(加特力教徒ユウグノー徒と和す)。
- 一五七二 グレゴリウス十三世法王となる。(一五八五年迄在位)。ウラッ、ノツクス死す。聖マルソロミワの處殺。
- 一五七五 ワイテン大學建てらる。ゴヘンヤ信仰告白出づ。

- 一五七六 ルドゥフ二世日耳曼帝となる(一六一二年迄在位)。
- 一五七七 フォアミュラ、オフ、コンコルド成る。佛王アンリ三世ユグノー教徒と和す。
- 一五八二 法王クレヴォワ十三世律法を改正す。マテオ、リッパ支那に傳道す。
- 一五八五 シクスタス五世法王となる(一五九〇年迄在位)。
- 一五八七 蘇蘭女王メリー一世。豊臣秀吉初めて耶蘇教の禁制を布く。
- 一五八九 アンリ四世佛蘭西王となる(一六一〇年迄在位)。モスカワの教長職立てらる。
- 一五九〇 シエーグスピア著作を始め。豊臣秀吉耶蘇教徒を虐殺す。
- 一五九五 和蘭人初めて喜望峯を廻り東印度に至る。
- 一五九八 ナント令出づ。
- 一六〇〇 以大利の哲學者デカルト、プルノー禁教せらる。英國東印度會社設立せらる。
- 一六〇二 和蘭東印度會社設立せらる。
- 一六〇三 英蘇合併す。蘇王ジョージ六世英王となり、ジョージ一世と稱す。
- 一六〇四 フラウスタス、ソナチヌス死す。
- 一六〇八 エヴァンジェリカル、ユニオン日耳曼の新教徒に依り立てらる。
- 一六〇九 カブレレ遊星運動の法則を發見す。
- 一六一〇 ルイ十三世佛王となる(一六四三年迄在位)。
- 一六一一 アスタグアス、アドルフス瑞典王となる。英語聖書ジョージムス王欽定譯成る。徳川家康大に天主教の禁を廢す。
- 一六一六 ギリレオ地動説を唱へ、宗教裁判所に召喚せらる。
- 一六一八 日耳曼三十年戦争始まる。ドルトの會議開かる。蘇蘭機關發明せらる。
- 一六一九 フェルディナンド二世日耳曼帝となる(一六三七年迄在位)。奴隸制度ヴァルウィヤに入る。
- 一六二〇 ウアルテリナにて新教徒虐殺せらる。ピルグリム、フアーザルズ初めて米國に航す。ペーコンの『ノヴム、オロガヌム』出版せらる。
- 一六二四 ヤコブ、ペーメ死す。リセリウ佛蘭宰相となる。
- 一六二五 チャールス二世英王となる。
- 一六二六 フランシス、ペーコン死す。
- 一六二八 佛蘭西ヒラゲノー教徒を虐殺す。
- 一六二九 徳川政府藩制令を發す。
- 一六三一 ライプツヒに宗教會議開かる。
- 一六三二 アスタグアス、アドルフス日耳曼兵と戦て陣中死す。
- 一六三三 ガリレオ異端の宣告を受け拘禁せらる。ロイド、カンターベリーの大監督となる。
- 一六三七 グルハルド死す。天草の亂起る。
- 一六三八 タリロス、ルカリス被殺せらる。蘇蘭契約成る。ハーヴァルド大學建てらる。天草の亂平ぐ。徳川政府艦に外船の出入を禁す。
- 一六四〇 英國長期國會開かる。
- 一六四一 愛蘭人虐殺行はる。デカルトの哲學者出づ。
- 一六四二 ヤンセンの『アラグスチヌス』即せらる。リセリウ死す。
- 一六四三 ルイ十四世佛王となる(一七一五年迄在位)。ウエストミンスター會議開かる。
- 一六四五 フーギー、グロウチラス死す。クロムウェ
- 一六四七 兵英國官軍を破る。
- 一六四八 ウェストリアの平和條約成る(三十年戦争終る)。ウエストミンスター會議閉會す。
- 一六四九 英王チャールス一世殺され、英國一時共和政治となる。
- 一六五〇 アカルト死す。
- 一六五三 法王インノーセント十世ヤンセン派五箇條を罪す。英國長期議會解散。クロムウェル英國のプロテクトルとなる。
- 一六五四 瑞典のクリスチナ加特力教徒となる。ヨハン、ヴァレンチン、アンドレア死す。
- 一六五六 ヴォルフ、カリクスタス死す。パスカルの『レトリック』、アロウインシャル出づ。徳川政府耶蘇教禁制札を掲ぐ。
- 一六五七 政府耶蘇教禁制札を掲ぐ。
- 一六五八 徳川政府肥前大村領内の天主教徒五百人を捕へて之を刑す。クロムウェル王號を稱ふ。徳川政府日本全國に令して天主教徒を追掃せしむ。クロムウェル死す。
- 一六六〇 英國再び君主政治となり、チャールス二世即位す(一六八五年迄在位)。
- 一六六二 英國對一條例を布き監督政治を全然承認し、之に従はざる牧師を破門す。
- 一六六四 トフワヒスト僧派建てらる。佛蘭東印度會社起る。
- 一六六七 ミルトンの『失樂園』出づ。
- 一六七三 英國『試験條例』を布き、獨立派に屬する者の官職に就くを禁す。
- 一六七四 ミルトン死す。

- 一六七五 スペーデルの『ヒア、アセテリア』公にせらる。聖保羅大會堂建てらる。
- 一六七六 パウル、ゲルハルド死す。
- 一六七七 スピノーザ死す。
- 一六八四 ライブニツン微分を發明す。
- 一六八五 ナント令廢せられ、ウアルテンス徒ビードモニより逐斥せらる。
- 一六八七 ニワトン重力の法則を發見す。
- 一六八九 オレンワのクイリアム及びメーア英國民に推されて王位を襲ひ、宗教寛容令を布く。
- 一六九〇 敬虔徒ライプツヒより逐斥せらる。
- 一六九四 ハルレの大學建てらる。
- 一六九六 ヴォン、トールランド『基督教は神學的ならず』を公にす。
- 一六九九 フェネロンの主張即せらる。
- 一七〇一 外國福音傳會英國に設立せらる。
- 一七〇四 がズエー死す。
- 一七〇五 スペーデル死す。シャーゲンバルク東印度に傳道す(新教印度傳道の嚆矢)。
- 一七〇九 ゴット、ロヤル抑壓せらる。蘇蘭基督教知識弘布會設立せらる。
- 一七一一 瑞西國內の舊教徒新教徒と争ふ。
- 一七一一 ルイ十五世佛王となる(一七七四年迄在位)。フェネロン死す。
- 一七一六 ヴァンニツク死す。
- 一七一七 ヴァンニツク死す。ゴットフリード、アルメルト死す。
- 一七二一 聖ハテルスアルクの教務院建てらる。ハンズ、エグド、グリーンランドに傳道す。
- 一七二二 ヘルンフツト建てらる。
- 一七二五 露國のペートル大帝死す。
- 一七二七 アウケスト、ヘルマン、フランク死す。アイザック、ニワトン死す。モラヴィアン教會チチクニアのメルテルスドルフに教會を組織す。
- 一七二九 ヴォン、ウエスレー牛津に歸り神學俱樂部に入る(メソヂスト教會の起源)。ライマルス、ハムアルヒの教授となる。
- 一七三〇 マシワ、チンダカ『天地創造と共に古き基督教』を公にす。
- 一七三二 モラヴィアン教會宣教師を西印度に送る。
- 一七三七 グラツンゲン大學設立せらる。ウインツェンドルフ伯爵モラヴィア教會の監督となる。
- 一七四〇 フリードリヒ二世普魯士王となる(一七八六年迄在位)。
- 一七五〇 セバスチアン、パツハ死す。
- 一七五一 佛の百科全書成る。セムレル、ハルレの教授となる。
- 一七五二 ベンゲル死す。ジョセフ、パットラウ死す。
- 一七五四 ヨハン、タリストフ、ワオルフ死す。
- 一七五五 モスハイム死す。リスボン大地震。
- 一七五八 グレメント十三世法王となる(一七六九年迄在位)。ヴォナサン、エドワルド死す。
- 一七五九 イニスイト派葡萄牙より逐斥せらる。
- 一七六〇 テイツツェンドルフ伯爵死す。ジョルジュ三世英王となる。
- 一七六二 ルーソー『民約論』を著す。クヤン、カラ殺さる。
- 一七六四 佛王ルイ十五世イニスイト徒を抑壓す。
- 一七六九 タレメント十四世法王となる(一七七四年迄在位)。
- 一七七二 スウエーデンアルク死す。グラウヴィル、
- 一七七三 シャーパ奴隷廢止論を唱ふ。
- 一七七四 『ウォルフエニヒツト断片』出づ。ゴード、スミス死す。
- 一七七五 ヒリス六世法王となる(一七九九年迄在位)。米國獨立戦争始まる。クリスチアン、アラグスト、クルーシウス死す。
- 一七七六 イルミナチ派起る。
- 一七七八 ゴオルテア及びルイジー死す。
- 一七八〇 ロベルトレークス日曜學校を創始す。
- 一七八一 レツンジ死す。
- 一七八三 英國北米合衆國の獨立を承認す。
- 一七八九 ワシントン米國大統領となる。佛蘭革命初まる。實政廢止案英國議會に上る。
- 一七九一 ヴォン、ウエスレー死す。セムレル死す。佛蘭憲法を發布す。
- 一七九二 佛蘭王政を廢し共和政となる『パプアスト傳道會社』、ケッテルリッゲンに創立せらる。
- 一七九三 ヴァイリアム、ケーレー東印度に傳道す。
- 一七九四 佛蘭革命戦争起り、ルイ十六世及び王妃殺せらる。佛蘭基督教を廢し教會を毀つ。佛蘭議會佛蘭領民地にて暴政を廢止すべきを令す。
- 一七九五 『倫敦傳道會社』創立せらる。
- 一七九九 シュライエルマツ『宗教論』公にせらる。『教會傳道會社』創立せらる。
- 一八〇〇 ビウス七世法王となる(一八二三年迄在位)。
- 一八〇一 佛蘭法王と協約を結び羅馬教を以て公認教となす。
- 一八〇二 ナポレオン終身執政官となる。

- 一八〇三 ヘルデル死す。
- 一八〇四 『大英及び外國聖書會社』創立せらる。カント死す。ナポレオン三世皇帝となる。
- 一八〇五 シルレル死す。トラファルガーの戦。ヘンリー、マクドナルドに傳道す。
- 一八〇六 フランシス二世羅馬王位を去り、神聖羅馬帝終る。
- 一八〇七 英國奴隷買賣禁止條約を發布す。ロベルト、モリソン支那に傳道す。
- 一八〇九 法王ピウス七世ナポレオンを破門す。法王サヴェナに幽閉せらる。
- 一八一〇 『米國傳道會社』ボストンに創立せらる。伯林大學創立せらる。シュライエルマツヘル伯林大學の教授となる。
- 一八一二 德國市民議會教會の改選を企つ。
- 一八一三 アドニラム、ウヰアドソン編纂に傳道す。
- 一八一四 歐洲列國連合してナポレオンに抗す。
- 一八一五 ナポレオン、エルバ島に流さる。法王ピウス七世羅馬に歸る。法王イエズイット派の業を解く。
- 一八一六 ナポレオン、エルバ島を連れて巴黎に入る。歐洲列國連合してナポレオンに抗す。ナポレオン、ウヰアドローに大敗し、セント、ヘレナ島に流さる。露、普、墮三國神聖同盟を結ぶ。
- 一八一七 宣教師學校バベルに建てらる。
- 一八一八 クラウス、ハルムス九十五箇條を述べて、偏見説に反對す。ルーテル、レフオールド二派合同運動開始に起る。佛國法王と協約を結び再び本山主義に歸る。ウヰン、ワイリアム、ゴイシヤに傳道す。ウヰスレア
- 一八二〇 『大英及び外國聖書會社』創設せらる。
- 一八二一 ボン大學創立せらる。
- 一八二二 普蘭士禮拜式文を採用す。羅馬教會『リオノ宗教宣傳協會』を建てて海外傳道を行ふ。
- 一八二三 レオ十二世法王となる。(一八二九年迄在位)。
- 一八二四 バイロン死す。
- 一八二六 フェルナンデス、クリスチアン、バウレル、ナラビンゲン大學の教授となる。倫敦大學建てらる。
- 一八二七 『モルモン經』翻譯せらる。ヘンゲスタンメル、福音的教會時報の主宰となる。アイクホルン死す。
- 一八二八 英國非國教徒に政權を與ふ。
- 一八二九 英國會加特力教寛容條例を通過す。バルミン、ミッソナリー、インスチナウト設立せらる。ピウス八世法王となる。(一八三〇年迄在位)。
- 一八三〇 佛國革命起りボルボン朝倒る。プロテスタント教羅馬教と同一の特權を得。ハルレ論争(教度派偏見派争ふ)。アレキサンデル、タフ印度に傳道す。
- 一八三一 グレゴリウス十六世法王となる。(一八四六年迄在位)。ヘーゲル死す。
- 一八三二 ゴーテ、ベンザム、スコット等死す。グレゴリウス十六世朝鮮に傳道區を設け、琉球を附屬せしむ。
- 一八三三 牛津運動始まる。
- 一八三四 獨逸ルーテル派中の保守派福音派の合同に
- 一八三五 反對す。シュライエルマツヘル死す。ストラウス『耶穌傳』を著す。エドワルド、アルグイంగా死す。マダガスカルに於て基督教迫害せらる。
- 一八三六 ドレスデン、ミッソナリー、インスチナウト設立せらる。イエズイット派の宣教師モイバン初めて朝鮮に入る。
- 一八三九 ストラウス、ウヰリヒの教授となる。
- 一八四〇 フリードリヒ、ウヰルヘルム四世法王となる。(一八六一年迄在位)。支那英國と戦ふ(阿片戦争)。
- 一八四一 シェリンガ伯林の教授となる。獨逸ルーテル派國教會より分離す。
- 一八四三 蘇格蘭自由教會立てらる。
- 一八四四 基督教青年會創立せらる。佛國の軍艦天主教の僧侶二名を載せて來り、那覇に上陸せしむ。
- 一八四五 ヘンリー、ニウマン羅馬教會に轉ず。
- 一八四六 ピウス九世法王となる。(一八七八年迄在位)。福音同盟會創立せらる。
- 一八四七 ヘンリー、ウヰルド、ピーチャル、アルクラン會衆教會の牧師となる。
- 一八四八 佛國再び共和政府となり、ルイ、ナポレオン大統領となる。
- 一八四九 羅馬共和政となる。
- 一八五〇 支那に長髮賊起る。
- 一八五二 ルイ、ナポレオン佛國の帝位に登り、ナポレオン三世と稱す。
- 一八五三 米國總督ハルリ浦賢に來る。
- 一八五四 ストルウオン、倫敦プロドヴィー會堂の牧師となる。日米及び日英條約成る。

- 一八五六 ロッセの『ミクロコスモス』第一巻出づ。
- 一八五七 日佛條約成る。
- 一八五八 佛帝ナポレオン三世語勳を發して新教の自由を保障す。
- 一八五九 ダルウィンの『種の起源』公にせらる。プロテスタント教最初の宣教師日本に來る(米國聖書派のウヰグンズ、ワイリアム、同長老派のヘッボン、同グッチ、レフオールド派のブラウン、ゲルマツキ、シムモンズ是也)。
- 一八六〇 アブラハム、リンカーン米國大統領となる。米國南北戦争始まる。プロテスタント、プレズレン派起る。スリヤの基督教徒迫害せらる。英佛同盟軍北京を陥れ、天津條約成る。櫻田の變。初めて西洋に國使を發す。露西亞の修道僧ニコライ初めて箱館に來る。
- 一八六一 ゲイグトル、エマヌエル以太利を統一す。ヘルバルト、スパンセルの『哲學原理』出づ。レナン『耶穌傳』を著す。ピスマルタ獨逸の首相となる。ピウス九世日本最初の殉教者に聖徒號を贈る。
- 一八六四 新島襄和蘭より歸り米國に航す。
- 一八六五 米國議會奴隷禁止の議を可決す。長崎に天主教會堂建てらる。
- 一八六七 徳川慶喜政權を奉還し王政復古す。
- 一八六八 今上皇帝即位、明治と改元す。支那長髮賊平ぐ。
- 一八六九 ゲアチカン會議開る。愛蘭國教會廢止せらる。ハルトマンの『無意識哲學』出づ。浦上長崎五島大村等の天主教徒四千八捕へらる。アメリカンボルド最初の宣教師來る。
- 一八七〇 支那天津の人民佛人を殺し天主教會堂を燒く。
- 一八七〇 法王無罪説公布せらる。普佛戦争、ナポレオン三世普軍に降り、佛國又共和政となる。羅馬以太利の首都となり、法王の實權奪はる。ウヰグンズの『稱義及び調和の教義』第一巻出づ。
- 一八七一 新日耳曼帝國建てられ、普王ウヰルヘルム一世帝位に登る。
- 一八七二 獨逸政府法王廷と争ふ。ニコライ東京に來り傳道す。日本最初のプロテスタント教會横濱に組織せらる。
- 一八七三 舊加特力教會獨逸に組織せらる。耶穌教禁制の高札撤去せらる。太陽曆採用せらる。太陽曆採用せらる。學制改正、小學校起る。米國メソヂスト監督教會、加那太メソヂスト教會、英國傳道會社等日本に傳道を開始す。
- 一八七四 新島襄歸朝す。新約聖書の邦譯に着手す。日本正教會第一布教會議東京に開る。
- 一八七五 同志社學校開校。『七一雜報』發刊せらる。
- 一八七六 日本政府日曜日を以て休日と定む。
- 一八七八 レオ十三世法王となる。教世軍起る。日本福音同盟會起る。
- 一八七九 ヘンリー、ニウマン『カタルイナル』となる。日本に民権論勃興す。
- 一八八〇 新約聖書邦譯成る。『六合雜誌』發刊せらる。『基督教徒共助會』組織せらる。米國大統領カーフィールド暗殺せらる。盧無黨黨帝を弑す。カライル死す。ロバートソン、スミス異端の告誡を受く。中村正直訓點『天道洞濤』
- 一八八二 獨逸ルーテル派リッパチル派と争ふ。ダルウィン、エマルソン死す。
- 一八八三 ルーテル誕生四百年祭を行ふ。
- 一八八四 プロテスタント教初めて朝鮮に傳道す。ハルナック『教義史』第一巻を公にす。『續七士』支那に入る。英語聖書改譯完了出版せらる。歐化主義鼓吹せらる。
- 一八八五 『學生傳道有志運動』米國に起る。
- 一八八六 獨逸政府法王廷と和す。獨逸普及福音教會及び米國ユニテリアン派日本に傳道す。
- 一八八七 同志社大學設立の趣意書發表せらる。國粹保存論行はる。舊約聖書邦譯完了す。
- 一八八八 帝國憲法發布せられ、信教の自由保障せらる。
- 一八八九 新島襄死す。教育勸諭發せらる。内村事件起る。日本に在る天主教第一總會を長崎に開く。
- 一八九〇 金澤通倫の『日本現今の基督教並に將來の基督教』出で、信仰漸く動搖す。
- 一八九一 日清戦争始まる。
- 一八九二 カフマンの『組織神學』出づ。
- 一八九三 ハルナックの『基督教の本質』公にせらる。
- 一九〇一 ピウス十世法王となる。
- 一九〇三 日露戦争始まる。
- 一九〇四 佛國政教分離を行ふ。
- 一九〇五 レザナルド、ウヰン、カムベル『新神學』を公にす。『信徒傳道運動』米國に起る。
- 一九〇七 ピウス十世回文を出して『近代主義』を罪す。支那政府令を出して宣教師保護教徒迫害防衛の保障を與ふ。支那傳道百年紀念會

附 錄

上海に開かる。第七回萬國學生青年會大會
 東京に開かる。日本に在るメソヂスト三派
 合同成る。
 一九〇八 羅馬教の神學者ロアジー破門せらる。
 一九〇九 日本プロテスタント教傳道開始五十年紀念
 會を開く。
 一九一〇 世界宣教大會エサンバラに開かる。自由基
 督教世界會議伯林に開かる。日韓合邦。

附 錄 終

歐
字
索
引

歐 字 索 引

	Page.		Page.
Aaron...	61	Acton, John Emerich Edward Dalberg-Acton, Lord ...	13
Aaron; ben-Asher or bar Moses...	61	Acts of Apostles, The ...	574
Abaddou...	26	Acts of Peter, The ...	1237
Abana and Parpar ...	27	Acts of Uniformity ...	413
Abarim ...	27	Adalbert...	19
Abauzit, Firmin ...	26	Adalbert, St. ...	19
Abba ...	25	Adam ...	17
Abbadie, Jacques ...	26	Adam and Eve, The Histories of ...	18
Abbas ...	30	Adamites or Adamiani ...	18
Abbey ...	22	Adams, Sarah Flower ...	18
Abbot ...	31	Adams, Thomas ...	13
Abbot, Edwin ...	32	Addison, Joseph ...	22
Abbot, Ezra ...	31	Adler, Felix ...	23
Abbot, George ...	31	Adler, George ...	24
Abbot, Lyman ...	32	Adler, Hermann ...	23
Abbot, Robert ...	32	Adonai ...	53
Abel ...	31	Adonijah ...	53
Abel ...	31	Adoptionism or Adoptionists ...	17
Abelard or Abclardus, Pierre ...	30	Advocate ...	1251
Abelites or Abelonians ...	31	Adramelech ...	23
Aben-Esra ...	31	Adrian ...	23
Abiathar ...	28	Adullam ...	27
Abilene ...	28	Adultery ...	286
Abimelech ...	28	Advent ...	22
Abishag ...	27	Adventists or Second Adventists ...	23
Abishai ...	27	Affection ...	290
Abner ...	29	Affre, Denis Auguste ...	22
Abraham ...	29	Africa ...	28
Abrahamites ...	30	Africanus, Julius ...	29
Abraham's Bosom ...	30	Agapetus ...	12
Abraham ...	29	Agatha, St. ...	11
Absalom ...	29	Agatha ...	11
Absolution ...	597	Agde, Hans ...	182
Abstinence ...	356	Agnes, St. ...	13
Abyssinian Church ...	27	Aguoetes ...	14
Achaia ...	10	Agnosticism ...	1158
Achaicus ...	19	Agricola, Johann ...	14
Achan ...	11	Agrippa ...	14
Acosta, Gabriel d. ...	14	Ahab ...	26
Act of Toleration ...	400	Ahasuerus ...	25
Acta Martyrum and Acta Sanctorum ...	13		

	Page.		Page.
Alaz	26	Amphilochius, St.	37
Alaziah	25	Amsdorf, Nikolaus von	37
Alimelech	27	Amyot, Joseph	38
Ahiophel	27	Amyraut, Moise	37
Aidan, St.	3	Anabaptists	24
Ainsworth, Henry	4	Anacletus	24
Akiba, Ben Joseph	12	Ananias	24
Alacôpe, Marguerite Marie	42	Anastasia	24
Alb...	54	Anastasia	24
Alban, St.	53	Anathema	24
Albanenses	53	Ancestor-worship	776
Albertus Magnus	55	Anchieta, Jose de...	61
Albigenses	53	Anchorete or Anachorites...	64
Allright, Jacob	54	Ancillon, David	60
Aluin	49	Anderson, John	69
Aleius, Alexander	60	Anderson, Lars	70
Alexander	58	Anderson, Rufus	70
Alexander, Archibald	59	Andover Theological Seminary	71
Alexander, Hieronymus	58	Andrea, Laurentius	71
Alexander of Hales	59	Andrea, Johann Valentin	71
Alexander, Patriarch of Alexandria	59	Andreoc, Jacob	71
Alexander the Great	59	Andrews, Elisha Benjamin	71
Alexander, William	59	Andrews, Lancelot	71
Alexandria	60	Angel	876
Alford, Henry	54	Angelic Brothers	220
Alfred the Great	54	Angelico, Giovanni	64
All Saints' Day, The	636	Angelis, Girolamo	64
All Souls' Day, The	636	Angelus à Sancto Francisco	64
Allan, William	45	Angilbert, St.	61
Allen, Henry	61	Anglican Church, The	62
Allogi or Alogians	61	Aquaviva, Claudius	63
Alombrados, Illuminati	61	Aquila	13
Alpha and Omega	52	Aquila and Priscilla	13
Altar	498	Aquila, Johannes Kaspar	13
Alypius, St.	48	Arabia	43
Alzog, Johann Baptist	50	Arabians	44
Anakma Riot, The	33	Arabic Gospel of the Childhood, The	42
Analek	37	Aram, Arameans	45
Analetic	36	Ararat	45
Amasa	36	Archaeology	465
Amaziah	36	Archangels	879
Ambrose or Ambrosius, St.	37	Archbishop	792
Amen	41	Archdeacon	50
Amnians Marcellinus	37	Archelaus	14
Ammon, Ammonites	72	Archimandrite	50
Ammon, Christof Friedrich von	38	Architecture	453
Ammonius, Sarcas	38	Archontici	49
Ammonius of Alexandria	38	Archoboldi, Giovanni Angelo	49
Amorites	42	Arelas	60
Amos	41	Argentine Republic, The	50
Amos, The Book of	42	Argyll, Duke of	49
		Arianism	46

	Page.		Page.
Antonians	71	Arimathea	49
Antoninus Pius	70	Aristarchus	47
Antoninus, St.	70	Aristeas	47
Anton, Paul	70	Aristobolus	47
Antony or Anthony, St.	70	Aristobolus	48
Apocalypse of Abraham, The	30	Aristoteles (Aristotle)	48
Apocalypse of Bartholomew, The	1077	Arius	45
Apocalypse of Barnuch, The	1075	Ark, The	1036
Apocalypse of Elias, The	210	Ark of the Covenant, The	427
Apocalypse of John, The	1343	Arkites	49
Apocalypse of Paul, The	1105	Ar-mageddon, or Har-magedon	55
Apocalypse of Zephaniah, The	773	Armenia	57
Apocrypha	365, 415	Armenian Version of the Bible	58
Apollinaris, Claudius	32	Arminianism	55
Apollinarism	32	Arnaud, Henrie	50
Apollinaris	32	Arnaud, Angélique	51
Apollonia, St.	33	Arnaud, Antoine	51
Apollo	32	Arnaud, Henri	51
Apologetics	490, 1226	Arnoldi, Bartholemeus	51
Apologists	490, 1227	Arnoldists	52
Apology of the Augsburg Confession, The	9	Arnold, Matthew	52
Apostasy	1033	Arnold of Brescia	51
Apostles	573	Arnold, Thomas	51
Apostles' Council of Jerusalem, The	574	Arnold, Thomas	52
Apostle's Creed, The	577	Arnot, William	51
Apostles' Day, The	576	Arnold, Marie Angélique	51
Apostolic Brothers, The	33	Arnulphus or Arnulfus, St.	50
Apostolic Fathers	577	Arphaxad	53
Apostolic Succession	577	Arsenius	49
Apotactici	33	Artaxerxes	50
Aquaviva, Claudius	12	Arteman or Artemas	50
Aquila	13	Arunde, Thomas	45
Aquila and Priscilla	13	Asa	14
Aquila, Johannes Kaspar	13	Asbury, Francis	15
Arabia	43	Ascension	594
Arabians	44	Ascension of Isaiah, The	110
Arabic Gospel of the Childhood, The	42	Asceticism	361
Aram, Arameans	45	Asberah	15
Ararat	45	Ashtoreth	14
Archaeology	465	Ash-Wednesday	1033
Archangels	879	Asia in the Bible	15
Archbishop	792	Asmodeus	16
Archdeacon	50	Asmonians	16
Archelaus	14	Assebury, Rosamunde Juliane von	22
Archimandrite	50	Assumption (or Departure) of Mary, The	1306
Architecture	453	Assumption of Moses, The	1351
Archontici	49	Assyria	19
Archoboldi, Giovanni Angelo	49	Astruc, Jean	15
Arelas	60	Atargatis	17
Argentine Republic, The	50	Athanasian Creed, The	17
Argyll, Duke of	49	Athanasius	16
Arianism	46	Atheism	1324

	Page.		Page.
Athens	16	Bartholomites	1077
Atonement, The Day of	11	Bashan	1062
Atonement, The Doctrine of	614	Basilians... ..	1061
Atterbury, Francis	22	Basilica Architecture, The... ..	1061
Aubelen, Karl August	10	Basilides... ..	1061
Auburn Declaration, The	10	Basillus or Basil	1061
Auburn Theological Seminary	10	Bathsheba	1065
Aufklärung	10	Bathurst, William Hiley	1061
Augusti, Johann Christian Wilhelm	8	Bauer, Bruno... ..	1059
Augustin or Austin, St.	4	Baur, Ferdinand Christian	1079
Augustin or Augustinus, Aurelius, St.	4	Bautain, Louis	1271
Augustinian Monks and Nuns	8	Bavaria	1060
Aurelian... ..	10	Baxter, Richard	1063
Auricular Confession	682	Bayle, Pierre... ..	1222
Aurifaber, Johann	10	Beal, Samuel... ..	1130
Australia	9	Beaton, David	1129
Austria	10	Beattie, James	1129
Authorized Version of the Bible, The	261	Beausobre, Isaac de	1271
Avitas, Alcimus Eodidius	10	Beck, Johann Tobias	1217
		Becket, Thomas	1214
B aader, Franz Xaver... ..	1065	Bede or Bada the Venerable	1217
Baal... ..	1057	Beecher, Henry Ward... ..	1128
Baalbek	1058	Beecher, Lyman	1129
Babylon	1067	Beecher Stow, Mrs. Harriet Elizabeth	1129
Babylonia	1065	Beelzebub	1223
Babylonish Captivity, The... ..	1067	Bel	1222
Baccanarists	1063	Belgic Confession, The... ..	1223
Bach, Johann Sebastian	1065	Belgium	1223
Bachelor of Divinity (B.D.)	645	Belial	1222
Bacon, Francis	1215	Bellamy, Joseph	1221
Bacon, Roger... ..	1216	Benedict XIV. (<i>Prospero Lambertini</i>)	1220
Babrdt, Karl Friedrich	1076	Benedict of Aniane	1219
Bajus (<i>De Boy</i>) Michel	1074	Benedict of Nursia	1220
Backwell, John	1214	Benedictines	1220
Balaam	1075	Benediction	600
Balmes, Jaime Lucio	1078	Benedict of Nursia	1220
Bampton Lectures	1074	Bengel, Johann Albrecht	1225
Ban	1049	Benjamine	1219
Baptism	1070	Benson, Edward White	1227
Baptism with Fire	1124	Bentham, Jeremy... ..	1225
Baptist Church, The	1068	Berengarius of Tours	1225
Barabbas... ..	1075	Berkeley, George	1060
Barbauld, Anna Letitia	1078	Bernard of Clairvaux	1224
Barclay, Robert	1060	Bernard of Cluny... ..	1224
Baring-Gould, Sabine	1076	Bernard of Mentone	1224
Barnabas... ..	1077	Bethabara	1217
Barnabas, The Epistle of	1078	Bethany	1217
Barnabites	1078	Bethel	1219
Barnett, Samuel Augustus	1078	Bethesda	1219
Baronius, Casar	1079	Bethlehem	1218
Bartholomew	1076	Bethphage	1217
		Bethsaida	1217
		Beyschlag, Willihald	1058

	Page.		Page.
Beza, Theodore	1216	Buridan, Jean	1127
Bible, The	740	Burma	1130
Bible Animals	927	Burnet, Gilbert	1078
Bible Christians, The	1059	Burns, Robert	1079
Bible Societies	741	Burns, William Chalmers	1078
Bible Versions	748	Barot Offerings	1055
Biblical Genealogy	422	Burritt, Elihu	1076
Biblical History	749	Burton, Robert	1077
Biblical Theology... ..	743	Bushnell, Horace	1181
Biddle, John... ..	1129	Butler, Joseph	1064
Bingham, Joseph	1130	Byron, George Gordon Noel, Lord	1059
Binney, Thomas	1130	Byzantium Architecture, The	1127
Birgitta, St.	1130		
Bishop	295	C abbala	249
Bishop, Nathan	1127	Caecilia, St.	440
Bishopric	297	Caedmon... ..	446
Bochart, Samuel	1270	Caerularius, Michael	451
Boehme, Jakob	1221	Caesarea	238
Boethius, Anicius Manlius Severinus	1270	Caesarea Philippi... ..	238
Bohemia... ..	1272	Caiphaz... ..	272
Bohemian Brethren, The	1273	Cain... ..	239
Bonaventura or Giovanni di Fidenza	1271	Cainites	239
Boniface	1272	Caird, Edward	440
Boniface I.	1271	Caird, John	449
Boniface VIII.	1271	Cajetan, Jacopo	246
Bonner, Edmund	1274	Calamy, Edmund	273
Bossuet, Jacques Bénigne	1270	Calderwood, David	282
Booth, William	1181	Calderwood, Henry	282
Bora, Catharina von	1273	Caleb	286
Borromeo, Carlo	1274	Calender Brethren, The	286
Borrow, George	1273	Calf, the Golden Calf	462
Bourne, Francis	1274	Calixtus	273
Bourne, Hugh	1274	Calixtus, George	274
Bowne, Borden Parker	1069	Calmet, Augustine	285
Bowring, Sir John	1059	Calvary	285
Brace, Charles Loring... ..	1184	Calvin, John	274
Brazil	1182	Calvinism	278
Brethren of Common Life, The... ..	333	Calvinistic Methodist Church	159
Brethren of the Free Spirit, The	687	Canaldules	256
Breviary	329	Cambridge	448
Broad Church	399	Cambridge Platonists	448
Brooks, Phillips	1183	Cameronians	272
Browning, Elizabeth Barrett	1182	Camisards	266
Browning, Robert	1182	Campanella, Tomaso	269
Brully or Brusly, Pierre	1183	Campbell, Alexander	270
Bruno, Geordano	1184	Campbell, John M'Leod	270
Bryant, William Cullen	1182	Campbell, Reginald John	271
Buchanan, George	1181	Campegius	271
Buck, Charles	1063	Camp-Meeting	238
Bude, Guillaume	1129	Cana of Galilee	252
Bullinger, Heinrich	1183	Canaan, Canaanites	253
Bunyan, John	1082		

	Page.		Page.
Canada, The Dominion of	252	Cenchree	452
Cananean or Canaanite	254	Censor	245
Candace	291	Censorship of Books	452
Candlemas	298	Census	464
Candlish, Robert Smith	297	Centurion	1125
Canisius, Peter	254	Chaldaea	283
Canon	254	Chalmers, Thomas	823
Canon Law	255	Chanier, Daniel	597
Canonical Hours	254	Chancellor	825
Canstein, Karl Hildebrand	291	Chandler, John	825
Canterbury	291	Channing, William Ellery	825
Capernaum	256	Chapell (Capella)	823
Capistrano	255	Chapin, Edwin Hubbell	866
Capito, Wolfgang	256	Chaplain	822
Cappadocia	255	Chapter-House	822
Cappel, Louis	249	Chapters	774
Captivity of Israel, The	1163	Chapters and Verses of the Bible	594
Capuchins	256	Chariot	102
Carchemish	281	Charlemagne	597
Cardinal	283	Charles, V.	285
Carey, William	452	Charneck, Stephen	823
Cargill, Donald	281	Chaucer, Geoffrey	826
Carlstadt, Andreas Rudolphus Bodensteiu	281	Cheke, Sir John	808
Carlyle, Thomas	272	Chemnitz, Martin	447
Carnel	285	Chemosh	448
Carmelites	285	Cherub, Cherubim	450
Carpenter, Lant	283	Cheyre, Thomas Kelly	806
Carpenter, Mary	285	Childhood Gospel of Thomas, The	910
Carpocratians	285	Children of God	268
Carstares, William	282	Chili	827
Carus, Paul	450	Chillingworth, William	827
Carthage	282	China	578
Carthusians	283	Choir	592
Cartwright, Thomas	284	Chokmah	1261
Cary, Henry Francis	450	Chorazin	468
Cassians, Johannes	218	Chrisom	753
Casistry	445	Christ	394
Castell, Edmund	216	Christ, the Offices of	352
Catacombs	247	Christ, The Order of	353
Catechism	437, 1365	Christians	393
Catechumen	251	Christian Catholic, The	383
Cathari	248	Christian Church, The	398
Catharina, St.	248	Christian Endeavour Society	347
Catharina of Sienna	248	Christian Schools	344
Cathedral	246	Christian Science, The	384
Catholic	251	Christian Union Church, The	384
Catholic Apostolic Church, The	251	Christianity	394
Catholic Epistles	252, 463	Christians, or Christian Connection, The	383
Catholic Truth Society, The	252	Christians of St. Thomas	769
Celestines, The	768	Christmas	384
Celibacy	939	Christo Sacrum	347

	Page.		Page.
Christology	353	Clovis	394
Chronicles, The First Book of	1501	Cobham, Lord	465
Chronicles, The Second Book of	1501	Cocceius, Johannes	463
Chronology of the N. T.	609	Codex Sinaiticus, The	583
Chronology of the O. T.	319	Coins	358
Chrysostom, Joannes	385	Coke, Thomas	463
Chubb, Thomas	822	Colenso, John William	475
Church	429	Coleridge, Samuel Taylor	474
Church and State, The Relation of	434	Colet, John	475
Church Army, The	433	Coligny, Gaspard de	473
Church Association, The	823	College of Cardinals, The	1046
Church Congress, The	823	Collier, Jeremy	469
Church Discipline	432	Collins, Anthony	469
Church Fathers, The	439	Cölln, Daniel Georg Conrad von	451
Church Fathers, The Period of the	440	Cologne or Köln	451
Church Government or Polity	433	Colossae	476
Church History	437	Colossians, The Epistle to the	476
Church of Africa, The	23	Colours	130
Church of England, The	177	Columba, St.	468
Church of God, The	268	Columbanus	478
Church of United Brethren in Christ, The	347	Columbanus	468
Church Property	433	Comenius	467
Church Rates	824	Commodianus	467
Church, Richard William	823	Commodus	467
Church Union, The	824	Common Prayer, The Book of	328
Church Warden	825	Communion of Saints	752
Churching of Women	523	Communism	332
Churchmen's Union, The	323	Compostella	468
Cilicia	333	Compton, Henry	467
Circumcision	250	Comte, Auguste	467
Cistercians	370	Conceptualism	290
Clare, St.	382	Conclave	1045
Clarke, Adam	380	Concomitance	504
Clarke, Francis Edward	381	Concord of Wittenberg, The	153
Clarke, Samuel	381	Concordance	741
Clarkson, Thomas	381	Concordat	483, 551
Class-Meeting	380	Condillac, Etienne Bonnet	487
Claudius of Turin	380	Conditional Immortality Mission, The	486
Clean and Unclean Things	333	Conference	487
Clemanges, Nicolas de	390	Conference of Jerusalem, The	212
Clemens Romanus	391	Confession and Confession of Faith	642
Clemens, Titus Flavius	391	Confession, or Confession of Sins	841
Clement III	392	Confession of Augsburg, The	8
Clement IV	392	Confession of Basel, The	1063
Clement V	392	Confessor	539
Clement VII	392	Confirmation	453
Clement VIII	393	Congregationalism	483
Clement XI	393	Congregationalist or Congregational Church	397
Clement XIII	393	Consolvi, Ercole	486
Clement XIV	393	Consecration	753
Clergy	438	Consecration (or Dedication) of Church	458
Cloister	774	Consensus Genevensis	486
		Consensus Tigurinus	426

	Page		Page
Consistory	483	Cross	675
Constantine the Great... ..	484	Cruden, Alexander	338
Constantinople	485	Crusades... ..	676
Consubstantiation... ..	750	Crusius, Christian August	388
Constarini, Gasparo	486	Crypto-Calvinism	386
Convent	483	Cudworth, Ralph	249
Conventicle	483	Culdees	283
Conversion	238	Cumberland Presbyterian Church	271
Convocation	483, 774	Cumberland, Richard	271
Convulsionists	482	Cummins, George David	271
Conybeare, William John	465	Cuneiform Inscriptions	376
Cook, Charles	377	Cunningham, William... ..	298
Cook, Frederick Charles	377	Curio, Caius Secundus	383
Cook, Henry... ..	377	Cusanus, Nicolaus... ..	376
Copts	466	Cuthbert, St... ..	246
Coquerel, Athanas Laurent Charles	463	Cynic or Cynicism	330
Corban	474	Cyprianus, Thascius Caecilius	379
Coriova	474	Cyrenaics	356
Corinth	469	Cyril Lucar	387
Corinthians, The First Epistle to the	469	Cyril of Alexandria	386
Corinthians, The Second Epistle to the	469	Cyril of Jerusalem	387
Cotton, George Edward Lynch... ..	465	Cyrus	394
Cotton, John... ..	464		
Council (<i>Concilium</i>)	550	D	
Council of Basel, The	1062	Da Costa, Isaak	793
Council of Chalcedon, The... ..	282	Dach, Simon	793
Council of Constance, The... ..	483	Dagon	793
Council of Ferrara Florence, The	1155	Dale, Robert William... ..	891
Council of Frankfurt, The... ..	1169	Dalmatia... ..	802
Council of Trent, The... ..	917	Dalmatic... ..	802
Councils of Ephesus, The	203	D'Alviella, Eugène Goblet, Count	800
Councils of Nicaea, The	963	Damascus	798
Court of Gentiles	129	Damianus	799
Cousin, Victor	377	Damianus or Damiani, Peter	799
Covenanters	246	Damien, Joseph	799
Coverdale, Miles	245	Dan... ..	802
Cowper, William	244	Daniel	794
Crabbe, George	382	Daniel, The Book of	795
Cradock, Samuel	390	Dante Alighieri	804
Craig, John	389	Darboy, Georges	798
Craig, John	389	Darby, John Nelson	801
Cramer, Johann Andreas	382	Darham, William... ..	801
Cranmer, Thomas	382	Darius	800
Crashow, Richard... ..	381	Dark Age, The	64
Crato, von Crafftheim... ..	382	Darwin, Charles Robert	800
Crawford, Thomas J.	395	Dathe, Johann August	794
Creation... ..	499	Daub, Karl	792
Creationism	1497	Davenport, John	712
Creed	641	David	797
Crespin, Jean... ..	389	David, St.	884
Crete	389	David, Thomas William Rhys... ..	884
Cromwell, Oliver... ..	395	Davidson, Andrew Bruce	885

	Page		Page
Davidson, Randal Thomas	885	Diognetus, The Epistle to	881
Davidson, Samuel... ..	885	Dionysius Areopagita	880
Davies, Samuel	884	Dionysius of Alexandria	880
Day... ..	1121	Dionysius of Rome	880
Deacon	572	Dionysius the Carthusian	880
Deaconesses	1542	Disciples of Christ, The	343, 886
Dean	883	Discipline, The Book of	454
Dead Sea, The	566	Dispensation	907
Death	128	Divine Trinity and Triunity	519
Deborah... ..	887	Doan, George Washington... ..	953
Decalogue	682	Doctor of Divinity (D.D.)	645
Decapolis	885	Doctrine or Dogma	428
Decius, Cajus Messius Quintus Trajanus	886	Doctrine, History of	428
Dedication	458	Doddridge, Philip	941
Defender of the Faith, The	642	Dodds, Marcus	941
Deism	571	Dodge, William Earl	940
Delitzsch, Franz	891	Dodwell, Henry	941
Delitzsch, Friedrich	891	Doederlein, Johann Christof	886
Demetrius	887	Dogmatic Theology	775
Demiurge	887	Dogmatics	429
Democritus	887	Dojin Kyokwai, The	927
Demon, Devil	12	Doketism or Docetism... ..	940
Dempster, John	887	Döllinger, Johann Joseph Ignaz von	939
Denarius... ..	886	Dominicans	943
Denck, Johann or Hans	892	Dominics, St... ..	942
Denis, St.	886	Domitilla	942
Denison Eucharist Case, The	887	Donaldson, John William	942
Denmark	903	Donatists	941
Denominations	552	Donne, John	953
Descartes, René	886	Donnel, Robert	954
Determinism... ..	845	Donoso-Cortes, Juan	942
Deuteronomy, The Book of... ..	654	Dora, Sister (Drothy Wyndlow Pattison)	943
Devay Mátyás Biro	885	Doreau (Sarah Platt Haines) Mrs. Thomas C.	952
De Wette, Wilhelm Martin Leberecht	883	Dorner, Isaak August	948
Diatessaron	879	Dorothea	953
Diaz, Juan	879	Dort, The Synod of	948
Dick, John	882	Dositheus	940
Dick, Thomas	882	Douglas, Sir Robert Kennaway... ..	793
Dickinson, Jonathan	881	Dow, Lorenzo	918
Dictionary of the Bible	744	Dowie, John Alexander	926
Didache (The Teaching of the Twelve Apo- stles)	677	Doxology	612
Diderot, Denys	882	Drachma... ..	944
Didymus	882	Drelincourt, Charles	953
Diepenbrock, Melchior	882	Dresden Council, The	952
Diestel, Ludwig von	881	Driver, Samuel Rolles... ..	944
Dugby, Sir Kenelm	881	Drummond, Henry	944
Dillmann, Christian Friedrich August	882	Drummond, James	944
Diocletianus, Caius Aurelius Valerius	879	Dualism	964
Diodati, Geovanni	879	Dubourg, Anne	888
Diodorus... ..	879	Du Cange, Charles Dufresne Sear	888
Diogenes	870	Duff, Alexander	793
		Dukhobors	926

	Page.		Page.
Du Moulin, Charles	889	Election	206
Du Moulin, Pierre	890	Eli	207
Duncan, John	802	Eli Eli Lama Sabachthani	207
Dunin, Martin von	843	Elijah	209
Dunkers or Dunkards	953	Elim	209
Duns Scotus, Johannes	803	Eliot, George	207
Dunstan, St.	804	Eliot, John	208
Dunster, Henry	804	Elisha	209
Dupanloop, Felix Antoine Philippe	888	Elizabeth	209
Duperron, Jacques Davy	889	Elizabeth, St.	209
Du Plessis-Morney	889	Elkesaites	210
Durand of St. Pourquin	890	Ellicot, Charles John	216
Dury, John	890	Elliot, Charlotte	216
Dutoit or Dutoit-Membrim, Jean Philippe	888	Ellis, William	216
Duvergier De Hapranne, Jean	888	Ellwood, Thomas	210
Dwight, Timothy	953	Elohim	220
Dyophysites	353, 1480	Elohism or Elohim Document, The	220
Dyothelism	1480	Embury, Philip	204
E ardley, Sir Culling	50	Emerson, Ralph Waldo	205
Easter	1163	Emmaus	204
Eastern Church, The	1122	Emmons, Nathaniel	205
E'tal	199	Empedocles	204
Ebel, Johannes Wilhelm	201	Empiricism	421
Ebionites	199	Escratites	220
Ecce Homo	182	Encyclopedistes	66
Ecclesiastes	900	Egedi	220
Ecclesiasticus	636	England	132
Eck, Johann Maier von	189	English Versions of the Bible	179
Eckhart	190	Enoch	198
Eclecticism	764	Enoch, The Book of	198
Ecstasy	182	Enoch, The Book of Secrets of	198
Eddy, Mrs. Mary Baker Glover	192	Ephesus	201
Eden	195	Ephesians, The Epistle to the	202
Eden	196	Ephraem Syrus	201
Edersheim, Alfred	195	Epicurianism	200
Edessa	195	Epikeuros (Epicurus)	200
Edmund, St.	196	Epiphanius	200
Edrei	196	Epiphany	200, 462
Edwards, Jonathan	197	Episcopal Church, The	297
Edwards, Jonathan, the younger	198	Episcopal Church of Scotland, The	705
Eggston, Edward	190	Episcopus, Simon	200
Egypt	183	Epistles	613
Egypt Exploration Fund	186	Epworth Leagues	201
Egyptian Versions of the Bible	187	Era	323
Egyptians, The Gospel according to the	186	Erasmus, Desiderus	205
Elihoque Controversy	759	Erastianism	205
Elam	207	Erdmann, Johann Eduard	216
Elath or Eloth	206	Erigena, Scotus	208
Eldad and Modad, The Book of	216	Erskine, Ebenezer	216
Eleatics	216	Erskine, Thomas	216
		Esrhaddon	183
		Eschatology	554

	Page.		Page.
Escorial	187	Feast of Circumcision, The	351
Esdra, The First Book of	194	Feast of Conception, The	399
Esdra, The Second Book of	194	Feast of Seven Dolours of the B. V. M., The	572
Essays and Reviews, The	191	Feast of Tabernacles, The	1274
Esenes	191	Feast of the Annunciation, The	834
Eather	187	Feast of the Dedication, The	1319
Eather, The Book of	187	Fechner, Gustav Theodore	1155
Eternal Life	246	Fénelon, François de Salignae the la mothe	1153
Eternal Punishment	246	Ferguson, David	1145
Ethical Teachings of Christianity	1481	Festivals	599
Ethiopia	195	Fetichism or Fetishism	1033
Ethiopic Versions	195	Feuerbach, Ludwig Andreas	1156
Eunomius	1379	Fichte, Immanuel Hermann	1146
Euodia	1376	Fichte, Johann Gottlieb	1146
Euphrates	1394	Fiji Islands	1146
Eusebius, Bishop of Caesarea	1378	Finland	1150
Eusebius, Bishop of Emesa	1378	Finney, Charles Grandison	1150
Eusebius of Nicomedia	1378	Fiske, John	1145
Eusebius of Thessalonica	1378	Flacius, Matthias	1168
Eutyches	1379	Flavianus	1168
Eutychianism	1379	Fletcher, Giles	1178
Evangelical	1102	Fletcher, John William	1178
Evangelical Alliance, The	1162	Fliedner, Theodor	1175
Evangelical Association, The	1161	Flint, Robert	1176
Evangelist	181, 1102	Flood, The	463
Eve	130	Fogazzaro, Antonio	1156
Evilmerodach	199	Font	771
Excommunication	1049	Foot-Washing	769
Exegesis	742	Formosus	1168
Exodus, The Book of	600	Formula of Concord	127
Exorcism	245	Fowcett, John	1156
External Unction	561, 1209	Fox, George	1157
Ezekiel	188	Foxe (or Fox), John	1158
Ezekiel, The Book of	188	France	1169
Exion-geber	183	Francis of Assisi	1172
Eza	193	Francis of Paula	1174
Eza, The Book of	193	Francis of Sale	1174
		Franciscans	1174
F aber, Frederick William	1154	Francke, August Hermann	1169
Faber, George Stanley	1155	Frankincense	239, 961
Faber, Stapulensis Jacobus	1144	Frederick III, the Pious	1176
Facundus	1144	Frederick III, the Wise	1175
Fairbairn, Andrew Martin	1150	Free Church, The	687
Faith	640	Free Church Federation, The	687
Fall of Man	800	Free Church of Scotland, The	705
Farrar, Frederic William	1145	Free Congregations, The	687
Fasting	802	Free Religious Association, The	687
Fatalism	845	Free Thinkers	687
Faustus Rejenis or Regiensis	1144	Free Will	686
Fayûm Gospel Fragment, The	1145	Free-Will Baptists, The	686
Feast	599	Freeman, James	1176
		French Versions	1172

	Page.		Page.
Freylingshausen, Johann Anastasius	1167	General Assembly... ..	774
Friends, The Society of	1179	General Conference	774
Friends of God, The	269	Gebesaret	460
Friends of Light, The... ..	1122	Genesis, The Book of	501
Frith or Fryth, John	1175	Geneva	679
Froment, Antoine... ..	1180	Genevieve, St.	679
Froude, Richard Hurrel	1168	Gennadius	681
Fry, Elizabeth	1166	Gentiles	129
Fuller, Andrew	1177	Gentile, Giovanni Valentino	680
Fuller, Thomas	1178	Gentillet, Innocent	681
Funeral Rites	499	Geoffrey of Monmouth	679
Future Life	1319	George, St.	690
		George III.	459
G able, Johann Philipp	303	Georgian Versions	690
Gabriel	303	Georgius... ..	690
Gabriel Sionita	303	Gerhardt, Paul	461
Gad... ..	303	Gerizim	461
Gad	303	Germain De Auxerre, St.	680
Gadara, Gadarenes	302	German Catholics... ..	920
Galatia, Galatians	303	German Reformed Church... ..	926
Galatians, The Epistle to the	303	German Theology... ..	920
Galaudet, Thomas Hopkins	309	German Versions of the Bible	925
Galileo, Galilei	308	Germany	918
Gallican Church, The	307	Gerson, Jean Charlier... ..	680
Gallican Confession, The	307	Gesenius, Wilhelm	459
Gallilee	307	Gethsemane	459
Gallilee, The Sea of	308	Gibbon, Edward	367
Gallio	307	Gibbons, James	367
Gallitzin, Demetrus Augustine... ..	307	Gideon	367
Gamaliel... ..	303	Gieseler, Johann Karl Ludwig... ..	368
Gardiner, Stephen	302	Gifford Lectures	367
Garnet, Henry Highland	309	Gilbert of Sempringham	373
Gasparin Agénor, Comte de	302	Gilead	374
Gataker, Thomas	302	Giles, St... ..	685
Gaul	491	Gilgal	373
Gausson, François Samuel Robert Louis	489	Gill, John	373
Gavazzi, Alessandro	299	Gillet, Ezra Hall	374
Gaza	302	Gilpin, Bernard	373
Gebhard II., Truchers von Waldburg	460	Ginsbury, Christian David... ..	374
Gebhardt, Osker von	461	Giovanni di Capistrano	255
Geddes, Alexander	459	Gladstone, William Ewart... ..	402
Geddes, Janet or Jenny	459	Glanvil, Joseph	405
Gehenna... ..	461	Gnosticism	1029
Geiger, Abraham	298	Gobat, Samuel	490
Geiler, Johann	299	God (in O. T.)	257
Gelasius I	679	God (in N. T.)	260
Gelasius II.	679	God (in the Church)	262
Gellert, Christian Fürchtgott	462	Godet, Frédéric	490
Gemara	461	Godfrey of Bouillon	490
Genealogy, Biblical	422	Goerres, Johann Joseph	461
Genealogy of Jesus Christ	423	Goethe, Johann Wolfgang	459

	Page.		Page.
Goetze, Johann Melchior	459	Grundtwig, Nicolai Frederick Severin	406
Gog... ..	487	Grynaeus, Simon	405
Gogerly, Daniel John	488	Gualbert, Giovanni	309
Goldsmith, Oliver	493	Guilt Offering	453
Golgotha	491	Guise, François de and Charles de	366
Golham Case, The	494	Guise, Henry de	366
Goliath	490	Guizot, François Pierre Gillaume	366
Gomorrhah	490	Guthrie, Thomas	302
Good Friday	737	Gotzlaß, Karl Friedrich August	368
Goodel, William	401	Guyon, Jeanne Marie Bouvier de la Mothe	368
Goodwin, John	401	Gypsy Smith... ..	685
Gordon, Charles George	492		
Gore, Charles... ..	487	H abakkuk	1038
Gorton, Samuel	491	Habakkuk, The Book of	1038
Goshen	489	Hackett, Horatio Balch	1035
Gospel, Gospels	1161	Hadrian	1038
Gossner, Johannes Evangelista	488	Haeckel, Ernst Heinrich	1196
Goth	488	Hagenbach, Karl Rudolf	1035
Gothic Architecture, The	489	Hagai	1035
Gothic Versions	489	Hagai, The Book of	1035
Gottschalk	489	Hagiographa, The	1035
Gouge, William	299	Hahn, Johann Michael	1054
Gounod, Charles François	401	Hahn-Hahn, Ida Countess... ..	1056
Grace	1325	Haldane, James Alexander and Robert	1050
Graf, Karl Heinrich	401	Hale, Edward Everett... ..	1206
Graham, Isabella	404	Hall, Charles Cuthbert	1267
Gratian	402	Hall, Christopher Newman	1266
Gratry	404	Hall, John Vine	1267
Graul, Karl	401	Hall, Joseph... ..	1267
Gray, Asa	407	Hall, Robert... ..	1267
Gray, Thomas	407	Hallelujah	1053
Greece	368	Halley, Robert	1053
Greek Church, The	369	Hallock William Allen	1053
Greek Versions	371	Ham	1048
Green, Ashbel	405	Hamann, Johann Georg	1046
Green, Thomas Hill	405	Hamilton, Patrick	1048
Greg, William Rathbone	407	Hamilton, Sir William	1047
Grégoire, Henrie	408	Hammond, Henry	1048
Gregor von Heimbury... ..	411	Hammurabi, The Code of	1049
Gregorius Neo-Cacsarensis Thaumaturgus	411	Hampden, Benn Dickson	1048
Gregory of Naziansen	408	Händel, Georg Friedrich	1212
Gregory of Nyssa... ..	408	Hanna, William	1055
Gregory of Tours... ..	408	Hannah	1055
Gregory I, the Great	409	Hannington, James	1056
Gregory VII... ..	410	Harbaugh, Henry... ..	1052
Gregory XIII	411	Hare, Julius Charles	1192
Gregory XVI	411	Harmony of the Gospels	1162
Greswell, Edward... ..	407	Harms, Claus... ..	1052
Griesbach, Johann Jakob	405	Harms, Georg Ludwig Dotlev Theodor	1053
Grimthorpe, Edmund Beckett	405	Harnack, Adolf	1051
Grossetest, Robert	411		
Grotius, Hugo	412		

	Page.		Page.
Harper, William Rainey	1039	High Priest	498
Harris, James Rendel... ..	1050	Higher Criticism	240
Harris, Thomas Lake	1050	Hilary	1123
Hart, Joseph... ..	1037	Hildebrand	1127
Hartley, David	1038	Hill, Rowland	1127
Hartmann, Karl Robert Eduard von	1050	Hillel	1127
Hasting, Thomas	1195	Hincmar of Rheims	1127
Hatch, Edwin	1037	Hinnom, The Valley of	1127
Hatfield, Edwin Francis	1037	Hippolytus	1124
Haug, Martin	1034	Hittites, The... ..	1126
Havelock, Henry, Sir	1034	Hizig, Ferdinand	1123
Havergal, Francis Ridley	1034	Hoadly, Benjamin	1265
Havilah	1034	Hobbes, Thomas	1265
Hawaiian Islands	1054	Hodge, Charles	1268
Heber, Reginald	1124	Hodgson, Shadworth Hollway	1264
Hebrew Language, The	1198	Hoffmann, Johann Christian Karl	1264
Hebrew Poetry	1198	Hoffmann, Ludwig Friedrich Wilhelm	1264
Hebrews... ..	1205	Hoffmann, Melchior	1264
Hebrews, The Epistle to the	1198	Holiest Place, The	670
Hebrews, The Gospel according to the	1205	Holiness... ..	650
Hebron	1206	Holland	1268
Hedonism	399	Holtzmann, Heinrich Julius	1268
Hefele, Karl Josef von	1197	Holy Alliance, The	652
Hegel, Georg Wilhelm Friedrich	1193	Holy Fire	737
Hegesppus	1195	Holy Land, The	750
Heidelberg Catechism... ..	1033	Holy Numbers	749
Hell... ..	828	Holy Orders... ..	614
Helmholz, Hermann Ludwig Ferdinand von... ..	1208	Holy Place, The	741
Helvetic Confessions	1206	Holy Sepulchre, The	753
Helvetius	210	Holy Spirit	753
Henderson, Alexander... ..	1212	Holy Week, The	739
Hengstenberg, Ernst Wilhelm	1211	Homiletics	763
Henotheism	791	Homoousian, Homoiousian	1266
Henry, Matthew	1213	Honorius	231
Herbert, Johann Friedrich	1208	Honorius I	231
Herder, Johann Gottfried	1207	Hooper, John	1165
Heresy	125, 1209	Hope	1030
Hermas	1208	Hopkins, Samuel	1266
Hermeneutics	593	Hopkinsianism	1266
Hermon... ..	1209	Horeb	1269
Herod	1209	Horsley, Samuel	1268
Herrmann, Wilhelm	1208	Hort, Fenton John Anthony	1268
Herzog, Johann Jakob	1206	Hosanna... ..	1261
Heterodoxy	1196	Hosea	1261
Heusser, Mrs. Meta	1256	Hosea, The Book of	1261
Hexateuch	1352	Howard, John	1034
Hezekiah	1196	Hughes, Hugh Price	1121
Hibbert Lectures... ..	1123	Hugo of St. Victor	1379
Hieroglyphics	594	Huguenots	1376
Hieronymus	102, 1122	Humanitarians	692
High Church... ..	240	Humanists	692
High Places	782	Hume, David	1121

	Page.		Page.
Humility	453	" XI... ..	143
Hungary... ..	1055	" XII.	143
Hupfeld, Hermann	1166	" XIII.	143
Hus or Huss, John	1163	Inquisition	551
Hussites	1165	Inspiration	136, 1499
Hutcheson, Francis	1037	Intercession	912
Hutton, Richard Holt... ..	1037	Intermediate State, The	805
Huxley, Thomas Henry	1036	Introduction to the Books of the Bible	744
Hymns	527	Introduction to the Books of the N. T.	662
Hyssop	1123	Introduction to the Literature of the O. T.	317
Iceland	3	Intuitionism	826
Iconium	107	Irenaeus	131
Idealism... ..	1536	Irenical Theology or Irenics	131
Idolatry and Image Worship	401	Irving, Edward	53
Ignatius	103	Isaac	107
Ignatius, Father	103	Isaiah	107
Ignatius Loyola	104	Isaiah, The Book of	108
Ignatius of Antioch	103	Ishbosheth	112
Ignorantines	104	Ishmael	112
Illuminati	131	Israel	112
Illumination	131	Issachar	127
Illumination Period, The	426	Italy	124
Image of God... ..	267	Itinerancy	688
Immaculate conception of Virgin Mary	1324	Iturea	128
Immanence	954	Jacob	1367
Immanuel	143	Jacob Baradaeus	1374
Immersion	671	Jacob of Edessa	1369
Immortality of the Soul	1497	Jacobi, Friedrich Heinrich... ..	1367
Incarnation, The	440	Jacobites... ..	1373
Incense	239	Jacob's Well	1373
Incumbent	132	Jacopone Da Todi... ..	1374
Independents	909	Jah	1367
Index Librorum Prohibitorum vel Expurgan- dorum... ..	261	James	1368
India or Hindustan	138	James, The Epistle of... ..	1370
Infallibility of Pope	1016	James, William	679
Infant Baptism	594	Jannes and Jambres	1375
Infralapsarianism... ..	143	Jansen, Cornelius	1374
Ingham, Benjamin	132	Jansenism	1375
Innocent I.	141	Japan	973
" II.	141	Japanese Versions of the Bible... ..	1017
" III.	141	Japeth	1374
" IV... ..	142	Jaweh	1367
" V.	142	Jeanne D'Albert	686
" VI.	142	Jebus	201
" VII.	143	Jebusite	201
" VIII.	143	Jehoiachin	204
" IX.	143	Jehoiada... ..	204
" X.	143	Jehoiakim	204
		Jehoram or Joram	204
		Jehovah	203

	Page.		Page.
Jehovah Document or Jahwist, The...	203	Joppa	1410
Jehu	199	Jordan, The	1454
Jephthah	200	Joris, Johann David	690
Jeremiah	216	Joseph	1407
Jeremiah II.	219	Joseph II.	1409
Jeremiah, The Book of	217	Joseph, The Husband of Mary	1408
Jeremiah, The Epistle of	219	Joseph of Arimathea	1408
Jericho	203	Joseph the Carpenter, The History of	783
Jeroboam	1374	Josephs, Flavius	1409
Jerome	220	Joshia	1404
Jerome (Jeronymus) von Prague	680	Joshuah, The Book of... ..	1404
Jerusalem	210	Jovianus, Flavius Claudius	1396
Jerusalem Chamber, The	213	Jubilees, The Book of (or Little Genesis)	1454
Jesuits	75	Judah	1381
Jesus Christ	79	Judaism	1383
Jesus, The Teaching of	96	Judaizers	1382
Jesus, The Son of Sirach	102	Judas Iscariot	1381
Jew, Jews	1385	Judas of Galilee	1382
Jewell, John	687	Jude, The Lord's Brother	1382
Jewish Christians or Judaizers	1383	Jude, The Epistle of	1384
Jews' Religion or Judaism, The... ..	1383	Judges	568
Jezebel	124	Judges, The Book of	568
Jezreel	188	Judgment	511
Jean of Arc	688	Judith, The Book of	1383
Job, The Book of... ..	1449	Judson, Adoniram	685
Joel, The Book of... ..	1396	Julian (Flavius Claudius Julianus)	1395
Johannes Kraft	382	Julius Africanus, Sextus	1396
John	690	Julius II.	1396
John IV.	1425	Justification	592
" VIII.	1425	Justin Martyr	1380
" X.	1425	Justinian I.	1380
" XII.	1425		
" XXII.	1425		
" XXIII.	1425		
John, Frederick	1449	K adesh	251
John, Nepomuk	1449	Kaftan, Julius	256
John of Chur (Coir)	689	Kahnis, Karl Friedrich August... ..	254
John of Damascus... ..	1424	Kaldi, Georg... ..	283
John of Monte Corvino	681	Kalteisen, Heinrich	282
John of Salisbury... ..	691	Kant, Immanuel	293
John the Apostle	1415	Kapff, Sixt Karl	249
John the Constant	1448	Keats, John	329
John the Baptist	1422	Keble, John	330
John, The Gospel according to	1430	Keckerman, Bartholomäus... ..	445
John, The First Epistle of... ..	1425	Kedron or Kidron	446
John, The Second Epistle of	1425	Keikyo	419
John, The Third Epistle of	1429	Keim, Karl Theodor	238
John, The Revelation of	1441	Keith, Alexander	323
Johnson, Samuel	691	Keith, George	324
Jonah, The Book of	1413	Kells, The Book of	450
Jonas, Justus... ..	1414	Kempis, Thomas á	447
Jonathan... ..	1415	Ken, Thomas... ..	452
		Kennicott, Benjamin	458

	Page.		Page.
Kenosis Theory	447	Lamentations	2
Kenrick, Francis Patrick	458	Landerer, Maximilian Albert von	1469
Ketteler, Wilhelm Emanuel Baron von	446	Lanfrance	1469
Khammarati, The Code of... ..	1049	Lange, Johann Peter	1468
Khlesl, Melehor	389	Langton, Stephen... ..	1468
Kidd, Benjamin	330	Language of the O. T... ..	318
Kierkegaard, Søren Aaby	356	Lansdell, Henry	1468
Kilham, Alexander	356	Laodicea... ..	1457
Kimichi or Kimbi, David	331	Lardner, Nathaniel	1468
King, Jonas	356	Lasco, Johannes á, or Jun Laski	1461
King, Thomas Starr	356	Lateran Councils	1463
Kingdom of God, The... ..	297	Latimer, Hugh	1462
Kingdom of Heaven, The	875	Latin Versions	1463
Kingdom of Israel, The	122	Latitudinarians	1462
Kingdom of Judah, The	1386	Latter-Day Saints, The	1299
Kings, The First Book of the	1505	Laod, William	1524
Kings, The Second Book of the	1505	Lavater, Johann Kasper	1466
Kingsley, Charles... ..	336	Law... ..	222
Kirk, Edward Norris	281	Law, William	1514
Kirkland, Samuel... ..	281	Law of Guaranty, The	791
Kitto, John	329	Lazarus of Bethany	1460
Klarenbach, Adolf	382	Leather, Stanley	1475
Klopstock, Friedrich Gottlieb	395	Lelanon... ..	1509
Knapf, Albert	378	Leibbaeus	1505
Knipstro, Johann... ..	379	Lecky, William Edward Hartpole	1504
Knobel, Karl August	379	Lee, Ann	1470
Knollge, Hanserd... ..	1032	Lee, Samuel	1470
Knox, John	1030	Legend of Abgar, The... ..	29
Kohlbrügge, Hermann Friedrich	475	Legendary Theory	464
Kohler, Christian and Hieronymus	476	Leibniz, Gottfried Wilhelm	1455
Köln	451	Leighton, Robert... ..	1507
Komander (Dorfinann), Johann	466	Leo I, the Great	1499
König, Samuel	446	Leo III	1500
Königsberg Religious Movement, The	446	Leo IX	1500
Kourad of Marburg	487	Leo X	1501
Korea	287	Leslie, Charles	1504
Krell or Crell Nikolaus	333	Lessing, Gotthold Ephraim	1504
Krüdener, Barbara Juliane Baroness von	386	Levi	1509
Krombacher, Friedrich Wilhelm	388	Leviticus, The Book of	1510
Kuonen, Abraham	376	Liberius	1479
Kunze, John Christopher	400	Libertines	1480
		Life and Death	128
L Chaise, François de	1460	Lightfoot, John	1455
La Salle, Jean Baptiste de	1460	Lightfoot, Joseph Barber	1455
Labadie, Jean de	1465	Liguori, Alfonso Maria da	1474
Lachmann, Karl	1465	Limborck, Philipp van	1480
Lacordaire, Jean Baptiste Henric	1460	Lipsius, Richard Adelbert... ..	1479
Lactantius Firmianus	1457	Liturgics	1499
Ladd, George Trumbull	1462	Liturgy	1499
Lamb of God, The	269	Livingston, David	1472
Lameunais, Hugues Felicite Robert de	1467	Livingston, John Henry	1472
		Llorens, Don Juan Antonio	1480

	Page.		Page.
Local Preachers	844	Mammon	1301
Locke, John	1521	Man... ..	1124
Lodge, Sir Oliver Joseph	1522	Manasseh	1300
Logos	1515	Mani	1300
Loisy, Alfred	1514	Manichaeism	1301
Lollards, The	1513	Manna	1300
Lombardus, Petrus	1535	Manning, Henry Edward	1313
Longfellow, Henry Wadsworth	1535	Mansel, Henry Longueville	1312
Lord	598	Manuscripts of the Bible	744
Lord of Hosts, The	1081	Marcion	1306
Lord's Day	605	Marcion, The Gospel of	1307
Lord's Prayer	602	Marcus Aurelius	1307
Lord's Supper	603	Marheineke, Philipp Konrad	1312
Lorenzo Campeggi	271	Mariolatry	1306
Lot	1523	Mark	1287
Lots... ..	377	Mark, The Gospel according to... ..	1288
Louis, St. or Louis IX... ..	1483	Marnix, Philipp von	1311
Love	1	Marriage... ..	479
Love Feasts	3	Marsden, Samuel	1308
Lower Criticism	251	Marshman, Joshua	1308
Loze, Hermann Rudolf	1522	Martensen, Hous Lassen	1311
Lucian of Samosata	1487	Martin I.	1311
Lucian the Martyr	1487	Martin IV.	1311
Lücke, Gottfried Christian Friedrich	1474	Martin V.	1311
Ludovicus Cappellus	249	Martin, Sarah	1310
Luke, The Gospel according to	1484	Martin of Tours, St.	1309
Luke the Evangelist	1484	Martinsau, James... ..	1309
Lullus, Raymundus	1489	Martyn, Henry	1310
Luthardt, Christoph Ernst... ..	1488	Martyrdom, Martyr	688
Luther, Martin	1490	Marx, Heinrich Karl	1308
Lutheran Church, The	1494	Mary	1303
Lycania	1484	Mass, The	1291
Lycia	1487	Massacre of St. Bartholomews	752
Lynch, Thomas Toke	1481	Massillon, Jean Baptiste	1298
Lyon, Mary	1454	Materialism	1533
Lystra	1487	Mather, Cotton	1290
Lyte, Henry Francis	1454	Mather, Increase	1290
		Mather, Richard	1290
		Matheson, George... ..	1292
M abillon, Jean... ..	1301	Mathew, The Gospel according to	1293
Maccabees	1294	Matthew the Apostle	1292
Maccabees, The Book of	1295	Matthias... ..	1299
Macedonia	1286	Maurice, John Frederic Denison	1360
Maclod, Norman... ..	1298	Maurice of Saxony, Prince... ..	1361
Madonna	1300	Max Müller, Friedrich	1297
Magdalen, The Order of	1286	Maximus Confessor	1282
Magi	1035, 1282	Maxmillian II.	1281
Magic, Magician	1291	McOrie, Thomas	1298
Magog	1290	McIlvaine, Charles Pettit	1296
Maimonides, Moses	1281	McMillan, John	1297
Malachi, The Book of... ..	1301	McCosk, James	1290
Malebranche, Nicolas... ..	1312	Meal Offering... ..	775

	Page.		Page.
Means of Grace	237	Moabite Stone, The	1343
Mechanical View of the World	322	Modernism	360
Medes	1333	Mohammed	1358
Medhurst, Walter Henry	1334	Mohammedanism	397
Mediator, Mediation	806	Moloch	1364
Medley, Samuel	1334	Molinos, Miguel de	1362
Melanchthon, Philip	1334	Moloch	1364
Melchizedek	1338	Monarchianism	1357
Meletius of Antioch	1339	Monarchy and Monasticism	674
Meletius of Lycopolis	1339	Monastery of Clugny, The... ..	388
Melita	1337	Moncreiff, Sir Henry Wellwood	1364
Melville, Andrew... ..	1337	Money, Coins... ..	358
Mendelssohn, Moses	1339	Monica	1358
Mendicant	782	Monism	126
Menno Simons... ..	1340	Monk	552
Mennonites	1340	Monophysites	127
Merodach	1339	Monothelism	1536
Messiah	1331	Monothelites... ..	126
Methodism or Methodist Church	1325	Monseil, John Samuel Bewley	1365
Methodist Protestant Church	1319	Montaigne, Michel Eyquem... ..	1366
Metropolitan	792	Montanism	1365
Mexico	1325	Montesquieu, Charles de Secondat	1366
Meyer, Heinrich August Wilhelm	1280	Montgomery, James	1366
Micah	1316	Moody, Dwight Lyman	1324
Micah, The Book of	1316	Moore, Thomas	1342
Michael	1317	Moral Argument	927
Michael VIII (Palaeologus)	1318	Moravian Church	1360
Michaelis, Johann David	1317	More, Hannah, Miss	1342
Middleton, Congers	1318	More, Henry... ..	1342
Midian, Midianites	1319	More, Sir Thomas... ..	1341
Midrash	1319	Morgan, Thomas	1362
Miletus	1322	Moriah	1360
Milicz of Kremsier	1320	Mormons, Mormonism... ..	1362
Militiades	1320	Morrison, Robert	1361
Mill, John Stuart... ..	1320	Moses	1344
Millenarianism, Millennium	770	Mosheim, Johann Lorenz von	1343
Mills, Samuel John	1320	Mount of Olives, or Olivet... ..	298
Milman, Henry Hart	1321	Mozley, James Bowling	1356
Milton, John... ..	1321	Mühlenberg, Heinrich Melchior	1215
Minerals in the Bible	399	Mühlenberg, William Augustus	1315
Minister... ..	438	Müller, George	1314
Minor Prophets, The	595	Müller, Julius	1314
Minucius Felix, Marcus	1319	Münzer, Thomas	1316
Miracles	324	Muratorian Bible, The	1324
Mishna	1318	Music	236
Missa, The	1318	Myrrh	1356
Mission Schools	344	Mysticism	653
Missionary	768	Mythical Theory	673
Missionary Societies	900		
Missions	892	N aaman	958
Mizpah	1319	Nahor	958
Moab	1343		

	Page.		Page.
Nahum, The Book of	957	Nicodemus, The Gospel of... ..	965
Nain	954	Nicolai, Philip	965
Nante, The Edict of	958	Nicolai Krypffs, or Krebs	376
Naphtali	957	Nicolaitans	966
Nard	958	Nicolas	965
Nasmith, David	956	Nicoll, William Robertson... ..	966
Nathan	957	Nicopolis	965
Nathanael	956	Niedner, Christian Wilhelm	972
Nature Worship	572	Nietzche, Friedrich Wilhelm	967
Nazarene	956	Nightingale, Florence	954
Nazareth	955	Nibilism... ..	333
Nazarite	955	Nihon Kirisuto Kyokwai (Japan Christian Church), The	995
Neal, John Mason... ..	1018	Nihon Kumiai Kyokwai (Japan Congregational Church), The... ..	999
Neander, Johann August Wilhelm	1019	Nihon Methodist Kyokwai (Japan Methodist Church), The	1011
Neapolis... ..	1019	Nihon Sei-ko-kwai (Episcopal Church of Japan), The	1007
Nebo	1023	Nihon Sei-Kyokwai (Greek Catholic Church of Japan), The	1003
Nebo	1023	Niishima, Jo (Neesima, Joseph Hardy)	959
Nebuchadnezzar	1022	Nile, The	1018
Neco	1020	Nimrod	1018
Nectarius	1020	Nineveh... ..	973
Nehemiah	1023	Nisan	967
Nehemiah, The Book of	193	Nitschman, David... ..	972
Nemesius	1023	Nitsch, Karl Immanuel	972
Nennius	1025	Noah	1025
Neo-Platonism	654, 1020	Noah, The Book of	1027
Nergal	1024	Nominalism	1538
Neri, Filipp de	1023	Nonconformity	1122
Nero	1024	Nordheimer, Isaac	1033
Nernes Clayensis	1024	North, Brownlow... ..	1032
Nernes Lampronensis	1024	Norton, Andrew... ..	1033
Nestor	1022	Norway	1032
Nestrians	1021	Notre Dame	1032
Nestrius	1020	Nott, Eliphalet	1032
New Birth	650	Novalis, Friedrich von Hardenberg... ..	1027
New England Theology, The	638	Novatianus	1027
New Jerusalem Church, The	640	Nowell, Alexander	1028
New Moon	616	Numbers, The Book of	1352
New Testament, The	657	Nun, Nunnery	33
New Testament History	662		
New Testament Theology	661		
New Testament Times, The	663		
New Year	653		
Newell, Samuel and Harriet	960		
Newman, John Henry	961		
Newton, John	961		
Newton, Sir Isaac... ..	961		
Nicene Creed and Niceno-Constantinopolitan Creed, The... ..	963		
Nicholas de Cusa	376		
Nicholas I	966		
Nicholas V	966		
Nicodemus	964		

Oates, Titus	250
Oath	807
Obadiah, The Book of... ..	231
Oberlin, Jean Frédéric... ..	232
Oberlin Theological Seminary	233
Oberlin Theology... ..	233
Occam, William	227

	Page.		Page.
Occasionalism	323	Pachomius	1107
Ochino, Bernardino	225	Paganism	104
Oecolampadius, Johann	182	Paine, Thomas	1254
Œcumenical Councils	761	Palestine	1118
Oehler, Gustav Friedrich	219	Paley, William	1252
Oettinger, Friedrich Christoph... ..	192	Pallacy, Bernard	1116
Offering	506	Palladius	1113
Olaf, St.	233	Palm	612
Old Catholics, The	309, 464	Palm Sunday, The	612
Old Testament, The	313	Pamphilus	1111
Old Testament, The Text of	317	Pamphylia	1112
Old Testament Canon	319	Pantaenus	1120
Old Testament History	319	Pantheism	1080
Old Testament Theology	317	Papacy and Papal System	1044
Olearius	235	Papal States	1046
Olevianus, Caspar... ..	235	Papias	1110
Olga St.	235	Parables... ..	784
Olier, Jean Jacques	233	Paraclete	954
Olin, Stephen	235	Paradise... ..	1112
Oliverz, Thomas	233	Parish	429
Olivetian, Pierr Robert	233	Parker, Joseph	1105
Olivi, Pierr Jean	233	Parker, Matthew	1106
Ollivant, Alfred	233	Parker, Theodore... ..	1105
Olishausen, Hermann	235	Parthians	1117
Onderdonk, Henry Ustic	238	Pascal, Blaise	1108
Oneida Community, The	231	Paschalis II	1107
Onesimus	231	Passion Play	688
Onkelos	238	Passion Week, The	688
Ontological Argument... ..	684	Passover,	697
Oosterzee, Jean Jakob van... ..	226	Pastor	1270
Optatus	232	Pastral Epistles, The	1270
Optimism, Pessimism	1458	Pastral Theology	1270
Ordination	64	Patmos	1109
Oeigen	233	Patriarch	439
Original Sin	462	Patrick, St.	1110
Orosius, Paulus	236	Patricians... ..	1109
Orthodoxy and Heterodoxy	752	Patristics and Patrology	439
Osgood, Samuel	226	Paul the Apostle	1086
Osiander, Andreas	226	Paulicians	1083
Osmond, St.	226	Paulinus, Pontius Meropius Amicius	1083
Oswald, St.	226	Paulus, Heinrich Eberhard Gottlob	1084
Otfried of Weissenburg	230	Paulus III	1084
Otho of Bamberg	230	Paulus IV	1085
Otho of Freising	230	Paulus V	1086
Otterbein, Philip William... ..	173	Paulus, Sergius	1104
Oudin, Casimir	221	Pazmany, Peter	1109
Owen, John	222	Peabody, George	1136
Owen, Robert	222	Peace of Augsburg, The	8
Owen, Robert Dale	222	Peace of Westphalia, The	160
Oxford	228	Peace Offering	540
Oxford Movement, The	228	Pelagianism	1246
Ozanam, Antoine Frédéric... ..	226		

	Page		Page
Pelagius	1244	Pilate	1137
Penance	833	Pilgrim Fathers, The	1141
Penitential Psalms	539	Pilgrimage	750
Penitentiales	832	Pillar-Saints	806
Penn, William	1252	Pisgah	1135
Penitence	1351	Pisidia	1135
Pentecost	1254	Pius I	1131
Perfectionism	291	Pius II	1131
Pergamus or Pergamum	1248	Pius IV	1132
Perowne, John James Stewart	1252	Pius V	1132
Perrone, Giovanni	1251	Pius VI	1132
Persia	1249	Pius VII	1133
Pessimism	1122	Pius IX	1133
Pestalozzi, Johann Heinrich	1227	Platon or Plato	1187
Petavias, Dionysius	1228	Plotinus or Plotinos	1192
Peter, Martyr Vermigli	1134	Plymouth Brethren, The	1188
Peter, The First Epistle of	1238	Poiret, Pierre	1274
Peter, The Second Epistle of	1242	Poland	1275
Peter, The Gospel of	1243	Pole, Reginald	1277
Peter, The Teaching of	1243	Polemics	1536
Peter the Apostle, Simon	1228	Polycarp	1276
Peter the Hermit	1135	Polygamy	783
Peter the Venerable	1135	Polyglot Bible	701
Pew	537	Polytheism	783
Pfeiderer, Otto	1167	Pontius, Pilate	1278
Pharaoh	1119	Pope	1039
Pharisees	1114	Pope, Alexander	1275
Philadelphia	1125	Pordage, John	1278
Philaster	1146	Porter, Noah	1277
Philemon	1143	Portugal	1277
Philemon, The Epistle to	1143	Positivism	684
Philip, The Gospel of	1140	Potter, Alonzo	1274
Philip II	1155	Practical Theology	684
Philip the Apostle	1140	Pragmatism	684
Philip the Evangelist	1141	Prayer	325
Philip the Fair	1147	Preaching or Sermon	762
Philip the Magnanimous	1146	Predestination, The Doctrine of	1410
Philip the Tetrarch	1141	Presbyter	809
Philippi	1137	Presbyterian Church, The	812
Philippians, The Epistle to	1138	Presbyterianism	809
Philippists	1148	Priest	494
Philistine	1246	Primitive Methodist Connection, The	1190
Philo	1149	Probabilism	299
Philosophy	853	Procopius	1190
Philosophy of Religion	552	Prophecy and Prophet	1398
Phoenicia	1151	Propitiation	957
Phoenix or Phenice	1136	Proselyte	1152
Photius	1156	Prosper of Aquitania	1191
Phrygia	1176	Protagoras	1192
Pictare Worship	413	Protestant Episcopal Church, The	1192
Pictures of Christ	348	Protestant Episcopal Church in America, The	1214
Pietism	420	Protestantism	1192

	Page		Page
Protevangelium of James, The	1369	Repentance	375
Proverbs, The Book of	646	Reuben	1497
Providence	764	Reuchlin, Johann	1514
Prussia	1191	Reuss, Edward Guillaume	1514
Psalms, The Book of	583	Revival of Religion	1470
Psalter of Solomon, The	780	Revelation	422, 874, 1343
Psychical Research	650	Revelation of John the Divine, The	1441
Psychology of Religion	552	Revelation of Peter, The	1244
Psychology of the Bible	671	Rhegius, Urbanus	1503
Publican	1318	Ricci, Matteo	1475
Pulleyn, Robert	1190	Richelieu, Armand Jean Duplessis de	1474
Punishments	424	Richmond, Legh	1475
Punshon, William Morley	1120	Ridley, Nicholas	1479
Purgatory	1514	Riehm, Edward	1480
Purim	1190	Righteousness	361
Puritans	737	Rippon, John	1477
Purvey, John	1117	Ritschl, Albrecht	1475
Pusey, Edward Bouverie	1134	Ritschlianism	1477
Puseyites	1134	Ritual	365
Pythagoras	1135	Ritualism, Ritualist	365
Q uakers	376	Robertson, Frederick William	1525
Quesnel Pasquier	446	Robertson, James Craigie	1525
Quietism	685	Robinson, Edward	1526
Quirinius	390	Robinson, John	1527
R abbanus Maurus	1466	Rogers, Henry	1521
Rabbi, Ra'boni	1466	Rogers, James Guinness	1521
Radhertus, Paschasius	1464	Roman Catholic Church, The	1528
Rahab	1465	Romanesque Architecture, The	1535
Railkes, Robert	1504	Romans, The Epistle to the	1531
Rainy, Robert	1503	Rome	1527
Ramsay, William Michell	1467	Rose, Henry John	1521
Ramus, Petrus	1467	Rose, Hugh James	1521
Raphael	1468	Rothe, Richard	1523
Rationalism	1540	Rous, Francis	1457
Rea, Andrew	1477	Roussau, Jean Jaques	1457
Realism	1538	Ruskin, John	1461
Reformation, The	543	Russell, Charles William	1461
Reformed Church, The	1512	Russia	1517
Regeneration or New Birth	650	Ruth	1488
Reid, Thomas	1477	Roth, The Book of	1489
Reimarus, Hermann Samuel	1457	Rotherfurd, Samuel	1460
Religion	540	Raysbrock or Ruesbrock	1484
Religion of Humanity, The	691	Ryle, Herbert Edward	1457
Religious Liberty	645	S aadia Ha Gaon, Ben Joseph	508
Religious Peace of Nuremberg, The	1019	Sabbath	67
Renaissance, The	1184	Sabbath Day's Journey	67
Renaissance Architecture, The	1497	Sabbath School	67
Renan, Ernst	1508	Sabbatical Year	67
		Sabellianism	512
		Sabellius	511

	Page.		Page.
Sachs, Hans	538	Scaff, Philip	596
Sack, August Friedrich Wilhelm	537	Scepticism	396
Sack, Karl Heinrich	538	Schaftsbury, Antony Ashley Cooper, Third Earl of	596
Sacrament	760	Schauffler, William Gottlieb	595
Sacramentarians	506	Schelling, Friedrich Wilhelm Joseph von	563
Sacred Heart of Jesus, The Society of	749	Schenkel, Daniel	565
Sacrifice	104	Schiller, Johann Christoph Friedrich von	636
Sadducees	508	Schlatter, Michael	611
Sagittarius, Kaspar	505	Schleiermacher, Friedrich Daniel Ernst	608
Sailer, Johann Michael	534	Schmalcaldic League, The	607
Saint	751	Schmalcaldic War, The	606
Saint-Martin, Louis Claude de	534	Schmid, Christian Friedrich	607
Saint-Simon, Claude Henrie Comte de	523	Schmiedel, Paul Wilhelm	607
Saint-Worship	752	Schmolke, Benjamin	608
St. Isidore	112	Schmucker, Samuel Simon	607
St. Paul's Cathedral	769	Scholasticism	707
St. Peter's Cathedral	770	Scholten, Jean Hendrik	636
Salamis	517	Schools in Theology	301
Salem	518	Schopenhauer, Arthur	612
Salmon, George	518	Schrader, Eberhard	611
Salmone	518	Schröckh, Johann Matthias	612
Salome	519	Schultens, Albert	611
Salt	588	Schürer, Emil	561
Salvation, Saviour	698	Schwartz, Christian Friedrich	612
Salvation Army, The	311	Schwegler, Albert	598
Samaria	512	Schwenkfeld, Kasper von	599
Samaritan Pentateuch	513	Science of Religion	549
Samos	517	Scotland	702
Samothrace	517	Scott, Elizabeth	702
Samson	516	Scott, Thomas	702
Samuel	513	Scott, Walter	702
Samuel, The First Book of	514	Scotus Erigena, John	706
Samuel, The Second Book of	514	Scribes	301
Sanctification	750	Scripture Union, The	748
Sanctuary	740	Scrivener, Frederick Henry Ambrose	701
Sanday, William	525	Sculder, John	636
Sandeman, Robert	526	Scythians	698
Sandys, Edwin	526	Seabury, Samuel	588
Sandys, George	525	Seagrave, Robert	568
Sanhedrin	526	Seal, Sealing	132
Saukey, Ira David	522	Seamon, Lazarus	589
Santa Claus	525	Sears, Barnabas	539
Sapphira	508	Sears, Edmund Hamilton	539
Sarah, also Sarai	517	Sebastian, St.	766
Sardis	518	Second Coming of Christ, The	349
Sargon	517	Sects or Denominations	552
Sarpi, Paolo	518	Secularism	780
Satan	506	Sedgwick, Daniel	761
Saul	504	Seeley, John Robert	637
Saul, Joshua	504	Selah	767
Savonarola, Hieronymus	505	Seleucia	768

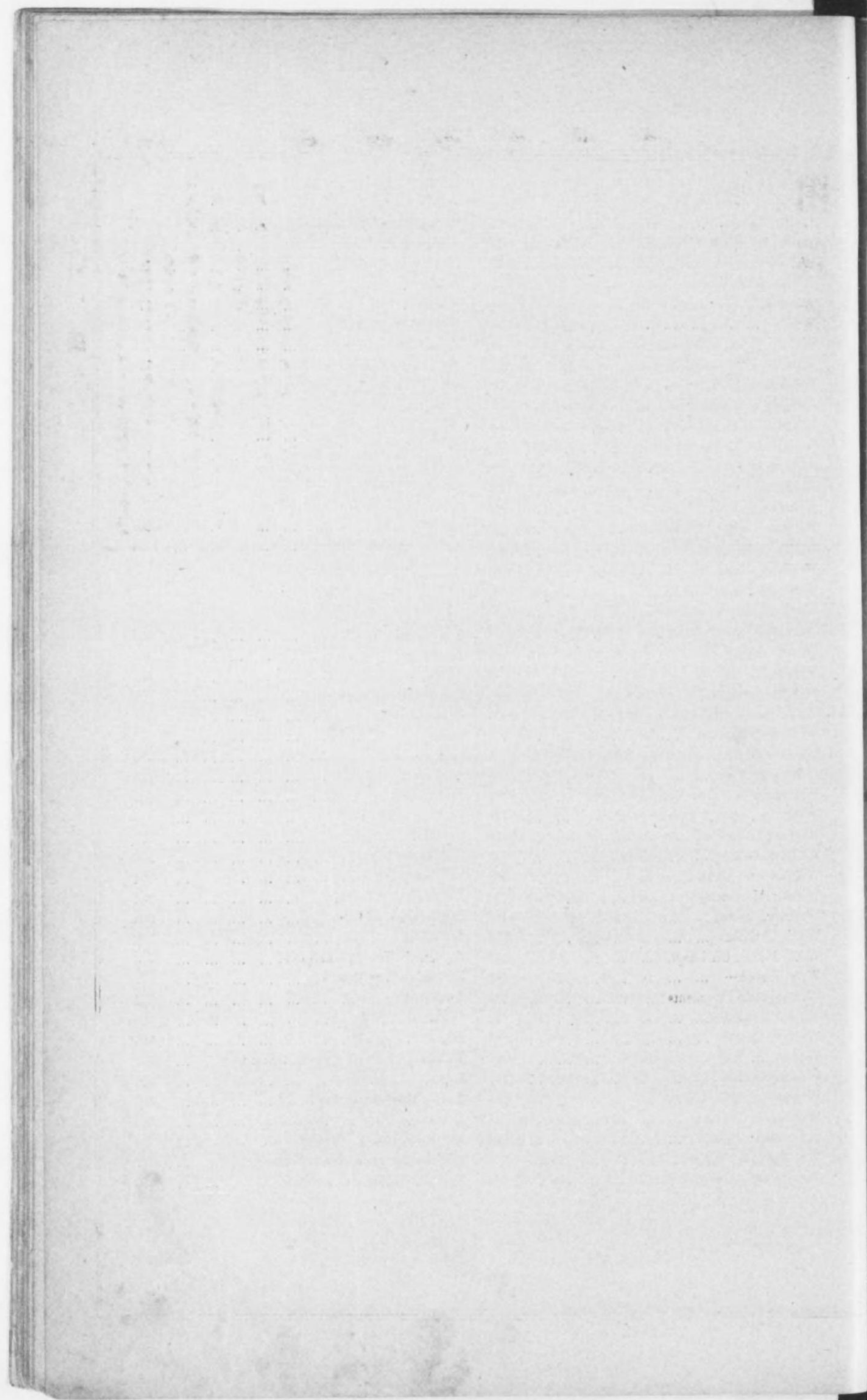
	Page.		Page.
Self-Realization, The Theory of	681	Simon Ben Yockai	590
Selwyn, George Augustus	767	Simon Magus	590
Semi-Pelagianism	1056	Simon of Tournay	590
Semites	766	Sin	834
Semler, Johann Salomo	773	Sin Offering	534
Seneca, Lucius Annaeus	765	Sinai Mount	582
Sennacherib	765	Sixtus IV	567
Septuagint	572	Sixtus V.	567
Sermon	762	Slavery, Slave Trade	948
Sermon on the Mount, The	525	Slavonic Version	733
Servant of Jehovah, The	903	Smalcaldic League, The	729
Servetus, Michael	767	Smalley, John	729
Seth	761	Smith, Adam	730
Seton, Elizabeth Ann	578	Smith, Eli	732
Seven Champions of Christendom	572	Smith, George	731
Seventh-day Adventists	761	Smith, George Adam	730
Seventh-day Baptists	761	Smith, Goldwin	732
Severus, Alexander	760	Smith, Henry Boynton	732
Severus, Septimius	761	Smith, John Cotton	732
Sewall, Samuel	599	Smith, John Pye	732
Shakers	561	Smith, Sidney	732
Shakespeare, William	561	Smith, Sir William	730
Shalmaneser	597	Smith, William Andrew	730
Shammai	597	Smith, William Robertson	730
Sharp, James	596	Smyrna	733
Sharp, Granville	597	Smyth, John	729
Sharpe, Samuel	597	Socialism	595
Shechem	568	Socinians	776
Shekel	568	Socinus, Faustus	776
Shekinah	562	Sociology	595
Shelley, Percy Bysshe	562	Socrates	774
Sheol	1454	Socrates	775
Shepard, Thomas	662	Sodom	778
Sherlock, William	598	Solomon	779
Sheshach	570	Song of Songs, The	299
Shewbread	778	Song of the Holy Three Children, The	523
Shushan	600	Sons of God	268
Sibylline Oracles, The	654	Sophia	778
Sickingen, Franz von	684	Sophists	330
Sidney, Sir Philip	578	Sosthenes	776
Sidon or Zidon	572	Soteriology	311
Sieveling, Amalie	578	Soto, Dominicus de	777
Siebert, Henry	685	Soto, Petrus de	778
Siebert of Gemblours	570	Soule, Joshua	504
Sigismund, Johann	567	South, Robert	500
Sigourney, Lydia Howard Huntley	567	Southwell, Robert	501
Silas or Silvanus	636	Sozomenos, Salamanes Hermias	776
Siloam	637	Spain	723
Simeon	589	Spangenberg, Augustus Gottlieb	720
Sinon	589	Sparrow, William	719
Simon	589	Spencer, Herbert	727
Simon, Richard	591	Spener, Philip Jakob	725

	Page.		Page.
Spenser, Edmund...	727	Soso, Heinrich ...	710
Speratus, Paulus ...	727	Swedenborg, Emanuel...	695
Spinola, Christval Rozas de ...	722	Switzerland ...	692
Spinoza, Baruch de ...	721	Sychar ...	696
Spiritualism ...	298, 759	Synagogues ...	1386
Spitta, Karl Johann Philip ...	720	Synergism ...	650
Sprague, William Boell ...	722	Synoptic Gospels, The...	331
Spring, Gardiner ...	723	Sytyche... ..	733
Spring, Samuel ...	723	Syracuse ...	733
Spurgeon, Charles Haddon...	728	Syria ...	733
Stanhope, Hester Lucy ...	711	Syriac Versions ...	736
Stanislaus ...	710	Syrophonicia... ..	499
Stanley, Arthur Penryhn ...	711	Systematic Theology ...	775
Stapfer, Philip Albert ...	710		
States of the Church ...	1046	T	
Staudenmeier, Franz Anton ...	710	Tabernacle ...	1283
Staudlin, Karl Friedrich ...	717	Tabor, The Mount of ...	785
Staupitz, Johann von ...	710	Tait, Archibald Campbell ...	858
Steel, Sir Richard... ..	714	Talmage, Thomas De Witt... ..	791
Steele, Anne ...	713	Talmud ...	790
Stennett, Joseph ...	716	Tancred of Bolgna... ..	791
Stennett, Samuel ...	516	Tappan, Henry Philip... ..	784
Stephan, Martin ...	715	Targum ...	786
Stephen ...	715	Tarshishi ...	788
Sterry, Peter ...	715	Tarsus ...	788
Sternhold, Thomas ...	711	Tate, Nahum... ..	858
Stendel, Johann Christian Friedrich ...	717	Tatian ...	783
Stewart, Dugald ...	712	Tatian, The Gospel of... ..	788
Stiekna, Conrad ...	713	Tauler, Johannes ...	782
Stier, Rudolf Ewald ...	714	Tausen, Hans... ..	782
Stilling (Johann Heinrich Jung) ...	714	Taylor, Dan ...	872
Stillingfleet, Edward ...	714	Taylor, Isaac... ..	871
Stirling, James Hutchison ...	711	Taylor, Jeremy ...	873
Stoicism ...	710	Taylor, Nathaniel William... ..	872
Stolberg, Friedrich Leopold Count von ...	719	Taylor, William ...	872
Story, Robert Herbert ...	718	Tell-el-Amarna ...	870
Strauss, David Friedrich ...	717	Teller, William Abraham ...	871
Strigel, Victorinus ...	719	Temperance and the Temperance Movement ...	357
Strong, Nathan ...	719	Temple, Friedrich ...	862
Stuart, Moses... ..	713	Temple at Jerusalem ...	213
Sturm ...	713	Temple Society ...	862
Sturm, Johann ...	713	Tendency Theory... ..	413
Stylites ...	806	Tenison, Thomas ...	862
Summers, Thomas Osmond... ..	516	Tennent, Gilbert ...	876
Sumner, John Bird ...	616	Tennent, William... ..	875
Sun and Sun-worship ...	781	Tennyson, Alfred ...	861
Sunday ...	967	Terstegen, Gerhard ...	870
Sunday Schools ...	967	Tertullian ...	870
Supererogation, The Doctrine of Works of ...	1184	Tetrarch... ..	1536
Supernaturalism ...	808	Tetzel, Johann ...	858
Supralapsarianism ...	696	Textual Criticism... ..	414
Susanna, The History of ...	709		

	Page.		Page.
Thaddaeus ...	783	Torquemada (Turrecremata) Thomas de... ..	913
Theiner, Augustin... ..	781	Tower of Babel, The ...	1074
Theism ...	73	Toynbee, Arnold ...	904
Theocracy ...	653	Trachonitis ...	911
Theodore of Mopsuestia ...	848	Tract Societies ...	594
Theodoret ...	848	Tractarians ...	594, 911
Theodosius the Great ...	847	Trajanus, Marcus Ulypius ...	912
Theological Seminary ...	644	Transcendence, Transcendent, Transcendental... ..	808
Theology ...	643	Transcendentalism ...	808
Theresa, St. ...	871	Transfiguration ...	1213
Thessalonians, The First Epistle to the ...	849	Transubstantiation ...	444
Thessalonians, The Second Epistle to the ...	852	Trappists, The ...	911
Thessalonica ...	849	Tregelles, Samuel Prideaux ...	916
Theudas ...	805	Trinity and Triunity, The Divine ...	519
Thirlwall, Connop ...	618	Trithemius, Johann ...	912
Thirty-nine Articles, The ...	623	Troas ...	918
Thirty Years' War, The ...	624	Tübingen School, The... ..	806
Tholuck, Friedrich August... ..	915	Tüloch, John... ..	806
Thomas ...	909	Tunkers ...	918
Thomas Aquinas ...	909	Turkey ...	913
Thomas, The Gospel of ...	910	Turner, Samuel Hulbeart ...	789
Thompson, Joseph Parrish ...	911	Turretini, Jean Alphonse ...	842
Thorndike, Herbert ...	778	Turretini, François ...	842
Thornton, Robert H. ...	779	Twelve Apostles, The Gospel of the... ..	678
Thornwell, James Henley ...	778	Twelve Apostles, The Teaching of the ...	677
Tiberias, The Sea of ...	802	Twelve Patriarches, The Testaments of the ...	678
Tiglath-Pileser ...	849	Twisse, William ...	904
Tille, Cornelis Petrus ...	846	Tyler, Bennet ...	781
Tillemont, Louis Sébastien... ..	826	Tyndale, Willam ...	828, 846
Tillemont, Louis Sébastien, Le Nain De... ..	845	Tyre ...	842
Tilloston, John ...	828, 843	Tzschirner, Heinrich Gottlieb ...	827
Time in the Bible... ..	905		
Timothy... ..	862	U	
Timothy, The First Epistle to ...	863	Ubbonites or Ubbenites ...	174
Timothy, The Second Epistle to ...	868	Ubertinus, de Casali ...	174
Tindal, Mattheu ...	828, 847	Ubiquity ...	1393
Tischendorf ...	908, 844	Ueberweg, Friedrich ...	1395
Tithes ...	678	Ullmann, Karl ...	176
Titus ...	859	Ulphilas... ..	176
Titus ...	859	Ultramontanism ...	176, 1270
Titus, The Epistle to ...	859	Umbreit, Friedrich Wilhelm ...	174
Tobit, The Book of ...	907	Unigenitus ...	174
Todd, Henry John ...	907	Unitarianism... ..	1390
Todd, James Henthorn ...	907	United Free Church of Scotland, The ...	705
Todd, John ...	907	United States of America ...	38
Toland, John... ..	912	Universal Evangelical Protestant Church, The ...	1160
Tolet, Francis ...	917	Universalists... ..	1388
Tolstoi, Count Lyov Nikolaievitch ...	914	Unleavened Feast, The ...	785
Tombes, John ...	841	Ur of Chaldees ...	175
Tonsure ...	845	Urban ...	176
Toplady, Augustus Montagus ...	908	Uriah ...	175
Torah ...	911	Urim and Thummim ...	174

Urspurger, Johann August	Page. 177	Waldo, Peter... ..	Page. 147
Ursula	175	Wales Presbyterian or Calvinistic Methodist Church, The	159
Ursulines	176	Wallace, Alfred Russel	172
Utilitarianism	468	Wallace, Robert	172
Us	174	Wallace, William... ..	172
Uzziah	173	Wallin, Johann Olof	172
V		Walpurga	148
Vadianus, Joachim von Watt	146	Walton, Brian	147
Valdes, Juan de	149	Warburton, William	148
Valens	150	Warburtonian Lectures	148
Valentine, St.	150	Ward, James... ..	148
Valentinian III	150	Ward, Wilfrid Philip... ..	148
Valentinus	150	Wardlaw, Ralph	148
Valerian... ..	150	Ware, Henry... ..	159
Vallombrosa	150	Warham, William	148
Van Dyke, Henry	150	Watson, John	147
Vandals	150	Watson, Richard	147
Vatican, The Palace of	148	Watts, Isaac	146
Vatican Codex	149	Weeks	539
Vatican Council, The	149	Weights and Measures in the Bible... ..	944
Vatke, Wilhelm	147	Weir, Duncan Harkness	144
Vaughan, Herbert	148	Weismann, August	146
Vegetables in the Bible	625	Weiss, Bernhard	145
Veni, Creator Spiritus... ..	167	Weisse, Christian Herman... ..	146
Veronica	167	Weizsäcker, Karl	145
Vespasian, Titus Flavius	167	Weitbrecht, Gottlob Friedrich... ..	145
Vestry	161	Wellhausen, Julius	166
Vicar	158	Wendt, Hans Heinrich	167
Vicarious Atonement, The Theory of	792	Wernz, Francis Xavier	167
Victor	158	Wesley, Charles	165
Vigilantius	158	Wesley, John	161
Vigilius	158	Wesley, Samuel	166
Vincent de Paul	159	Wesley, Susannah	166
Vincent, St.	159	Wesley Endeavour Society, The	166
Vinet, Alexandre Rodolphe	158	Wesleyan Methodist Church	161
Virgin	231	Wessel, Johann	166
Visitants or Nuns of Visitation... ..	158	Westcott, Brooke Foss	159
Vitalian	168	Western Theological Seminary... ..	159
Vitus	158	Westminster Abbey	160
Voltaire... ..	172	Westminster Assembly, The	160
Vow	737	Westminster Standard, The	161
W		Wetzer, Heinrich Joseph	166
Wace, Henry	159	Whately, Richard	1260
Wainwright, Jonathan Mayhew	167	Whicocote, Benjamin	1257
Wake, William	159	Whiston, William... ..	1257
Wakefield, Edward Gibbon	159	Whitby, Daniel	1258
Walch, Christian Wilhelm Franz	148	White, William	1269
Walch, Johann Georg	148	Whitefield, Gerge... ..	1259
Wald, William George	147	Whitegift, John... ..	1258
Waldenses	147	Whitsuntide	759
		Wichern, Johann Heinrich	152

Wicli, John... ..	Page. 151	Wordsworth, Christopher	Page. 169
Wilberforce, Samuel	158	Wordsworth, John	169
Wilberforce, William	157	Wordsworth, William... ..	163
Wilderness of Judaea, The... ..	1386	Works	226, 375
Wilfrid	158	Worms	170
Will... ..	110	Wotton, William	167
Willard, Francis Elizabeth... ..	154	Wundt, Wilhelm Max... ..	177
William, Prince of Orange... ..	154	Wuttke, Karl Friedrich Adolf	174
William, Wykeham	155		
William of Champeaux	154	X	
William of Malmesbury	155	Xavier, Francisco	535
William of Shoreham... ..	154	Ximenes De Césneros, Francisco	1124
William of Tyre	154	Y	
Williams, Isaac	155	Year	907
Williams, John	155	Year of Jubilee, The	1454
Williams, John	155	Young Men's Christian Association (Y.M.C.A.)	344
Williams, Rawland	157		
Williams, Roger	157	Z	
Williams, Samuel Wells	155	Zaccheaus	535
Williams, Sir George	155	Zacharias	535
Williams, Sir Mouier Monier	157	Zadok	538
Wilson, John	157	Zanchi, Hieronymus	539
Wilson, Thomas	157	Zarephath	518
Winbrennerians	153	Zealots	773
Wirer, George Benedict	154	Zebedee	773
Wisdom Literature	807	Zebulun	773
Wisdom of Jesus, the Son of Sirach or Ecclesiasticus, The	636	Zechariah	535
Wisdom of Solomon, The	780	Zechariah, The Book of	535
Wiseman, Nicholas Patrick Stephen	146	Zedekiah	771
Wishart, George	152	Zeisberger, David... ..	828
Wishart, George	153	Zell, Matthäus	834
Witherspoon, John	151	Zenon (Zeno) of Cyprus	834
Witsius, Hermann	153	Zenon (Zeno) of Elea	834
Wodrow, Robert	168	Zephaniah	772
Wolf, Christian	169	Zephaniah, The Apocalypse of	773
Wolf, Johann Christoph	170	Zephaniah, The Book of	772
Wolf, Joseph... ..	170	Zerubabel	772
Wolfenbüttele Fragments	170	Zidon	578
Wolleb, Johannes... ..	172	Zimri	828
Wolsay, Thomas	168	Zinzendorf, Nicolas Ludwig, Count von	829
Woman	1540	Zion... ..	565
Woods, Leonard	174	Zionist Movement, The	566
Woods, Leonard, Jun	174	Zionists	534
Woolstone, Thomas	177	Zollikofer, Georg Joachim... ..	834
Worcester, Samuel	168	Zschokke, Johann Heinrich Daniel	827
Wordsworth, Charles	169	Zwingli, Huldreich or Ulrich	830
Wordsworth, Christopher	169		



明治四十四年十一月十日印刷

基督教大辭典與附

明治四十四年十一月十三日發行

定價金拾五圓

著者 神學博士 高木 壬太郎

發行者 東京市京橋區尾張町二丁目十五番地 福永文之助

印刷者 橫濱市太田町五丁目八十七番地 村岡平吉

著作權所有

印刷所 橫濱市山下町八十一番地 福音印刷合資會社

發行所 (電話新橋一五八七 振替貯金東京五五三) 東京市京橋區尾張二丁目十五番地 警醒社書店

同 東京市本郷區春木町二丁目二十三番地 警醒社支店

大賣捌所

大 阪 市 北 久 寶 寺 町 福 音 社 書 店
神 戶 市 元 町 通 龍 川 筋 福 音 社 書 店
橫 濱 市 壽 町 龜 ノ 橋 通 福 音 社 書 店

8.9.25

12518

7328
DAM

273
28

R190.3
TA 29

終